

宗方小太郎日記，大正5～6年

大里 浩 秋

1. はじめに

本所報 No. 37 に宗方小太郎の明治21年の日記（但し中国滞在時期のもののみ）を載せ、No. 40 に22～25年、No. 41 に26～29年（但し27年6月27日から12月末までと、28年3月23日から8月末までを除く）、No. 44 に30～31年、No. 46 に32～33年、No. 47 に34～35年、No. 48 に36～38年、No. 49 に39～40年、No. 50 に41～42年、No. 52 に43～44年（但し43年の欧米旅行時期を除く）、No. 54 に45（途中で大正元年となる）～大正2年、No. 55 に3～4年の日記を載せた。今号ではその続きとして、大正5～6年の宗方の手書きの日記を活字に起こすとともに、解題を付すことにする。

前回までと同じであるが、お断りすべきことをいくつか記す。解読できなかった文字は□で示したが、その大部分は原資料を撮影する際の不手際により不鮮明な文字が生じたため、今後補充を期したい。また原文のカタカナは、西洋の固有名詞や外来語の表記を除いてひらがなに改め、漢字の旧字体は新字体に改め、適宜句読点を加えたが、日本人の名前の漢字は原文のままにした。私が付す解題中での原文の扱ひも同様である。日記の解読と入力作業は、本学中国言語文化修士課程修了（文学修士）の増子直美さんに手伝ってもらった。

2. 大正5年1月から12月までの日記

大正5（1916）年の日記は、この1年分が一綴じになっている。

前年10月に日本から上海に戻ってそのまま新年を迎え、9月中旬に帰国するまでを上海で過ごした。その間ほぼ毎日「弓術を修め」、時間を見つけては狩猟に出かけているエネルギーには感心するしかないが、本業としては、海軍・陸軍・領事館の関係者、上海在住の日本人と日を置かずに会っているのは、以前と変わらず、さらに前年秋以来の袁世凱帝政実施を反映してか、多くの中国人と会っていることが知れる。元旦に姚文藻、呉学廉と会い、姚一人にはその後も繰り返し会い、時に鄭孝胥などを交えて会うなど、清朝宣統帝の復位を狙う宗社党のメンバーと顔を合わせるが多いのはそれ以前から見られることだが、4月初めには姚文藻の案内で、張勳の使者王宝田や恭親王の使者劉廷琛などと海軍の軍人を交えて「時事を商議し」ているのである（4月6日）。日本の軍人を加えて謀議している気配であり、その気配はその後に続く。また山田純三郎の同道で、宗方の表現（海軍宛報告第451号）を使うと「革命党」の陳其美、蔣介石らに会っている（1月20日、2月18日）。また、4月下旬から6月初めには数回、メンバーの入れ替えがあるものの孫洪伊、谷鍾秀、殷汝驪、徐仏蘇ら、宗方の表現では「進歩党及国民党穩健分子」に属するメンバーに会っている。こうして、「帝制問題に強硬手段を取ることに確定」した（1月10日の日記）とする日本政府の方針とも歩調が合うように、各派の意見を聴取

して彼らの動きを時々の海軍への報告にまとめていったものと思われる。

それと並行して、袁世凱帝政に反対する人物や各地討袁軍の動きが時折日記に記されている。例えば、「梁啓超、湯覚頓等七人広西に向ふ」(3月4日)、「広東省は本日独立を宣言し……」(4月7日)のように。また、「革命党」の中心人物だった陳其美が袁世凱配下の者に山田純三郎宅で暗殺される事件が起こった(5月18日)。この事件に関しては、宗方は翌々日山田宅を訪ねて「陳其美横死の見舞いを述べて」いる。ところが、6月7日の日記には「午前袁世凱病死の電報有り」と書き、その後は情勢の急転にどう対処するかで各派が集まる席に宗方が顔を出すことになる。そんな折、6月11日には姚文藻から馮国璋、張勳ら「聯合の宣統復辟の計画已に成立し本月十五日に事を挙ぐべし」の情報が伝えられ、すぐに海軍あてに通知した。ところがこの計画は実施に至らず、翌年7月になって実施されるのである。ここで、孫文との出会いに触れるならば、討袁の動きが高まっているさなかの4月27日に廖仲凱、張繼、宮崎滔天らを伴って横浜から上海に向かい、陳其美暗殺・袁世凱病死の頃には上海にいたはずだが、宗方の日記に登場するのは7月2日に山田宅で会ったことから、7月20日には「支那上下両院議員」、23日には有吉領事、25日には黄興の招宴の席で顔を合わせ、28日には孫文本人の招待があってそこに参加している。また、梁啓超の招宴にも顔を出している(9月10日)。

他に上海滞在中の出来事をいくつか拾うと、漢口樂善堂の仲間である井深彦三郎の計報が届いた(4月5日)。宗方が社長を任ずる東方通信社には、毎日顔を出しているのではなく、時折寄る程度であることや、同社が開いた「日支新聞記者午餐会」に出席していることは日記からうかがえるが、有吉領事とその拡張の件を相談し(5月1日)、その結果北京支社を置くことが決定したとする(11月28日)。東亜同文書院に関連した動きとしては、時々日本からやってくる根津一にそのたびに会ったり、亡くなった学生の追悼会に出たり、卒業式に出席したりして、密接な関係が維持されており、さらに根津と一緒に同文書院の新築工事を見に徐家匯に出かけていることがわかる(6月24日)。また、大谷光瑞とは9月初めに宴会の席で2度顔を合わせ、8日には杭州に向かう大谷を駅で見送っている。

9月12日に上海を離れて14日に長崎に着いてからは、まず熊本に2週間滞在した後に上京した。東京に着くとすぐに、「大正三四年戦役の功に依り勲四等に叙せられ瑞宝章を賜」ったという(10月5日)。大正3、4年の戦役が何を指しているかといえ、3年には日本軍がドイツ軍を青島から追い出す戦闘があり、その延長で4年には袁世凱政府を相手に二十一か条要求を認めさせる交渉があったが、とくに前者については、それまでの日中間の戦闘時のようには宗方の出番はなかったように筆者には思えたが、3、4年とセットで功績があったというのであれば、前者・後者を含めて彼の情報や中国に対して強気の方針提起をしたことが評価されてのことだと考えるしかなさそうである。10月29日には、京都若王子で持たれた「故荒尾精氏の贈位奉告祭と建碑式に列」した。頭山満、根津一など百余人が参加、その中には宗方の他にも中西正樹、荒賀直順、田鍋安之助、山内崑など漢口樂善堂の仲間を含んでいた。また、孫文と並び称される辛亥革命の指導者黄興が10月31日に上海で病死し、日本では11月17日に「弔祭」が芝青松寺で開かれた際は、宗方は「事を以て行か」なかった。

その後12月16日には上海に戻り、また多くの日本人に会っているが、その中には孫文とともに4月末以来上海に滞在していたと思われる宮崎滔天も含まれる。中国人では姚文藻と相変わらず会っている他、孫文とは28日に譚人鳳、于右任、胡漢民らとともに会っている。なお、この年も海軍からの手当てを3か月ごと計900円、外務省からはひと月ごとに200円を得ている以外に、海軍から2度特別機密費としてそれぞれ300円と500円を支給されている。

次に、この年に宗方が書いた海軍あての報告の号数と日付を、『宗方小太郎文書』(原書房、昭和50年、以下『文書』と略称)のそれと対照しつつ日記から拾い出す。

1月13日、第448号「雲南独立当時の情況」(『文書』の日付は1月14日)、1月20日、第449号

「支那の動乱」, 上海社会科学院歴史研究所所蔵 (以下「上海」と略称), 2月11日, 『文書』には日付がない第450号「袁世凱の対時局策」があるが, この時に該当すると思われる。2月28日, 第451号「上海に集合せる帝制反対派」, 3月10日, 第452号「支那の時局と四將軍の聯盟」, 3月29日, 『文書』にはないが, この時書かれたのはおそらく第453号に当たる。5月6日, 第454号「支那時局の紛糾」(『文書』の日付は5月5日), 5月26日, 「南京會議の報告を發す」とあるが, 『文書』にはない。おそらくは第455号に当たる。6月1日, 第456号「南京會議の真相」(『文書』の日付は5月30日), 6月17日, 第457号「袁世凱日常の起居と臨終の情況」(『文書』の日付は6月16日), 7月1日, 第458号「南北の確執」(『文書』の日付は6月29日), 7月14日, 第459号「袁死後政界の混亂」, 8月9日, 号外「支那時局概要」, 8月11日, 第460号「張勳列李烈鈞討伐の通電」(『文書』の日付は8月10日), 8月21日, 号外「軍閥跋扈と復辟」, 9月7日, 第461号「張勳等の通電」(『文書』の日付は9月6日), 日記には記載がないが, 『文書』には12月23日, 第462号「支那の政局」がある。12月31日, 第463号「杭州の政変」。

正月一日 陰。前九時波多と同車有吉, 藤村に抵り賀正。転じて鈴木, 中島, 上海日報を歴訪。正午俱樂部の名刺交換会に出席して帰る。午後眞島, 島田, 井手, 賀来, 佐々布, 並に小幡書記官, 鈴木, 中島両武官, 西本, 西田来談。夜に入て去る。内外知人の年賀状数十通に接す。青木, 神崎, 同文書院出身者, 其他賀正の客頗多し。夜姚文藻の信至る。晩食後出て之を訪ひ, 共に車を駆て呉学廉〔濂〕を外虹口に訪ふ, 在らず。波多を訪ひ小談帰る。呉学廉, 姚文藻来訪。夜更去。

正月二日 陰。北京増田, 吉田両大佐, 亀井陸良に発信す。是日より杭州に出獵を約せしも時局の為に中止す。午前同文書院より今井邦三宅に至り其病を訪ひ, 去て佐々布, 中島, 波多, 篠寄を歴訪, 神尾の病を篠寄医院に見て帰る。山成来訪。安部政次郎, 波多等来訪。年賀状を認む。

正月三日 陰天。是日山成と近郊に出獵の約有り, 事故を以て行て辞す。村上, 神崎, 平岡, 山本を列訪し, 弓術を修め帰る。正午北京会に俱樂部に出席す。小幡を主賓とし中島, 鈴木, 西田, 波多, 津田, 佐原等同座たり。撮影, 会食, 三時散ず。島田来訪。夜年賀状百余通に答ふ。

正月四日 半晴。海軍田中大佐の信至る。前九時半小幡書記官の帰国を送り, 弓術を修め, 去て齋藤延の病を佐々木病院に訪ひ, 帰途佐原を訪ふ。午後井手照人来訪。各地より年賀状至る, 之に答ふ。鈴木大尉来訪。新橋栄次郎来訪, 北京より来着せる者也。浮田郷次来訪, バタバヤより賜暇帰朝の途次立寄りし者にて, 明朝出發すと云ふ。

正月五日 陰。九時浮田の帰国を熱田丸に送る。鈴木海軍々医大監に邂逅す。二十年前の知人なり。帰途山口啓三, 渥美育郎を訪ふ。午後弓術を修め, 河野久太郎を豊陽館に訪ふ。本日北京より帰来せし者也。浴後新橋と談ず。夜姚来訪。

正月六日 微雨。午前有吉を訪ひ, 去て弓術を修め帰る。午後平岡, 波多, 中島等を訪ふ。中島来訪。岡幸七郎の信, 並に東京宅の信に接す。夜中野二郎の東道にて新橋, 佐原, 西田, 中島等と六三亭に会食, 九時帰。各地よりの年賀に答ふ。

正月七日 雨。午前新橋, 寺中猪介, 波多来訪。午後弓術を修む。河野久太郎来訪。夜姚文藻来訪。

正月八日 雨。海軍に発信す。午前波多を訪ひ, 理髮後新橋招待の午餐会に俱樂部に列し, 二時半帰る。七時順濟公司河野久太郎, 管祥麟, 葉昌燾等の招宴に横樓路の管宅に赴く。同座は有吉, 並に各支店長, 支那新聞記者を合せ日支人三十余人。十時散ず。内人並に菅村夫人の信至る。新橋栄次郎来訪, 是日北京に帰る者なり。

正月九日 陰。午前新橋来訪, 出發延期, 今夕北行の事を告ぐ。書院学生鐵尾勝三, 平尾精一郎来訪。午後弓術を修め, 河野久太郎を訪ひ帰る。本人今夜北京に赴く者也。山田純三郎, 副島綱雄来訪。夜佐々布, 新橋来訪。内人, 清子の年賀状至。

正月十日 快晴。午前葉室に致書、並に内外知人の年賀状に答ふ。波多来訪。松壽雀男の信至る。午後弓術を修め、鈴木、中島を訪ひ、去て郷田少佐を豊陽館に敲き小談帰る。郷田は福州より来りし者なり。夜鈴木大尉の招宴に六三亭に赴く。同座は郷田、中島、山田純等なり。九時帰。波多来訪。田鍋の信至る。日本政府の対支方針決定し帝制問題に強硬手段を取ることに確定せりと云ふ。姚文藻来訪。

正月十一日 陰。午前日清汽船会社に木幡を訪ひ、帰途有吉を領事館に敲き小談、弓術倶楽部に至り、正午帰る。姚文藻を訪ふ。午後寺中猪介、波多、佐原、渡辺等来訪。小笠原の信至る。

正月十二日 晴。午前弓術を修め、中島、波多を訪ふ。午後四時波多と仏租界に山田純三郎を訪ひ其の獵犬一頭を貰受けて帰り、之を波多宅に飼ふ。

正月十三日 快晴。朝波多より犬走失の報有り。午前波多を訪ひ、去て弓術を修め帰る。午後島田を訪ふ。松本君平来訪せりと云ふ。波多来訪。新嘉坡江崎眞澄、露都上田仙太郎等に致書す。海軍に報告を發し、田中大佐に致書す。

正月十四日 健晴。午前弓術を修む。午後松本君平、波多、中島少佐前後来訪。呉学廉来訪。夜平岡来訪。

雲南、貴州の討袁軍四川に並進し、雲南よりする者は叙州府を占領し、貴州よりする者は綦江県を取り、涪州に向て進軍中との電報に接す。

正月十五日 晴。午前弓術を修め、佐々布、波多を訪ひ帰る。四時より波多と戈登路の工部局犬收容所に至り前日走失の獵犬を物色して之を獲、銀五元を納め受取て帰る。夜姚文藻来訪。熊本鳥居、井手、松倉、右田の信片、並に八角少佐の信至る。中川淳、小村俊三郎の紹介にて来訪。本日午前松本君平を東海旅館に訪ふて小談。

正月十六日 晴天。日曜日。八時半佐々布、水谷等と会し江湾附近に獵し、獲る所無し。三時半帰る。四時西田龍太の追悼会に東本願寺に列席し、五時帰る。白岩龍平来訪、昨漢口より帰来せりと云ふ。

正月十七日 晴。午前西本来訪。共に出て波多を訪ひ小談、理髪して帰る。午後中川淳、波多来訪。三時有吉を訪ひ小談、弓術倶楽部に至り、五時帰る。中川の為に鳥居に紹介状を作る。竹崎春照、宇野哲人の信至る。神尾茂、野々口某来訪。夜姚文藻来談。

正月十八日 晴。午前波多に抵り犬の訓練を為し、去て姚文藻宅に至り南京道尹胡嗣瑗晴初と会見せんとす。待つ之を久ふして至らず、正午帰る。午後胡、姚来訪。松本君平、神尾茂前後来訪。三時弓術を修む。夜報告を作り、午前三時就寝。

正月十九日 晴。午前波多を訪ふ。午後鈴木大尉、秦来訪。出て弓術を修む。松空岩彦、児玉篁南、高尾亨の信、並に西田龍太の訃至る。

正月二十日 晴。海軍に報告を發し、外八角少佐に復書す。波多の処に朝食、去て弓術を修め帰る。午後白岩を訪ふ。六時より山田純三郎の約に赴く。支那料理の饗有り。同座は中島、鈴木、陳其美、蔣介石、呉忠信等なり。十一時散ず。

新嘉坡に在りし岑春煊是日より上海通過、日本に赴く。孫文に会見の為なり。梁啓超も或は之に会するに至るべし。雲南獨立軍に在りし方声濤も本日日本に赴けり。

神尾、中島、神崎前後来訪。

正月二十一日 朝微雨、少時にして放晴。午前弓術を修め、正午テンドーにて諏訪丸に至り青木中将宣純、松井中佐石根を迎ふ。篠寄亦本船にて帰来。午後日下少佐操来訪。緒方二三、迎英輔等の信至る。夜姚文藻、汪鍾霖、松井石根来訪。

正月二十二日 雨。北京増田大佐、並に熊本緒方列に時局報告の写を送る。午前鈴木大尉、波多を訪ひ、弓術を修め、日下少佐、中島、鈴木を訪ひ帰る。青木中将、松本君平来訪。夜神崎、佐原来訪。田鍋、齋藤少佐、長江の信至る。夜に入て大雪。

正月二十三日 雪。田鍋、齋藤に復書し、東京留守宅に致書す。午前大倉喜七郎を豊陽館に訪ひ小談、

- 去て弓術を修め帰る。午後大倉，神尾，波多来訪。晩大倉の招宴に六三に赴き，九時帰。
- 正月二十四日 晴。村松岩彦，浦六郎，長江虎臣，松崎崔雄に復書す。午前青木中将を倶楽部に訪ひ，去て篠寄を敲き小談，弓術倶楽部に至り，正午帰る。升允に姚等の書信を転送す。
- 正月二十五日 晴。午前理髮，弓術倶楽部に至り，去て大倉喜七郎，日下少佐を豊陽館に訪て帰る。午後西本，三澤信一来訪。北京増田高頼，奉天坂田長平の信，並に中島真雄母堂の訃至る。夜波多，佐々布来訪。
- 正月二十六日 晴。午前弓術を修む。午後秦長三郎，中島真雄に其母堂の逝去を弔するの信を發す。中島少佐来訪。夜佐々布を訪ふ。平岡来訪。
- 正月二十七日 晴。午前犬を竹田の処に預く。弓術を修て帰る。海軍に發信す。藤村義朗より案内状至る。午後波多，中島少佐，柴田大尉来訪。柴田は北京に赴任する者なり。入浴後三澤を訪ひ，六時半秦長三郎の宴に赴く。同座は三澤，白岩，澤本，土井，青木等なり。十時散ず。
- 正月二十八日 晴。波多来訪。午前柴田大尉を松崎に訪ひ共に出て中島少佐を訪ひ，去て弓術を修む。
- 正月二十九日 陰。午前竹田の処に至り犬を看，転じて弓術倶楽部に至り，正午帰る。高杉良弘来訪，英国より帰途也。中西正樹，田中慶三郎来訪。中西は今朝青島より来着せりと云ふ。田中は東京升允の書信を托され来る。中西と中食を共にし，出て青木中将を訪ひ小談。去て姚文藻を訪ひ，四時帰る。篠寄来訪。亀井陸良，野満，黒井中将の信至る。姚に信片を發す。
- 正月三十日 晴。午前河野，中西を豊陽館に訪ふ。河野は昨日北京より帰来せる者也。去て弓術を修め，中島少佐を訪ひ帰る。午後島田，山田純，姚来訪。姚を伴ひ青木中将に紹介す。木幡恭三来訪。神寄，賀来来訪。
- 正月三十一日 半晴。午前波多来訪。出て藤村を三井に訪ひ来月二日の招宴を辞す。南京行の約有るを以て也。佐々布を訪ひ小談，弓術を修め帰る。中村，友野来訪。増田大佐の信至る。神寄来訪。中川淳，並に内人の信至る。山村医士，井芹の添書を携へ来訪。
- 二月一日 半晴。午前波多来訪，共に出て河野，柴田大尉，大倉喜七郎，中西を訪ふ。弓術を修め，理髮して帰る。午後佐々布，姚，鈴木来訪。出て竹田の処に至り，帰途波多，佐々布を訪ふ。内人に復書す。柴田大尉，本間文彦来訪。夜竹田，島田，松本君平来訪。明日より南京に出獵せんとす，獵装を治す。海軍に發信す。
- 二月二日 晴。午前竹田，山成来訪。正午食事，零時半獵装，車站に赴き佐々布に会し南京行の汽車に乗ず。一時五分開車，海津，佐藤，高田等同車たり。七時南京着，城内鐵道に換坐，督署車站にて下車，八時半石板橋の宝来館に投ず。入浴後食事を終り獵装を理し，十一時就寝。
- 二月三日 半晴。前六時起床，食後上車南門外に至り下車。雨花台を越へ花神廟に至り獵区に入る。十一時今朝来着の石寄，水谷，三田，柳谷，平岡等と相会し，山中にて午食す。午後雨，南門外に至り上車，帰寓。衣袂皆沾ふ。山鳴一羽，鳩一羽を獲たるのみ。
- 二月四日 微雨。晌午雨を冒して雨花台附近に獵し鳩一羽を得，五時帰。是夜平岡，柳谷，三田三人常州に向て去る。
- 二月五日 雨。前八時秋元中佐来着，会談，漢口に赴任する者なり。晌午宿処宝来館を出て督署車站に至り上車下関に赴き，午後一時の急行にて發す。賀来等同車たり。三時鎮江着，小平元等一行の獵友五六人此より乗車，四時常州を過ぐ。平岡，柳谷等上車，七時半上海着。内人の信に接す。台湾總督府海軍參謀長秋澤大佐来訪。森山海軍少将より菓子，佃煮，干鯉三箱を贈り来る。
- 二月六日 微雨。岡幸七郎の信至る。秋澤大佐来訪。午後三澤来談。出て平岡を訪ひ干鯛を贈り，去て波多，中島を訪ひ，弓術を修め帰る。三田来訪，毛皮一枚を贈る。
- 二月七日 陰。朝秋澤大佐来訪。森山少将に致書。午前有吉領事を訪ひ小談，去て中西を訪ふ，在らず。弓術を修め帰る。山田純，小幡西吉の信至る。午後木幡恭三来訪。夜島田，石橋藤次郎，中島少

佐，神壽来訪。秋澤を訪ひ小談帰る。内田友義，野満四郎の信至る。是日晌午青木中將を倶楽部に訪ふ。

二月八日 陰。午前弓術を修め，帰途中西，波多を訪ふ。成松の信至る。午後波多来訪，領事館より正月分外務省手当を受取る。野満並に東京宅に復書す。内田友義に復書す。岡幸七郎に致書。中西正樹，秋澤大佐，波多来訪。夜秋澤と中島少佐宅の招饗に赴く。佐原外二人同座たり。十時帰る。

二月九日 陰。朝山成来訪。午前理髮，弓術を修めて帰る。午後神壽，山田純，秋沢大佐，中島少佐，波多来訪。日清汽船会社の招宴に六三亭に赴く。青木中將，松井中佐，中島，鈴木，佐原，白岩，木幡等主客八人たり。九時半散ず。

二月十日 陰寒。朝波多来訪。午前弓術を修め，石橋藤次郎を大倉に訪ひ帰る。秋澤大佐来訪。熊本人古賀栄勝，山本進次郎，小早川の紹介にて来訪。午後二時秋澤の香港行を送る。福州天野恭太郎の来着を聴き之を訪ふ，在らず。東京宅に金二百円を郵送す。姚文藻，神尾来訪。

二月十一日 快晴。紀元節。午前山成，天野恭太郎来訪。天野は吉林に転任する者なり。八角少佐，古屋勝太郎の信至る。海軍に報告を發す。内人に致書。石橋の帰京に托し磁器三点を留守宅に托送す。午後中西正樹，波多，三木勉来訪。是日山成，石壽と杭州に出獵せんとす。一時半南門車站に至り三時半の汽車にて發す。七時杭州着。拱宸橋行に換坐，七時半着。大方棧に投宿。夜出て郵便局に至り岩崎博，辻を訪ひ小談，帰。

二月十二日 快晴。前七時半艮山門に至り「ヤブサ」附近を獵し，六時拱宸橋の寓処に帰り，上車郵便局に至り入浴，晚餐の饗を受け十時辞帰。是山鷓二羽，鳩一羽を獲たるのみ。

二月十三日 健晴。前七時半大方棧を出て大関，東新関一帶に獵し六時帰。雉子二羽，竹鷄二，鴨一，鶉一を獲たり。飯莊に至り晩食す，味極て美。瀬上恕治，辻来訪。大東薬房西川の処に至り入浴，十時帰。

二月十四日 快晴。朝七時大方棧を出，艮山門に至り上海行の急行に乗り十二時半着。石壽と分手，山成と馬車を賃して帰る。細川興増男，日下中佐操，有安，古閑信夫の信に接す。山田修作，賀来敏夫来訪。賀来は明日より福州に赴くと云ふ。夜波多，佐々布来訪。八角三郎の来着を聞き，出て之を訪ふ。升允の信に接す。

二月十五日 晴。午前古賀栄勝，山本進次郎来訪。午後中西正樹，波多，神壽，澤本来訪。軍令部山岡大佐より海苔一缶を贈り来る。中島氏に至り晩食す。八角同座たり。九時佐原を訪て帰る。

二月十六日 晴天。午前島田来訪。出て弓術を修む。午後森恪，佐原，田中慶三郎，神尾来訪。池村祐信の信至る。井手三郎の電報に接す。中西正樹来訪，六時共に出て波多の処に至り杭州にて獵獲物を会食，九時帰。

二月十七日 微雨。長沙松壽の信至る。午前八角少佐来訪。共に出て姚文藻を訪ひ，三人同車鄭孝胥を南陽路に訪ふ。李経義〔義〕来会時事を暢談し，正午帰。風邪の気味有り出て理髮す。夜藤村義朗の招宴に六三亭に赴く。八角，中島，山田純，塚原，佐原同座たり。九時帰。

二月十八日 陰。午前中西の青島に帰るを豊陽館に送り，帰途弓術を修め，佐々布，波多，中島を訪ふ。内人の信，並に北京野満，牛島の信片至る。神尾，石射来訪。石射は同文書院出身にて領事官補として広東に赴く者也。午後一時海軍兵曹某の葬儀に本願寺に列す。食後中島の処に陳其美，蔣介石，呉忠信，八角，山田純等同座にて支那料理を会食し，十一時帰。

二月十九日 陰。海軍に書信を發す。午前弓術を修め，島田を訪ひ帰る。山岡大佐，細川興増男に復書す。杭州岩崎博，長沙松壽に致書す。内人，岡西門，秋元勢蔵の信至。島田来訪。夜出て鳳陽丸に至り，八角三郎に名刺を留め帰る。今夕漢口に赴くを以て也。篠壽来訪。

二月二十日 雨。日曜。午後二時藤村義朗宅に至り青木中將，松井，白岩等と会し時局問題を商議し，五時半帰る。平岡，山成等来訪せりと云ふ。

- 二月二十一日 陰。午前姚来訪。午後波多来訪。井手三郎に致書す。島田，神寄来訪。加藤大佐壮太郎，鳥居赫雄，同文会，有留の信，並に藤村よりの案内状至る。夜篠寄来訪。
- 二月二十二日 雨。午前島田来訪。午後平岡来談。前日来風邪の気味有り。左腰微痛を覚ゆ。
- 二月二十三日 陰。午前島田来訪。午後根津同文書院長を訪ふ。一昨帰来せる者なり。暢談，去て今井邦三の病を問ひ，弓術倶楽部に至り，帰途中島を訪ふ。中島，波多来訪。六時藤村義朗の邀宴に其の宅に赴く。青木中将，松井石根，鈴木美通，白岩，佐原，西田，幡生，江原等，並に婦人連同座たり。九時半散ず。
- 二月二十四日 陰。午前弓術を修め，篠寄，島田を訪ひ小談，帰る。狄楚青来訪。岡幸七郎，田中大佐耕太郎，野満の信至る。午後中川淳，八田，佐々布，山田修作，島田来訪。夜平岡宅の鯛飯会に出席す。同坐は永末船長，西本，安河内等也。九時半帰。雨。澤本来訪。
- 二月二十五日 陰。午前弓術を修め，波多を訪ひ帰る。午後島田来訪。
- 二月二十六日 半晴。午前理髮。正金に児玉を訪ひ上海日報社借款の事を商量し，去て島田を訪ひ，弓術を修めて帰る。狄葆賢，根津一，島田，甲斐来訪。書院生字治田直義，外一名来訪。夜六時半青木中将の招宴に六三亭に出席す。主客二十余人。十時散ず。
- 二月二十七日 陰。日曜。午前十時同文書院已故学生の追悼会に倶楽部に出席し，晌午帰。午後神尾来訪，共に出て青木中将を法租界を訪ふ，在らず。帰途白岩を訪ふ，亦在らず。松寄雀雄，古閑信夫の信至る。神尾，波多来訪。夜橋三郎来訪。今夕来着すと云ふ。
- 二月二十八日 雨意。海軍に報告を發し，外に増田大佐，香月，鳥居，加藤壮太郎，成恣，古屋に致書し，別に東京留守宅に発信す。正金銀行に対し上海日報社一千元借款の保証を為す。是日外務省手当二百円を受取る。午前郵便局より豊陽館に至り，橋三郎を訪ひ，弓術を修め帰る。田鍋に新聞切抜を送る。有安に復書す。波多来訪。内人，井芹，野満の信至る。
- 二月二十九日 半晴。東京宅に金百九十円を滙送す。午前弓術を修め，波多を訪ひ帰る。午後甲斐友比古，東則正来訪。神尾，西本来訪。七時澤本宅の小集に赴く。根津，白岩，青木，秦，三澤，土井，河西信同座たり。十時散ず。
- 三月一日 快晴。午前木下来訪。井手，井芹に致書す。八角少佐三郎の信至る。晌午弓術を修む。午後中島少佐，姚文藻，秦，並に書院学生柳瀬清来訪。姚より升允の家族に送るべき銀二百五拾元を受取り，波多に托し為替にて北京正金実相寺の処に送致の手續を為す。
- 三月二日 晴。午前弓術を修め，去て有吉，白岩を訪ひ帰る。午後波多来訪。秦寄雀雄，野満の信至る。神尾来訪。橋三郎来訪，今夕漢口に帰ると云ふ。
- 三月三日 陰。実相寺貞彦に北京富姓に送るべき升允よりの依托金二百四十七元余を滙送す。午前弓術を修め，波多を訪ひ帰る。午後浦上某，若林の添書を携へ来訪。若林に致書す。
- 三月四日 陰。小池政務局長，池村祐信に致書す。午前理髮，弓術を修め，去て白岩夫婦の帰国を筑後丸に送り，帰途実業協会を訪ふ。田中大佐に報告を發す。内田友義，景山長次郎の信片至る。石射猪太郎広東よりの信に接す。夜波多，平岡来訪。是日梁啓超，湯覚頓等七人広西に向ふ。
- 三月五日 快晴。前九時より佐々布と江湾附近に獵す。獲る所無し。三時帰る。五時半より佐々布の処に至り晩食，九時帰る。
- 三月六日 半晴。午前中島少佐を訪ひ，去て弓術を修め帰る。午後姚文藻を訪ひ小談帰る。陸軍少佐，島田良一，明石中将，小早川秀雄の紹介刺片を携へ来訪。漢口駐屯軍に赴任する者なり。井手三郎，増田大佐，佐野満四郎の信至る。狄楚青来訪。松寄雀雄の信至る。神尾，波多来訪。
- 三月七日 雨。田中大佐，小早川秀雄に致書す。午後竹田の処に至り，去て弓術倶楽部に赴き，四時帰る。松井中佐来訪。
- 三月八日 晴。午前弓術を修め島田を訪ひ帰る。井手照人，西山武八，篠原祐喜，狄葆賢来訪。鳥居，

速水、内田友義の信、並に海軍より四、五、六、三ヶ月分手当九百円を送り来る。海軍に領収証を發す。狄に致書す。夜神寄、中村来訪。

三月九日 陰。午前根津氏を同文書院に訪ひ送別、本日帰国するを以てなり。去て弓術を修め帰る。午後三澤信一、神尾、波多前後來訪。夜三木来訪。三澤を訪ふ。本夕北京に赴くと云ふ。

三月十日 雨。鳥居、速水に復書す。午後井手照人、佐々布来訪。姚文藻亦来談。海軍に報告を發し、外に内田友義、松寄雀雄に致書す。郵船石井より案内状至る。夜郵便局に至り八時帰る。

三月十一日 晴。午前井手照人来訪。出て弓術を修め、上海日報に島田を訪ひ、正午共に出て日報社の招宴に杏花楼に出席す。午後三時散ず。平岡を訪ひ帰る。池部雀彦より巖君の訃音至る。外に鳥居、狩野、古城合作の信片京都より、並に高木陸郎、姚文藻、軍令部の信至る。西本来訪。實相寺貞彦の信至る。井手三郎に致書す。内人の信至る。夜篠寄、姚、汪来訪。

三月十二日 陰。日曜。前七時半の汽車にて平岡、柳谷と崑山城外に猟し鶉二羽を獲、三時二十分の汽車にて帰途に就き、四時半着。夜神尾、佐々布、波多等来訪。郷田少佐漢口よりの信至る。辻定吉来訪せりと云ふ。

三月十三日 晴。満鉄の便船に托し旅順内田友義に洋服数着を送る。午前理髮。去て有吉、佐原を訪ひ帰る。午後中島、波多を訪ひ、弓術を修む。井手三郎、香月梅外、野満の信至る。山田純三郎来訪。升允に致書。夜郵船会社石井徹の招宴に俱樂部に赴く。来会者三百人。八時半帰る。

三月十四日 陰。朝羅振玉父子来訪。昨日京都より来着せりと云ふ。午前篠寄を訪ひ小談。弓術を修めて帰る。西本、山田純来訪。北京實相寺貞彦に信片を發す。夜波多来訪。

三月十五日 陰寒。池部雀彦に弔詞を發す。升允の信を長沙松寄に托し郭葆生に致す。内人に復書す。神尾来訪。増田、秋沢芳馬両大佐の信至る。増田に報告写を送る。午前領事館に村上義温を訪ひ辞別す。其今夕の船にて米国に転任するを以てなり。夜山田昇、汪甘卿来訪。青木中将より十七日の案内状至る。

三月十六日 晴。早朝神尾茂来て別を告ぐ。本日の便船にて一時帰国すと云ふ。午前山田純三郎に致書。弓術を修め実業協会を訪ひ帰る。午後六時半より石井徹の送別会に俱樂部に出席。八時半帰。廣西の陸榮廷昨十五日に独立を宣言せり。

三月十七日 快晴。田中大佐に致書。午前弓術を修めて帰る。午後波多来訪。東京鷺沢與四二に致書す。晚青木中将宣純の招饗に日本人俱樂部に赴く。同座は松井石根、鈴木美通、神寄、佐原、波多、中島、島田、柏田、奥村政雄、西田、西本等なり。十一時散ず。

三月十八日 快晴。朝波多を訪ひ、十時其の帰国を博愛丸に送り、弓術を修めて帰る。午後佐々布、辻一蔵、西田畊一、平岡小太郎前後來訪。夜賀来敏夫来訪。井手三郎、松寄雀雄、野満四郎の信至る。

三月十九日 雨。午前島田数雄来訪。晌午山田純三郎、邵從梧招待の民国日報披露宴に山田の宅に赴く。島田、佐原、西田、奥村、甲斐、中島、興津、西本、齋藤和、並に主人側にては主筆葉楚傖、邵從梧、及中法日報主筆韋某、外二三人同座たり。四時散ず。八田、古賀榮勝、島田良一少佐来訪。夜佐々布来訪。

三月二十日 陰。朝島田少佐来訪。午前弓術を修て帰る。午後加悦敏来訪、本日着雲南に赴く者也。中川淳来訪。吉見の信至る。夜姚文藻来談。雨。鳥居、田鍋の信、並に井手三郎の電報至る。

三月二十一日 雨。鳥居、吉見に復書す。午前加悦敏、島田少佐を訪ふ。島田本日熊本に帰る者也。弓術を修め、島田数雄を訪ひ帰る。田鍋安之助に復書す。石井徹、島田少佐を筑前丸に送る。午後西本来訪。秋澤大佐芳馬、白岩に復書す。西本、神寄、藤本昌伸来訪。長沙松寄に信片を發す。

三月二十二日 晴。朝石光大佐眞臣、羅振玉の子、王国維来訪。十時税関碼頭に至り加悦大佐敏の雲南行を送り、去て正金銀行より銀百元を受取り、弓術を修め、理髮して帰る。波多の長崎よりの信片至る。夜東方通信社、佐々布を訪ふ。

三月二十三日 快晴。長沙松寄の電報に接す。湖南は二十日以内に独立宣言の予定なりと云ふ。朝石光大佐を訪ひ小談、去て中島、鈴木を訪ひ、弓術を修め帰る。姚文藻の信至る。午後姚を訪ふ。八田来訪。西田、島田、中島、石光、藤本等来訪。増田大佐、内田友義、野満の信至る。

三月二十四日 快晴。午前弓術を修め、長沙松寄に致書す。午後呉永寿、相良忠道、三木、八田来訪。井手三郎、實相寺貞彦の信至る。夜姚宅にて青島より来れる劉廷琛幼雲、並に呉学廉等と会し時事を談じ、九時帰。

三月二十五日 快晴。海軍に通信を發す。午前弓術を修め、呉永寿を豊陽館に、島田を日報社に訪ひ帰る。中島少佐来訪。午後姚来訪。海軍に第二信を發す。石光大佐来訪。二時石光の帰国を八幡丸に送り、島田を訪ひ帰る。東京宅の信至る。本月二十日より麻布北新門前町二番地に転居せりと云ふ。土屋員安、岡幸七郎、河口介男父子、鳥居、海軍の信至る。土屋は台北中学校長を辞し京都に帰ると云ふ。河口介男、菅村三之、東京宅に致書す。櫻木俊一來訪。

三月二十六日 健晴。前七時半より江湾附近に猟し鴨一羽を獲、二時帰る。長沙松寄の信至る。夜北京會に俱樂部に呉永寿を客とし青木中將、松井、中島、鈴木、佐原、西田、神寄、津田等同座たり。十時散ず。北京の知人に合作の信片を送る。

三月二十七日 晴天。午前呉永寿を訪ひ其北京行に托し増田に海苔一缶を托送し、弓術を修め帰る。山内崑、町田耕授、石橋藤次郎の信至る。島田、姚、八田来訪。

三月二十八日 快晴。午前弓術を修め、帰途中島の処にて汁子を吃し中食の饗を受け、竹田の処に至り犬を受取て帰る。八田来訪。午後澤本、西本来訪。夜姚来訪。

三月二十九日 快晴。午前弓術を修む。午後島田、中村等来訪。井芹経平、波多博、島田少佐の信、並に藤村義朗より園遊会の案内状至る。波多の為に樺山大將、升允、宮島、小池長造、田鍋に致すの添書を作り送寄す。海軍に報告を發す。夜姚、八田来訪。

三月三十日 雨。午前領事館に至り通信社の経費を受取り、正金銀行に至り正午帰る。午後中村芦舟来る。本月分東亜報補助三十元を渡す。島田数雄来訪。熊本島田少佐良一より海苔二缶を送り来る。島田少佐、井芹経平に致書す。長沙松寄の信、並に井手三郎の電報至る。

三月三十一日 雨。午前八田に通信社に会し手当を渡し、去て弓術を修め、篠寄を訪ひ帰る。鳥居の信片至る。夜藤本某、辻定吉、八田厚志来訪。

四月一日 半晴。海軍に発信す。午前弓術を修む。午後獵犬を波多の処より東和洋行に伴ひ来る。山田昇来訪。今夜革党の一派当地にて事を挙ぐる計画有りと云ふ。平岡、中島少佐来訪。天津豊岡保平の訃至る。松岡玄雄より海鼠腸一瓶を贈り来る。夜佐々布来訪。

四月二日 晴。日曜。前六時起床、獵装。平岡、佐々布と江湾附近に猟し二時帰る。獲る所無し。石井徹の信片至る。

四月三日 快晴。神武天皇祭。午前弓術を修む。松寄雀雄の信至る。之に復し野満に信片を發す。松岡玄雄に致書す。姚文藻の信至る。有吉領事、鈴木大尉に致書す。八田来訪。田鍋、井上清秀、田中大佐耕太郎の信至る。内人に致書す。豊岡保平未亡人に弔詞を發す。三木生来訪。

四月四日 晴。午前弓術を修む。午後神寄来訪。夜姚文藻来訪、共に出て愛而近路胡嗣瑗晴初の寓に至り張勳の使者玉宝田逸山、商衍瀛雲卿、龍濟光の代表者温肅敬甫、並に恭親王の使劉廷琛幼雲等と会商し、十一時帰る。

四月五日 快晴。是日陰曆清明節たり。午前有吉、中島、鈴木を訪ひ、弓術を修め帰る。午後姚文藻、島田を訪ふ。井深彦三郎北京にて死去の訃電に接す。北京増田に致書す。

四月六日 晴。午前弓術を修め、十一時俱樂部にて張勳の代表玉宝田、商衍瀛、龍濟光の代表温肅等を青木中將に紹介す。劉廷琛、姚文藻、胡嗣瑗、松井中佐列席す。時事を商量し午後一時半散ず。北京増田、長沙松寄の信至る。海軍に通信を發す。夜鈴木大尉、姚文藻、商衍瀛来訪。

四月七日 快晴。午前弓術を修む。田中大佐の信、並に北京増田大佐、山川早水の信至る。午後江湾附近に猟し三時半帰る。獲る所無し。平岡小太郎来訪。広東省は本日午前独立を宣言し広西と同一行動を取るに至れり。

四月八日 快晴。午前弓術を修め、理髪して帰る。西本来訪。内人の信、並に菅村夫人、田中清司の書信に接す。

四月九日 朝雨、午後晴。日曜日。前五時起床、北郊に猟す。春雨時に至り時に歇む。鳴一羽を獲九時半帰る。島田来訪。中島為喜母堂の訃至る。是日午後藤村義朗宅に園遊会の催有り、一時より之に赴く。三時半帰る。雨。澤本来訪。

四月十日 晴。午前弓術を修む。午後新利洋行、山田純、姚文藻を歴訪す。井深仲卿の訃、並に山田修作、野満の信至る。田中大佐に発信す。夜平岡来訪。

四月十一日 快晴。姚氏に致書。午後一時より北郊に猟す。獲る所無し。四時帰る。波多博、姚文藻の信至る。鈴木格三郎来訪。

四月十二日 快晴。田中大佐、小幡参事官の信至る。夜青木中将以下松井、中島、鈴木の各武官と倶楽部に小集す。佐原、柏田、西本、奥村、西田、神寄等同座たり。九時半散ず。井手清秀に復書す。浙江省本日独立を宣布し上海杭州間汽車不通なり。井戸川辰三、沢本良臣来訪。井戸川は広西に赴く者なり。

四月十三日 朝微雨。是日未明を期し革命党拳兵の予定なるを以て三時半起床以て待つ。同四十五分機器局方面に方りて一回大爆声を聴けるのみにて事変の兆無し。蓋し機を誤りて発する能はざりしものなり。朝井戸川大佐来訪、談時を移て去る。午前中島少佐を訪ふ。晌午奥村正雄来訪。同文書院生知識眞治来訪。村上義温、三沢信一の信至る。夜佐々布、汪甘卿、姚文藻来訪。是日江西省独立せりと云ふ。

四月十四日 雨。村上義温、三沢信一の信至る。田中大佐に致書す。午後竹内克巳、古島一雄の紹介にて来訪。神尾茂、井戸川辰三、山成等来訪。神尾は昨日帰来、井戸川は明朝岑春燈を伴ひ広東へ赴くと云ふ。波多博東京よりの電報至る。大倉喜七郎の信至る。夜澤本来訪。

四月十五日 雨。午前正金より銀百元を受取る。午後姚文藻、中島少佐、平岡、近藤来訪。上妻博路英国よりの信片、並に東京本庄、齋藤、鷺沢、波多合作の信片外、吉見春生、有留重利の信至る。六時半奥村正雄宅の晩餐に赴く。島田、神尾、西本同座、九時散ず。帰途鈴木大尉、通信社を訪ふ。姚に致書。海軍に長文の電報を發す。山成、岡吉次郎来訪。

四月十六日 晴。午前坂田九郎来訪。日曜日。中食後江湾附近に猟す。鳴二、秧鷄一を獲四時帰。夜姚文藻、汪甘卿来訪。深更に及て去る。江陰砲台は是日午前二時半小戦の後独立す。

四月十七日 快晴。午前理髪、中島少佐を訪ふ。午後山成来訪。松寄雀、香月梅外、岡西門、小口五郎等の信至る。岡、香月に復書す。鳥居赫雄に致書、弓の贈を謝す。中島為喜に弔詞を發す。渋川玄耳、神尾茂来訪。塚本恵来訪。島田来談。内人の信二通、並に岡田晋太郎信片至る。内人に復書す。姚の信至る。長沙松崎に復書す。

四月十八日 晴。午前渋川玄耳を訪ふ。午後塙来訪、錢囊一個を贈る。晩神寄、佐々布来訪。

四月十九日 晴。朝弓術を修む。午後郵船埠頭に至り亀井陸良、波多博を迎ふ。船至らず。島田を訪ひ、去て姚文藻に抵り、四時帰る。六時より新六三に亀井を招き神寄、佐原、中島、松井等と会食。九時散ず。波多を訪ひ帰る。古閑の信至る。

四月二十日 雨。神尾、西本来訪。午後波多、亀井、澤本、並に中支派遣隊副官林繁樹、平岡等来訪。釜山芥川正の信至る。升允に致書す。井深彦三郎逝去に付き奠儀を送る。八角少佐より升允数日中帰国の事を報じ来る。姚文藻に致書す。

四月二十一日 雨。午前海軍よりの送金六百円を郵便局より受取り東京に為替を組む。帰途根津一、亀

- 井、佐原を訪ふ。姚来訪。海軍に電報を發す。林大尉、山成、賀来、神尾来訪。中島少佐来訪。田中大佐に致書、並に東京宅に金六百円を郵送す。夜姚来訪。
- 四月二十二日 陰。午前姚来訪。中島を訪ふ。奉天張作霖に張勳の電報を代發す。午後北郊に獵す。獲る所無し。四時帰る。田中大佐、橋三郎、齋藤少佐の信、並に根津氏の案内状至る。亀井陸良、波多来訪。七時亀井招待会に俱樂部に出席す。青木、有吉、藤村、以下二十余人出席す。九時半散ず。
- 四月二十三日 雨。前九時より春季弓術大会に六三園に出席す。会員四十余人頗る盛会なり。桜花躑躅互に艶を競ひ、春雨霏々、園内の趣致不可名状。正午会食。午後四時半帰る。海軍より長文の電報至る。七時根津氏の招宴に春江楼に列す。同座は青木中將、松井、中島、鈴木、齋藤和、領事官補、福島、安河内等なり。九時散ず。青木中將より案内状至る。姚文藻来訪。
- 四月二十四日 雨天。午前中島少佐、姚文藻を訪ふ。晌午根津氏来訪。午後中島を訪ひ、海軍に電報を發す。田鍋、井手、岡の信至る。中島、高倉、梅田少佐三郎、塩島大尉美雄来訪。高倉以下二人は本日來着せし者也。鄭太玄来訪。高倉より土宜二点を携贈。夜波多、姚来訪。
- 四月二十五日 晴。午前理髮、豊陽館に高倉、梅田、塩島等を訪ひ、去て有吉領事を敲き、正午帰る。清藤幸七郎来訪。午後正金より銀百元を受取る。波多、藤島宇太来訪。中村、西本来訪。六時半青木中將の招宴に六三亭に赴く。同座は有吉、孫洪伊、張耀曾、谷鍾秀、范源廉、殷汝驪、藤村、中島、葛原、松井、亀井、以下七八人なり。九時半帰。姚来訪。
- 四月二十六日 晴天。正午東方通信社の日支新聞記者午餐会に臨む。会者邦人にては亀井陸朗、島田、佐原、柏田、西本、奥村、波多、支那人側は谷鍾秀、張耀曾、殷汝驪、徐仏蘇夢巖、邵振青、以下五六人。三時散ず。弓術を修めて帰る。夜神壽、姚、狄平来訪。張杰来訪。
- 四月二十七日 晴。前六時より北郊に獵し九時帰る。獲る所無し。岡幸七郎、松壽奎雄の信至る。正午波多同伴三馬路一品香の支那有志団の招邀に赴く。主人側は張耀曾、谷鍾秀、殷汝驪、徐仏蘇、彭久彝等十余人にして、日本側は亀井、島田、佐原以〔下〕十余人なり。三時散ず。亀井と青木中將を訪ひ帰る。渋川玄耳来訪。夜澤本、姚来訪。田中大佐、井手三郎、中島為吉、町田耕授の信至る。狄楚青来訪、中国歴代帝后像一冊を贈る。
- 四月二十八日 雨。午前田中大佐、宮島大八、井手三郎に致書す。高倉中佐、中島少佐を訪ふ、在らず。午後鄭太玄来訪、遇はず。亀井、波多、神尾、河野久太郎来訪。河野は本日北京より來着せりと云ふ。時局問題にて亀井、河野と争論、互に相闘ふに至る。夜佐々布来訪。正金の預金四千元を東京に滙送を托す。
- 四月二十九日 半晴。午前河野、有吉、中島を訪ふ。佐々布より正金の為替金四千二百二十四円八十二銭を受取る。午後亀井、根津を訪ふ。波多重雄の信至る。阿部政次郎来訪。夜十一時亀井陸朗の北京行を車站に送る。
- 四月三十日 雨。日曜日。出獵の約有り、雨を以て果さず。田鍋安之助、町田耕授、井芹経平に致書、並に東京宅に正金の為替券を郵送す。島田、平岡、佐々布来訪。釜山芥川正に釜山日報三千号記念会の祝電を發す。中食後獵装、平岡の処に至り佐々布と三人江湾附近に獵し鳴二羽を獲、六時半帰。夜波多の処にて島田と三人山芋汁を会食、九時帰る。
- 五月一日 快晴。齋藤少佐、古閑信夫に致書す。波多来訪。午後有吉領事を訪ひ東方通信社拡張の事を商量して帰る。清藤、山本唯次、池田旭来訪。池田は故北垣男の子にして新嘉坡に赴く者、竹下少將の紹介有り。范源廉の請帖至る。内人の信至る。熊本に帰省の事を報じ来る。因て本日投函せし正金の為替券入書留書を郵便局より索還す。長沙香月、松壽の信至る。夜林大尉来訪。
- 五月二日 晴。岡幸七郎、亀井陸良に致書、東方通信拡張の事を通報す。午前波多、中島、佐々布を訪ふ。午後松本君平、山本唯次、塙来訪。七時范源廉の招宴にパレスホテルに赴く。同座は青木中將、松井、中島、藤村、鈴木、齋藤和、原田、佐原、西田、湯化龍、譚延闓、王龍恵、谷鍾秀、張耀曾、

彭允立，殷汝驪，張孝順，藍公武，歐陽振声，徐仏蘇，外二三人なり。九時散ず。

五月三日 晴天。理髮，松本君平を訪ひ，弓術を修め帰る。午後波多，中川淳，塚本，郡島忠次郎来訪。郡島は本日来着せりと云ふ。河野，神尾，神嵩来訪。野満，小笠原，菅村夫人の信至る。

五月四日 陰。午前藤島宇太，知識来訪。姚の信，並に奉天鳥居，中島，矢田，岡山，一ノ宮列合作の信片至る。午後中島少佐，齋藤副領事，原田領事官補来訪。報告を作りて深更に至る。

五月五日 微雨。午前波多を訪ひ報告の浄写を托し，弓術を修む。奉天中島真雄に致書す。岡幸七郎の信至る。根津一來訪。午後小村俊三郎，郡島，櫻木俊一來訪。小村は本日青島より到着せりと云ふ。川村景敏，澤本良臣来訪。夜新六三の小集に赴く。同座は川村，澤本，郡島，秦，河野，青木等なり。九時半散ず。波多，中島少佐来訪。青島より電報有り。升允去三日該地に到着せりと云ふ。

五月六日 陰。午前弓術を修め，小村俊三郎を訪ふ。中食後近江丸に小村俊，川村景敏の帰国を送り，去て姚を訪ひ青島よりの電報を交附す。徐仏蘇来訪，相伴て時事新報社に至り小談，万家春に茶を吃して帰る。徐は明日天津に帰ると云ふ。海軍に報告を發す。夜篠嵩来訪。佐々布亦来。

五月七日 陰。午前佐々布来訪。午後佐々布と雅叙園に至り中食。終て弓術俱樂部に至り弓を挽き，四時帰る。姚，神嵩，林大尉来訪。菅村宅より雲丹二瓶を送り来る。

五月八日 晴。午前有吉，中島を訪ひ，弓術を修め帰る。神尾来訪。午後出獵鳴二羽を獲，四時帰る。速水一孔青島よりの信至る。升允同伴五日着青せりと云ふ。夜郡島来訪。速水に復書す。

五月九日 晴。午前弓術を修め，緒方琢次を訪ふ。山本唯次，山成，波多来訪。田中大佐の信至る。中川淳来訪，明日より東方通信社の派遣員として南京に赴く者也。夜佐々布を訪ふ。角田来訪。陝西鎮守使陳樹藩独立。

五月十日 雨。午前角田隆郎を訪ふ。午後佐々布，郡島等来訪。井手三郎，一ノ宮房次郎の信至る。夜姚来訪。

五月十一日 雨。朝理髮，有吉領事，波多を訪ふ。午後弓術を修め，中島を訪ひ帰る。岡幸七郎の信至る。之に復す。晡時姚来訪。内人，清子と熊本に帰省の報に接し，内人，並に菅村三之に致書す。町田耕授，井深梶之助，齋藤恒の信至る。齋藤は中佐に昇級せりと云ふ。姚，波多来訪。姚は明日の神戸丸にて青島に赴くこととなれり。夜更高洲太助，姚来訪。齋藤中佐に復書す。

五月十二日 晴。前五時より平岡を誘ひ北郊に獵し鳴四羽を獲，八時帰る。汪鍾霖来訪。午後中島を訪ひ青島に打電を托し，正金に至り金子を受取り，弓術を修めて帰る。神尾，波多来訪。是四川川北独立す。海軍より特別機密費三百円を送り来る。宮寄寅藏，志村某来訪。海軍に領収証を發す。佐々布宅に晩食す。

五月十三日 晴，風大。午前弓術を修む。是日同文書院学友会より講演を求め来る。事を以て辞す。午後北脇，神尾，立川，篠田来訪。澤村幸夫，町田耕授の信至る。七時郡島の晩餐に俱樂部に列す。志保井，佐原，秦，澤本，青木，根津等同座たり。九時半散ず。

五月十四日 雨。日曜。是日前五時より平岡，佐々布等と出獵の約有り，雨の為に中止す。郡島来訪。鳥居赫雄漢口よりの信至る。午後熊本商業学校旅行団と公園に於て撮影の約有，二時之に赴く。学生以外来会する者無し。去て弓術を修め帰る。夜郡島を訪ふ。

五月十五日 陰。前五時より北郊に獵し七時帰る。午後篠田，波多来訪。二時公園に至り熊本商業学校職員生徒と撮影す。木幡に致書す。石光眞臣の信至る。少将に昇進せりと云ふ。岡幸七郎の信至る。五時より波多，緒方琢次，外一人を雅叙園に伴ひ晩食し，七時帰る。明日緒方生の帰県に托し内人に鯛油漬拾缶，菅村に線粉一包を贈る。白岩，田鍋の信至る。是日宮寄寅藏を訪ふ。

五月十六日 微雨。午前田辺輝雄，商業学校生の帰国を送り，弓術を修め帰る。午後島田来訪。白岩に復書す。石光眞臣，澤村幸夫に復書す。夜郡島来訪。

五月十七日 晴。是日領事館より四月分手当を受取る。波多来訪。午後北郊に獵す。獲る所無し。四時

前帰る。平岡小太郎来訪。東則正来訪。

五月十八日 雨。午前楊樹浦黄浦碼頭に至り鳥居赫雄を迎ふ。船至らず。午後鳥居来着、中食を共にす。波多、島田、神尾等来訪。汪甘卿来訪、明日より劉廷琛と与に青島に赴くと云ふ。夜鳥居と談ず。是日陳其美暗殺せらる。

五月十九日 陰。午前中島、土井を訪ひ、弓術を修め帰る。姚文藻青島よりの信至る。午後鳥居と有吉領事を訪ひ、公園に至り鳥居、島田、神尾等と撮影す。晚鳥居を主賓として根津、木幡、秦、土井、澤本、佐原、青木、島田、西本、波多、奥村、八田、神尾等を四馬路春江楼に招宴す。九時散ず。田中大佐、田鍋安之助、同文会の信至る。

五月二十日 晴。午前理髮、仏租界に山田純三郎を訪ひ其寓所にて陳其美横死の見舞を述て帰る。鳥居、神尾来訪。北京亀井陸良の信至る。午後弓術を修む。晚秦、鳥居、土井、佐原、澤本、青木、神尾、島田等と倶楽部に会食し、九時散ず。

五月二十一日 晴。日曜。田中大佐に致書す。是日鳥居等蘇州に遊ぶ。余は前八時より平岡、山成、佐々布、武田等と小汽船にて呉淞の中洲に出獵、十一時船に帰り中食の饗を受け、北勢丸沈没の処に至り潜水作業を觀、七時半帰る。夜神尾来訪。

五月二十二日 晴。午前二木彦一來訪、北京より来れる者。之を伴て鈴木大尉を訪ひ、公園を徜徉して帰る。午時月廻家花園に至り、鳥居、西田、神尾、西本、波多、奥村等と会食し、散後清藤を訪ひ、弓術を修め帰る。川本静夫の信至る。夜鳥居来談。四川軍陳宦是日独立を宣言す。

五月二十三日 晴。午前鳥居と出て中島少佐を訪ひ、去て弓術倶楽部に至り、正午帰る。鳥居、澤本と倶楽部に中食す。午後神尾、西本、酒匂、神寄、二木、塩島大尉、姚文藻来訪。姚は本日青島より帰来せりと云ふ。晚鳥居と木幡の招宴に六三亭に赴く。同座は佐原、神尾、外一名也。十時散。

五月二十四日 雨。午前賀来敏夫来訪、近日東京本社に転任すと云ふ。熊本滞在中の内人の信、並に木村増太郎、緒方琢次の信至る。正午鳥居、島田を誘ひ雅叙園に至り中食し、帰途秦長三郎を訪ふ。午後町田少将、神寄来訪。田中大佐、熊本溜留中の内人に致書す。夜九時鳥居の帰国を春日丸に送り、十時半帰る。

五月二十五日 半晴。北京亀井陸良より暗号電至る。意義明かならず。午後波多来訪。

五月二十六日 半晴。海軍に南京會議の報告を發す。北京亀井に復書す。午前弓術を修む。午後松島正吉来訪。賀来敏夫来別、明日の船にて帰国すと云ふ。波多来訪。晚倶楽部にて賀来を送別す。九時帰る。

五月二十七日 晴。理髮後佐々布を訪ふ。午後姚文藻を訪ふ。白岩龍平、林繁樹の信至る。山本唯次、神寄正助来訪。神尾来訪。是日海軍紀念日に當る。中島少佐晋の処に高倉中佐と晚餐し、十時帰る。

五月二十八日 晴。日曜日。前五時平岡、佐々布、水谷と北郊に獵す。時期既に去り獵鳥双影を留めず。樹蔭休憩、九時帰る。藤島宇太来訪。是日湖南湯郷銘独立。

五月二十九日 晴、熱。午前郵便局、弓倶楽部、波多に抵り、正午帰。姚来訪。東洋協會に去年十一月至本年四月会費を郵送す。午後藤島、西本、波多、西山来訪。

五月三十日 晴。午前弓術を修む。午後波多、神寄来訪。領事館より本月分手当を受取る。

五月三十一日 晴天。午前波多、藤島来訪。青島升允に姚の書信を送る。東京宅に正金の為替金四千二百二十余円を郵送す。午後弓術を修む。夜波多来訪。天津池部政次の信、並に宮寄盛、青地、青木等の信至る。

六月一日 晴。海軍に報告を發し、弓術を修めて帰る。正午波多を誘ひ雅叙園に至り中食す。八田厚志亦来会。中島少佐を訪ふ。午後郡島、根津院長、山中未成来訪。夜平岡を訪ひ弄璋を賀し、帰途佐々布を訪ひ九時帰。姚来訪。

六月二日 晴。朝弓を修む。午後波多来訪。川本静夫、宮寄盛に復書す。

六月三日 晴。朝理髮。濱寄，古川権九郎，原威陵雄の信至る。古川に復書。亀井英三郎三周忌に燈籠寄附の事に賛成す。六時半より藤村義朗の招宴に列す。同座は青木，有吉，松井，中島，鈴木，佐原，西田，神寄，加藤恒忠，湯化龍，温宗堯，王寵恵，孫洪伊，張繼，谷鍾秀，殷汝驪，蔣方震，黄郛，葛敬恩等なり。十一時半散。

六月四日 晴。日曜日。午後弓術倶楽部の月並会に出席，金的の競技に克つ。六時半散会帰寓。入浴後村上貞吉宅の晩餐に赴く。安河内，西本同座たり。十一時帰。漢口岡幸七郎より在支那二十年紀念の写真を送り来る。

六月五日 半晴。是日陰曆端午節たり。午前弓術倶楽部に至り，晌午帰る。波多，西本，神尾，奥村，姚，並に陳毅来訪。賀来，田中大佐の信至る。雨。

六月六日 雨。是日午前袁世凱病死の電報有り。午後波多来訪。山本唯次，神寄正助来訪。岡幸七郎，林繁樹，白岩龍平に復書す。海軍に発信す。夜姚，波多，三木来訪。

六月七日 微雨。午前中島を訪ひ，去て豊陽館に深澤暹を敲き帰る。藤島宇太来訪。午後二時藤村義朗，深澤の帰国を鹿島丸に送り，帰途弓術を修め五時帰る。平岡，塙，神寄，二木彦一来訪。夜佐々布，神尾前後來訪。深更辞去。

六月八日 微雨。午前中村芦舟来訪。午後根津を訪ふ。三井藤村より弓術倶楽部への寄附五十元を送り来る。之を倶楽部に交附す。守田一郎に領収証を送る。午後清水巖，中島少佐来訪。殷汝驪，黄郛，葛敬恩等の招待状至る。

六月九日 午前微雨，午後晴。七時葛敬恩，黄郛，殷汝驪等の招宴に一品香に赴く。同座は青木中将，有吉領事，高倉，中島，塩島，鈴木，松井，神寄，佐原，西田，湯化龍，温宗堯，王寵恵，殷汝驪，張繼，譚延闓，王正廷以下支那人五六名，齋藤和，原田官補等なり。十時半散席。

六月十日 晴。朝弓術を修む。古川権九郎に致書。故亀井英三郎墓前に燈籠建立の寄附金三円を送る。内人，並に菅村三之の信至る。内人は今尚熊本滞留の事を報ず。午後知識某，清藤幸七郎，秋山長次郎来訪。

六月十一日 晴。日曜。午前姚，島田，櫻木来訪。午後弓術倶楽部に至り平岡，佐々布等と競射，四時帰る。姚文藻来訪して曰く，今朝梁鼎芬南京より帰り馮国璋，張勳，倪冲，張懷芝等聯合の宣統復辟の計画已に成立し本月十五日に事を挙ぐべしと云ふ。海軍に此の一件を書信にて通知す。七時より木幡宅の晩餐に赴く。西饌の饗有り。佐原，外一人同座たり。十一時散ず。

六月十二日 晴。海軍に電報を發す。午前理髮。有吉，姚を訪ひ，正午帰る。熊本滞留の内人に致書，並に北京亀井，東京小村俊三郎に発信，復辟運動の事を内報す。午後姚，波多，岡田有民来訪。青島近松孝憲に發電す。近松の信至る。夜中島，波多を訪ふ。

六月十三日 陰，午後雨。午前弓術を修む。午後西本，中島，波多，神寄来訪。海軍に発信す。

式島のまつりの道をもろこしの民のしをりとなさまほしけれ

古の道にそむきてふみ迷ふもろこし人のあはれなりけり

六月十四日 陰，熱甚。午前弓術を修む。午後神尾来訪。山中未成，軍令部の信至る。海軍より七月至九月手当を送り来る。

六月十五日 雨。午前豊陽館に清水崑，金子雪壘を訪ふ。午後姚，神尾，篠寄，相良来訪。

六月十六日 晴。姚文藻の青島行を送る。軍令部に手当領収証を送る。鳥居赫雄，篠原祐喜の信至る。

夜木幡，村上，木下，神寄を訪ひ，十一時帰る。

六月十七日 晴。海軍に報告を發し，弓術を修め帰る。王正廷，王寵恵の招帖至る。大連川島浪速の電報至る。夜波多来訪。

六月十八日 快晴。日曜。午前島田数雄，清藤幸七郎来訪。中食後日本人倶楽部の弓術会に出席，二等賞を得六時半帰。

- 六月十九日 晴。長沙成恣静雄，漢口篠原祐喜より土宜を送り来る。午後中野二郎，波多来訪。七時王正廷，王寵恵の招宴に一品香に赴く。同座は青木中将，有吉，松井，高倉，齋藤和，原田，佐原，神崎，西田，温宗堯，呉景廉，谷鍾秀，張継，范源濂，梅，張以下十余人。九時半散ず。微雨。青島速水の信至る。
- 六月二十日 雨。成松，篠原祐喜に復書す。六時春申社の招宴に会元楼に出席す。同文書院の修学旅行生を餞するなり。佐原，西本，神尾，波多，奥村等同座たり。八時半散。高倉中佐，中島少佐，塩島大尉来訪。平岡より饅頭を贈り来る。
- 六月二十一日 雨。有安一雄，汪甘卿，英国上妻博路の信至る。午後神尾来訪，友野盛来談。晚根津を訪ふ。
- 六月二十二日 陰。午後安河内，波多来訪。
- 六月二十三日 半晴，熱甚。午前安河内を訪ふ。午後藤島宇太，相良来訪。熊本滞留の内人の信，並に古川，賀来，山中未成，深澤，二木彦一，海軍の信至る。内人に復書す。知識某来訪。大連川島浪速より電報暗号送り来る。
- 六月二十四日 晴，熱甚。午前根津，安河内二氏と自動車にて徐家滙に至り同文書院の新築工事を視，十時帰る。理髮，正午帰る。神崎来訪。七時倶楽部の熊本県人会に出席，十時散ず。
- 六月二十五日 晴。日曜。朝神崎を訪ひ共に出て犬の訓練を為し，十時帰る。望月小太郎，山田純三郎来訪。午後三時東亜同文書[院]第十三期卒業式に倶楽部に出席し，式終て立食，六時半散ず。平岡等と射を競て帰る。
- 六月二十六日 雨。午後清藤，知識来訪。清藤は明日帰国すと云ふ。尾越辰雄，山中未成に復書す。中島少佐来訪。夜西本，清藤，栗原来訪。清藤葡萄酒二瓶を贈る。
- 六月二十七日 雨。午前根津氏を訪ひ小談。去て豊陽館に望月小太郎を訪ひ，晌午根津，清藤の帰国を山城丸に送り帰る。午後波多来訪。七時高倉中佐の招宴に倶楽部に出席す。青木，松井，中島，神崎，西田，佐原，孫洪伊，温宗堯，王寵恵，呉景濂，張継，谷鍾秀，殷汝驪，胡漢民，戴天仇等同座たり。十時散ず。
- 六月二十八日 雨。村上貞吉を訪ひ小談帰る。午後波多来訪，外務省本月分手当を受取る。六時中島少佐来訪，共に出て静安寺路哈同花園鈕永建，李平書の招宴に臨む。来客日支人六十名。九時散。
- 六月二十九日 雨。終日報告を作る。森格[恪]，佐原，神崎，神尾，西本，藤島等前後来訪。
- 六月三十日 半晴，熱甚。午前中島を訪ひ，去て弓術を修め帰る。友野盛，杉谷善蔵来訪。白岩の信至る。午後平岡来訪。晚平岡，水谷，長沢，石崎等と倶楽部に会食し弓術倶楽部維持の相談を為し，十時散ず。波多来訪。
- 七月一日 陰，微雨。海軍に報告を發す。弓術を修め中島を訪ひ，去て篠崎を敲き帰る。村上の信至る。午後狄，村上を訪ふ。寺西に信片を發す。
- 七月二日 晴。午前理髮，弓術を修て帰る。午後波多来訪，共に出て山田純，高倉中佐を訪ひ，去て藤瀬政次郎を敲く，本日来着せる者也。小談，山田宅に帰り孫文に面し，五時帰寓。七時北京会に倶楽部に出席す。高尾亨，青木，森恪，松井，中島，高倉，以下十七人，十時散ず。井手，狩野，土屋等京都よりの信片，並に川村景敏長崎よりの信至る。
- 七月三日 晴，熱甚。午前弓術を修む。望月小太郎，成恣の信至る。海軍に通信を發す。夜十一時高尾亨の南京に帰るを送る。
- 七月四日 午後雷雨。佐原来訪。東則正，鷺沢與四二，白岩龍平，山内崑に致書す。
- 七月五日 雷雨。熊本より内人の信至る。郵便局に至り海軍よりの送金三百円を受取る。宇土玉寄大尉の石碑建設寄附金五円を松本惟晴に送る。波多来訪。
- 七月六日 陰。青島姚文藻の信，並に清藤の手書に接す。姚，速水に致書す。波多来訪。内人，並に中

島真雄に致書す。井芹経平に寄書す。

七月七日 雷雨。午前有吉、波多を訪ふ。午後藤島、相良、中島少佐来訪。

七月八日 陰。午前弓術を修む。午後山崎膽、矢作乙五郎、神寄来訪。高尾亨の信至る。

七月九日 晴雨無定。日曜日。午前土佐孝太郎来訪。十時丁興里の弓術会に出席、四等賞を得、村上を訪ひ帰る。姚文藻榊丸よりの無線電に報す。姚宅に電文を郵送す。

七月十日 晴。午前山寄、波多を訪ひ、弓術を修め、去て土佐孝太郎を日清汽船会社に敲き帰る。午後村上貞吉来訪。晚弓術倶楽部より佐々布宅を訪ひ、十時帰る。

七月十一日 晴。朝藤島来訪。午前理髮、弓術を修め帰る。鈕永建より往日哈同花園にて両国人宴集の時の写真を送り来る。夜波多を訪ふ。

七月十二日 晴、午後雷雨。紐育村上義温の信片至る。午後塚本、相良来訪。塚本朝鮮人参飴を贈る。

七月十三日 雨。午前弓術を修む。午後姚文藻を訪ふ、在らず。西田、波多、中島来訪。土佐孝太郎の請帖至る。之に復す。夜姚来訪。

七月十四日 晴、熱甚。中食後井手三郎の来滬を迎へ、日報社に至り小談帰る。熊本内人、漢口岡の信至る。岡に復書す。波多来訪。海軍に報告を發す。夜塚本の九江行を鳳陽丸に送り、中島を訪ひ帰る。

七月十五日 晴。午前有吉を訪ふ。午後井手、中島、佐々布、神寄来訪。岡、橘、田中大佐の信至る。

六時半土佐の招宴に六三花園に列席す。同座は青木、有吉、井手、以下二十余人。九時半帰る。

七月十六日 陰。日曜。午前弓術を修む。午後佐原来訪。

七月十七日 陰。午前弓術を修む。午後井手三郎、波多来訪。賀来、速水の信至る。速水より恭親王の書を送り来る。

七月十八日 晴。午前篠田を訪ふ。午後佐原、平岡、中島、西本、山本唯次来訪。速水に復書す。夜鈴木格三郎来訪。

七月十九日 晴、熱甚。午後神尾、西本来訪。夜波多来訪。

七月二十日 晴。是日大暑に入る。午前理髮。午後井手を訪ふ。五時姚、波多来訪。七時支那上下両院議員の招宴に一品香に赴く。青木、有吉、孫文、唐紹儀、伍廷方、王正廷、張繼、温宗堯、王寵惠、鈕永建、柏文蔚、吳景濂、孫洪伊、章炳麟、胡漢民、以下会する者五十八人許。十一時散ず。

七月二十一日 晴、熱甚、午後雷雨。午前弓術を修む。午後井手三郎来訪。三時増田高頼を車站に迎へ、井手と狄平を訪ふ、在らず。西野忠吉、波多来訪。

七月二十二日 陰、午後雷雨。朝八角三郎を筑後丸に迎へ豊陽館に小談。弓術を修め、波多を訪ひ帰る。神尾来訪。吉見春生、田中大佐、岡幸七郎、知識真治の信至る。

七月二十三日 半晴。午前近重博士非律賓よりの帰途狩野の添書を携へ来訪。増田大佐来訪。午後中島、波多を訪ひ、弓術を修め帰る。帝大生田辺丈夫、並に佐々布、西山来訪。七時青木中將、有吉領事の招宴に倶楽部に赴く。来賓は孫文、唐紹儀、伍廷方、黃興、章炳麟、張繼、以下四十人許。十時半散ず。

七月二十四日 晴。午前近重博士と姚文藻、狄平を訪ふ。午後中島を訪ひ、去て弓術を修め帰る。波多、神尾来訪。野満四郎、速水一孔、姚の信至る。七時倶楽部に至り田辺丈夫を招き会食す。井手、西本、佐々布、島田、和田、秋田、山村等同座たり。九時散ず。

七月二十五日 晴。午前高倉、八角、塩島三武官、近重博士、西本来訪。正午増田大佐招待会に倶楽部に出席す。高倉中佐、八角少佐、井手、木幡、神寄、佐原、以下主客十六人。二時半散ず。散後黃興の招宴に康納脱路徐園に赴く。主人側は黃、孫文、唐紹儀、伍廷方、張繼、王正廷、胡漢民、以下五十人許。邦人にては青木、有吉、増田、以下二十余人。七時半散ず。望月小太郎、吉田寿三郎の信至る。狄平来訪。

七月二十六日 晴。朝近重博士来訪。午前弓術を修む。一時田辺丈夫を車站に送り、三時倶楽部に於て

- 増田, 中島, 八角, 鄭孝胥, 姚文藻等と会談す。孫文の案内状至る。七時中島少佐の招宴に六三園に赴き, 十時帰る。
- 七月二十七日 晴。午後近重博士を車站に送る。中村重三郎来訪。夜西野来訪。十一時高倉, 八角を車站に送る。
- 七月二十八日 陰, 微雨。午前理髮。南京八角少佐の電, 並に熊本沢村雅夫の信至る。六時孫逸仙の招宴に一品香に赴く。来会日支両国人約七十人, 九時半散ず。心気疲労甚。
- 七月二十九日 晴。午前有吉領事を訪ふ。橘, 岡, 宝妻, 吉田寿三郎に復書す。滬勇会員藤井辰之助来訪。四時篠田を訪ひ, 去て増田大佐歓迎の弓術会に出席競射を試み, 十時散ず。
- 七月三十日 晴。明治天皇祭。前八時半増田の広東行を送り, 弓術を修て帰る。森格を訪ふ, 本日北京に赴くを以て也。午後島田数雄来訪。五時波多の処に至り滬友会の依頼に係はる御大典紀念園の碑文を撰し園に蔡向園と名け自ら之を書す。南京八角少佐の信至る。
- 七月三十一日 半晴。西本, 沈文藻, 波多, 石塚右玄等来訪。青島平岡小太郎, 速水一孔, 長沙香月梅外の信至る。香月に復書す。清藤の信至る。之に復す。
- 八月一日 半晴。午前弓術を修む。晌午食療所主石塚右玄来訪。午後沈文藻来談。波多北京行に付き伊集院大佐俊, 並に速水一孔への紹介状を与ふ。
- 八月二日 雨。朝佐々布遠を訪ふ, 今朝来着せりと云ふ。水野梅暁来訪。熊本より内人, 並に田中清司, 同憲輔列の信, 及奉天有蘭善行の信至る。午後内人に復書, 来月帰国の事を報ず。夜安河内, 波多来訪。十一時波多の北京行を車站に送る。
- 八月三日 晴。午前佐々布氏父子, 井手, 岸田太郎来訪。夜佐々布を訪ふ。
- 八月四日 晴。午前弓術を修む。午後神寄来訪。夜佐々布の招宴に俱樂部に赴く。井手, 島田, 秦同座たり。十時半散ず。
- 八月五日 晴。塚本, 佐々木武蔵, 露国八田三郎, 上田仙太郎の信至る。午後水野来訪。四時山田勝治の追悼会に列席, 六時帰る。夜古谷栄一, 東方通信社を訪ふ。
- 八月六日 晴。是日金時計盗難に罹る。午前理髮。河口, 古閑, 津田七郎の信至る。午後神尾来訪。七時俱樂部にて井手と佐々布遠を招邀晩食を共にし, 十時帰る。
- 八月七日 陰, 熱甚。午前弓術を修め, 古谷を訪て帰る。漢口派遣隊中尉村井嶮, 郷田少佐の紹介にて来訪。午後佐々布遠, 古谷栄一來訪。昨日盗難事件に付き工部局, 並に領事館の探偵, 巡查交も来て臨検す。大井五郎, 吉田大佐, 川本静夫の信至る。之に復す。平岡, 西本来訪。
- 八月八日 晴, 熱。朝古谷栄一の満洲へ転任するを榊丸に送り, 帰途井手と俱樂部に弓術を修む。午後大雨如注。沢本良臣来訪, 今日船にて一時帰国すと云ふ。神尾茂来訪。九江塚本恵より牯嶺の黄油二缶を送り来る。塚本に致書す。是日立秋。
- 八月九日 晴。海軍に報告を發す。狄平に致書す。葉室, 小川辰五郎, 林金作, 迎英輔の信至る。午後西野来訪。夜佐々布を訪ふ。
- 八月十日 雨。午前弓術を修む。午後報告を作る。佐々布父子, 姚文藻, 塚本恵, 瀬上恕治の信至る。
- 八月十一日 半晴。海軍に報告を發す。十時半佐々布遠の青島行を税関埠頭に送り, 帰途弓術を修む。瀬上恕治, 迎英輔, 林, 葉室に復書す。午後佐藤知恭, 奥村, 中島少佐来訪。夜村上, 神寄, 平岡を訪ふ。
- 八月十二日 晴。午前佐藤知恭を豊陽館を訪ふ。午後荒田武郷と談ず, 本日来着せる者也。井芹の信至る。
- 八月十三日 晴。午後佐藤知恭, 奥村政雄来訪。七時俱樂部にて細川侯派遣学生脇坂を招き, 井手, 島田, 佐々布, 秋田, 西本弥富等と晩食し, 十時帰る。狄平来訪。
- 八月十四日 晴。午後相良来訪。速水, 小笠原, 波多, 細川興増男, 内人の信至る。午後姚文藻を訪

ふ。青島恭親王より其自筆の七律を送り来る。

八月十五日 陰。朝弓術を修む。午後七時より無名会員の招待にて満鉄の小汽船にて吳淞に赴き観月。是〔夜〕頑雲滿天嫦娥影を潜め清光を賞すること能はざりしも、江風涼を送り虫声兩岸、夜色名状す可からず。甲板上にて会食し十時半帰る。相良、西本、山田、奥村、神尾、佐藤知恭、井手同船たり。

八月十六日 陰。友野盛、順天時報の信至る。午後中島少佐、塩島大尉来訪。青島速水に復書す。時報館より本年正月至六月半年分三百元を送り来る。

八月十七日 晴雨無定。朝井手三郎、山田謙吉来訪。杭州瀬上より西湖藕粉五箱を送り来る。瀬上に致書す。

八月十八日 晴雨無定。午前山田謙吉、井上雅二を訪ひ、弓術を修め帰る。夜井上を豊陽館に訪ひ、去て佐々布を敲き帰る。澤村幸夫、近重眞澄、瀬上恕治、木幡恭三の信至る。

八月十九日 半晴。午前井上雅二来訪。午後山田純三郎来訪。遼陽古谷栄一の信至る。六時半六三花園に井上を招き会食す。同座は井手、松井、山田、神尾、平岡、安河内等なり。十時半散。

八月二十日 晴。日曜。前三時半起床狐装を治し、五時平岡を誘ひ北郊に猟す。獲る所無し。九時帰る。正午井上雅二の印度行を送る。午後七時木幡宅の晩餐に列す。井手、土佐同坐たり。十一時散ず。秋涼初催。

八月二十一日 晴。政木守之の信至る。海軍に報告を發す。夜八田、中島を訪ふ。

八月二十二日 晴。午前弓術を修む。佐藤知恭を訪ふ。

八月二十三日 晴。午前有吉領事を訪ひ、帰途理髮、弓術を修めて帰る。午後熊本内人、清子の信至る。佐々布来訪、金時計一個を購ふ。値五十五元。姚、吳学廉来訪。夜神壽、村上、木幡、平岡を訪ふ。

八月二十四日 微雨。午前弓術を修む。熊本内人に致書す。東京田鍋安之助、政木守之に致書す。

八月二十五日 晴。前弓術を修む。佐々布を訪ふ。午後村上夫人を訪ふ。

八月二十六日 晴。午後平岡を訪ふ。神壽来訪。水野梅暁来訪、本日広東より帰来せりと云ふ。

八月二十七日 日曜。晴天。午前四時半より江湾に猟し、九時帰る。熱甚。神尾、島田、西本来訪。荒賀、田鍋列連名の葉書、並に脇坂岳虎の信片至る。夜西野来訪。

八月二十八日 晴。午前波多来訪、本日北支那より帰来せる者也。殷汝驪の信、並に陳宝琛の写真送来。海軍、大野熊雄、齋藤中佐恒の信至る。軍令部に発信す。

八月二十九日 晴。午前弓術を修む。午後佐々布、神尾来訪、金鎖を購ふ。値四十二元。夜佐々布、平岡を訪ひ、十時帰る。

八月三十日 晴。前四時起床北郊に猟し、八時帰る。獲る所無し。午後相良、伴幸次、中島少佐、塩島大尉来訪。

八月三十一日 晴。理髮、有吉領事、篠田宗平を訪ふ。波多来訪、領事館より七、八、二ヶ月外務手当を受取る。午後佐藤知恭来訪。漢口有安一雄、香港井上雅二、並に村上貞吉の信至る。五時井手の招宴に杏花楼に赴き、九時帰。

九月一日 晴。細川興増男に復書す。金六百円を東京宅に郵送せんとす。為替券期限後にて改て請求の手續を辻氏に托す。今井邦三、佐々布来訪。亀井光政、田中大佐の信至る。

九月二日 晴、殘熱甚烈。午後郵便局に至り為替再度証書請求の手續を了す。藤村義朗より案内状至る。之に復す。北京伊集院大佐、細川孝義の信至る。

九月三日 晴。日曜。前八時税関埠頭に至り、山田純、佐藤、相良等と満鉄の汽艇にて申江を下り高橋に上陸漁猟を為し、正午村中の船長宅に中食し、余と相良、半澤、外一二人汽船に帰り休憩。山田列七八人は午後五時帰船。漁猟獲る所の物を料理して船上に会食し、八時半満鉄棧橋に着、一行と別れ電車にて帰る。有安一雄来訪せりと云ふ。

九月四日 陰、熱甚。午前佐々布を訪ひ為替金六百円の受取方を依托し、郵船会社に至り船室を予約して帰る。午後有安、波多、西山来訪。中島眞雄、速水一孔の信至る。北京亜細亜通信に致書す。六時井手と同車藤村義朗の招宴に赴く。同座は大谷光瑞伯、青木中将、有吉、松井、中島、鈴木、井手、伊吹山等なり。十時散ず。

九月五日 晴。午前弓術を修め、井手と狄を訪ふ、在らず。午後波多を訪ふ。海軍山岡副官より十、十一、十二、三ヶ月分手当六百円を電報為替にて台湾銀行に送り来る。五時大野熊雄、宮寄高四両大学生来訪、只今来着せりと云ふ。佐々布来訪。大野を留て晩食し之に伴て波多の処に至り宿泊せしむ。水野梅暁来別、今夕より遡江すと云ふ。八時水野を鳳陽丸に送る。郵船会社伊吹山徳司の案内状至る、新に支店長として着任せる者也。狄平に致書。

九月六日 晴天。伊吹山に復書す。午前弓術を修む。午後西本来訪。細川興増男の信至る。六時有吉領事の招宴に其官舎に赴く。同座、大谷光瑞伯、青木中将、松井、中島、井手、秦、原田、齋藤和、藤村、土佐等十余人。十時散ず。

九月七日 半晴。海軍よりの電報為替十、十一、十二、三ヶ月分六百円を台湾銀行より受取り之を正金銀行に預け入る。午後安河内、土井伊八来訪。山岡副官の信至る。波多来訪。海軍に報告を發し、別に山岡副官、北京伊集院大佐、亀井、岡、中島眞雄、森恪、速水、並に熊本に在る内人に帰国を報ず。夜波多を訪ふ。

九月八日 晴、熱甚。午前井手、平岡と弓術を修む。馬場義興より案内状至る、之を辞す。狄楚青来訪。午後三時井手等南車站に至り大谷光瑞伯、大野熊雄一行の杭州行を送。四時半帰。

九月九日 晴。前八時法租界に藤村、青木、松井を訪ひ別を告げ、帰途姚文藻、並に有吉、齋藤、原田、伊藤等の領事館員を訪ひ辞行し、弓術を修め帰る。午後村上、佐原、根津、安河内を訪ふ。根津氏は同文書院新入学生を率ひ本日来着せるものなり。田鍋安之助の信至る。漢口岡に致書す。七時郵船会社伊吹山の招宴に俱樂部に赴く。会者二百余人。九時半散ず。

九月十日 晴。朝熊本出身同文書院新入学生来訪。狄平の信、並に梁啓超より案内状至る。野田寛に致書。唐津出身同文書院生大西姓、古川俊の添書を以て来訪。木幡夫人より手製の饅頭一盂を贈り来る。七時井手と同車静安寺路滄州別墅に於ける梁啓超の招宴に列す。青木、齋藤、松井、佐原、張孝純、張広建林撰、劉崇傑以下日支人三十余名。十時半散ず。

九月十一日 半晴。午前弓術俱樂部、有吉、篠寄を訪ひ別を叙す。根津来訪。正午俱樂部に大野熊雄を招き県人五六人と会食し、二時根津、友野、中島眞、波多、井手、島田等を訪ひ帰る。行李を整頓す。姚文藻、神尾、波多、友野等前後來訪。西田耕一京都よりの信至る。

九月十二日 雨天。是日上海を辞し帰国せんとす。朝波多、友野、島田、波多等来訪、十時半近江丸に上る。土佐、志保井同船たり。十一時出港。井手、波多、西本、神尾、篠寄、平岡、秋田、塩島、今井、篠田、鈴木、奥村、薛、沢本、土井、秦、平野、原田、齋藤、伊藤、木幡、藤村等来送。夜に入て船体少く動揺す。食後直に寝に就く。是日中秋無月。

九月十三日 晴。終日土佐、志保井、迫田と談ず。有吉、亀井、有留、土井、川村に致すの信札を作る。是日陰曆八月既望、大月如盆、金波万頃、夜色名状す可からず。九時入浴、十時五島大瀬崎燈台前を過ぐ。

九月十四日 晴。前四時長崎に入る。七時檢疫終り志保井と別れ、土佐孝太郎、迫田茂と共に上陸、税関の検査を了し土佐と握別し、八時車站に至る。東洋日ノ出濱田盛之輔、朝日記者二島菊次郎、並に毎日記者等来訪。十一時二十分の急行車に乗ず。矢村克、大谷高寛、迫田茂等同車たり。早岐にて迫田に別る。四時鳥栖着換車、六時半上熊本着。河口、菅村、田中、古閑、板井等来迎。上車新屋敷の宅に帰る。河口、古閑来訪。

九月十五日 雨。軍令部、山岡副官の信至る。午前中島美喜雄、田中清司、伊豆富人、佐々布遠、井手

友喜、田辺丈夫等来訪。夜井手友喜を訪ふ、今夜より上海に向け出発すと云ふ。

九月十六日 微雨、午後晴。朝清田峻平、井場熊喜氏来訪。午前出て佐々布、田中、板井、河口、阿部野、緒方等を訪ふ。晩河口を訪ふ。

九月十七日 晴。午前園田郭六来訪。九時出て長江虎臣を訪ひ小談、去て松倉を春日に訪ふ、在らず。午後細川孝義、小早川、林原等来訪。有留重利の信至る。

九月十八日 晴。山岡副官に復書す。山田珠一、古莊韜来訪。晌午松倉善家来訪、共に出て市原源二郎を古町に訪ひ、正午三人鰻飯を会食し、三時帰る。古城貞吉母堂の訃至る。夜永原、津野、田中来訪。

九月十九日 晴。朝藤崎神社に参拝し、去て井場、古莊を訪て帰る。十時家族と大江に展墓。十一時裏京町に古城貞吉を訪ひ其母堂を唱して帰る。夜井芹経平、米原繁蔵来訪。

九月二十日 晴。朝細川興増男、宇野貞度前後來訪。長野県知事赤星典太に致書す。鹿兒島迫田茂に致書す。午後内藤儀十郎翁を訪ひ暢談、去て内坪井に津野、永原、田中を訪ひ帰る。晡時武藤巖男氏を訪ふ。夜米原繁蔵を訪ふ。鳥居赫雄の信至る。

九月二十一日 晴。午前内藤儀十郎翁、清田峻平来訪。午後細川興増男を子飼に訪ふ。鳥居に復書。夜石原、三城、金津、中山来訪。

九月二十二日 晴。午前武藤巖男氏、並に久野尉太郎、白木卯一、古城貞吉来訪。晩子飼細川邸の招宴に赴く。井芹経平同座たり。八時辞帰。

九月二十三日 半晴。午前佐々干城氏来訪。正午三浦喜傳來訪。晩食後田中清司来談。

九月二十四日 半晴。午前子飼細川邸より竹部、石原を訪ひ小談。太田黒伴雄の筆蹟一枚を得て帰る。午後三浦喜傳を北岡に訪ひ小談、去て春日に松倉を訪ふ。市原源次郎来会。六時三浦恣倉の招邀に春日の三浦に赴き川観亭に会食、寛談十時に及で散ず。海軍々令部長島村大将より十月二日水交社宴集の案内状至る。

九月二十五日 晴。大野謙次郎、迫田茂の信至る。香月、山内に致書、荒尾の筆蹟一枚を贈る。

九月二十六日 晴。午前商業学校校長原稜威雄来訪。

九月二十七日 晴。海軍山岡副官、田中大佐に致書、来月二日軍令部長の招宴を辞す。夜家族と古閑家の招邀に赴き、九時半帰る。秋冷初て催す。

九月二十八日 晴。近日上京の為行李を整頓す。田中大佐より余が上京期日を電問し来る。直に復電す。東京留守宅に信片を發す。晩家族と河口宅に招待に赴き、十時帰る。

九月二十九日 秋晴如拭、冷氣透衣。終日在家。家俱を整理す。

九月三十日 晴。前八時の汽車にて宇土に至り法華寺城山の先塋を展し、奥村宅を一里に訪ひ、九時五十分の汽車にて帰る。春日に松倉を訪ひ小談、十一時家に帰り家俱を田中、河口両家に預け或は分贈す。東京留守宅に来月二日東上を報ず。松倉、朽木、忝山嘉一郎来訪。晩家族と内坪井田中の招待に赴き、十時帰る。故柴田常三郎弔慰金五円を送る。

十月一日 陰。午前葉室侃温、米原、河口、園田を歴訪し、藤崎八幡宮を拝し、井芹、井場、古閑、上妻を訪ひ別を告て帰る。白木卯、米原、不破、河口、久野、友野母堂来訪。久野より其手製の瓢一個を贈る。友野母堂より菓子を贈る。大江に展墓。松山、古莊、久野、三城を訪ひ帰る。上海有吉、井手、波多、中島、塩島、佐々布、財津に致書、外に石原、金津に信片を發す。晩菅村の主催にて河口、田中、古閑等と会食す。

十月二日 晴。早朝理髮。井上致廣、内藤儀十郎、武藤巖男、井場熊喜、井芹経平、上妻博之、阿部野諸氏来訪。零時半新屋敷の宅を出て上熊本に至り、一時二十分の急行に乗ず。河口、菅村、田中各家族、古閑、佐々布遠、小早川秀雄、町野貞吉、久野尉太郎、米原繁蔵夫婦、松山嘉一郎、葉室侃温、井場、園田、井芹夫人等来送。不破昌材同車、大牟田に至り相別る。六時門司着、馬関に渡り七時十分の特別急行の寝台車に乗ず。

- 十月三日 雨。朝七時神戸を過ぐ。午後車上より鳥居に葉書を発す。秋雨蕭々。夜八時東京駅着、政木来迎。自動車にて麻布北新門前町二番地の寓に入る。
- 十月四日 雨。白岩龍平、亀井陸良、西本省三、鳥居赫雄の信に接す。白岩は明日より上海に赴くと云ふ。鳥居は現に滞在中なり。亀井、有留、西本に復書す。
- 十月五日 雨。河口、田中、菅村、鳥居、佐々布、波多に致書す。午後海軍軍令部に出頭、田中、増田両大佐、並に高倉中佐、八角少佐に面談す。山岡副官に抵り小談。是日大正三四年戦役の功に依り勲四等に叙せられ瑞宝章を賜はる。副官部に至り領受して帰る。夜内人と十番附近に散策す。
- 十月六日 雨。午前海軍々令部に島村軍令部長、山屋次長、山岡副官、竹下少将、田中大佐を訪ふ。堀悌二、水落高五郎二氏に邂逅す。外務省に小池政務局長を訪ふ、在らず。午後鳥居赫雄来訪。鷺沢に信片を発す。夜賀来敏夫来訪。
- 十月七日 陰。午前山内を同文会に訪ひ、去て小村欣一を外務省に訪ふ、在らず。政木守之、白岩夫人来訪。四時内子清子を飯倉附近に散歩して帰る。熊本より通運して送りし荷物九個来着。
- 十月八日 半晴。日曜。終日在家。傢俱を整頓す。夜内人と市中を散策す。
- 十月九日 雨。午前外務省に小池政務局長を訪ひ、去て海軍に森山、竹下両少将、増田大佐、八角少佐等と会談し、晌午帰る。荒賀、宮島、古城に入京を報ず。
- 十月十日 雨。午前勝木恒喜来訪。赤星典太、田鍋安之助に致書す。高島義恭氏に致書。
- 十月十一日 晴。午前荒賀直順来訪。午後同文会に根津、山内を訪ひ、去て高田に細川侯爵を伺候す。軽井沢旅行中にて蓑田と小談、辞して古城貞吉に抵り、帰途信盛堂にて帽子を購ひ五時帰る。上海佐々布より金六百円を送り来る。有留重利の信至る。夜川口市之助、賀来敏夫来訪。
- 十月十二日 陰。午前同文会に至り根津、小川平吉、山内等に会す。上海有吉、佐々布、波多に致書す。午後より雨。
- 十月十三日 雨。有吉に致書す。午後同文会主催の懇話会富士見軒に開かる。降雨甚きを以て行かず。北京伊集院大佐に致書す。
- 十月十四日 新晴。上海波多の信至る。同時に金二百円を送り来る。波多、中島少佐に致書す。午後内人と白金地方に散歩す。泉岳寺前に竹下少将を訪ふ、在らず。夜池部、政木両学生来訪。
- 十月十五日 雨。午前八角少佐三郎来訪。午後田鍋安之助来訪。
- 十月十六日 陰。午前宮島大八を代々木に訪ひ、正午帰る。井手三郎、白岩龍平、平岡小太郎に致書す。夜内人と愛宕町に散歩す。
- 十月十七日 快晴。神嘗祭。午前野満四郎来訪、十時半家族同伴渋谷に至り、玉川電車に換坐し玉川に遊び、玉泉亭に投げ鮎を焼て中食し、三時半帰寓。香港井戸川大佐辰三に致書、其病を慰問す。
- 十月十八日 晴。午前三時同文会の評議員会に出席す。小川、柏原、江藤、田鍋、江口、山口等出席、五時散ず。帰途井上清秀を晩翠軒に一訪して帰る。夜市中を散歩す。
- 十月十九日 午後雨。午前高島義恭、浅井榮熙を訪ひ、晌午帰る。山本唯次、宮島大八来訪。山本は本日上海に赴くと云ふ。熊本菅村、河口、上海佐々布、辻源助、古賀に致書す。井手三郎に致書す。田鍋の信至る。
- 十月二十日 雨。海軍省より月の二十五日東京湾に於ける恒例観艦式の拝観券を送り来る。田鍋に復書す。
- 十月二十一日 新晴。午前海軍々令部に森山少将、増田、田中、山岡副官を訪ふ。特別機密費五百円を領収す。晌午帰る。副官に領収証を發す。北京亀井陸良の信至る。
- 十月二十二日 晴。前九時田鍋と同文会に会し電車にて本所の押上に至り、更に京成線に換坐し宮島大八、荒賀直順等と市川に至り下車。利根川の長橋を度り、長堤を歩いて鴻之台の渡頭に至りて川を渡り、台上の茶店に休憩し行厨を開て小酌す。山内崑後れて来会。眼下利根川を隔て武蔵の平原を一望

に収む。形勢甚雄大なり。午後二時茶店を出で里見義廣、廣次等の古墳を弔し里見時代の古刹を見、深林を徜徉し間々の二葉楓を見て丘を降り、手古奈の靈堂を拝す。奈良朝時代の旧祠なり。有名なる間々の^{ツギハシ}繼橋を度り市川新田に出で、東華園の菊を賞し小亭に入て憩ふ。境地閑靜にして瀟洒、尤も人に可なり。三時半新田より電車に乗じて押上に帰り、途中一行と別れ六時半帰寓。上海波多の信至る。

十月二十三日 晴。亀井陸良、波多、有留、白岩、佐原、古閑信夫に致書す。内藤儀十郎、松山嘉一郎、古閑信夫諸氏に致書す。河口介男、菅村三之の信至る。午後野満四郎、角谷八平次来訪。

十月二十四日 晴。午前上海有吉領事、波多博の信至る。午前内人と上野に至り文展、並に婦人子供博覧会を觀、精養軒に中食して帰る。

十月二十五日 半晴。是日東京灣に於ける恒例觀艦式に拝觀の筈なりしも事を以て辞す。午後外務省に小幡參事官を訪ひ暢談、帰途山内を同文会に訪ふ。荒賀の信至る。上海有吉、波多に復書す。北京伊集院大佐の信至る。京都小川亭、大阪鳥居に致書す。

十月二十六日 雨。長野赤星典太氏より吉田松陰先生の真蹟一枚を送り来る。赤星に礼状を發す。午後加藤壯太郎来訪。荒賀直順氏に復書す。

十月二十七日 晴。朝理髮、蓑田喜太郎に致書す。是日京都に赴かんとす。午後七時家族を伴ひ東京駅に至り神戸行の汽車に上る。車中飯田大佐久恒に邂逅す。

十月二十八日 微雨。朝七時十五分京都着。車站に於て井芹経平に邂逅す。車を賃して小川亭に至り投宿。朝食後三条より電車桃山に至り先帝、皇太后両陛下御陵を拝し、次に乃木神社を遙拝し、中書島に至り宇治行電車に換坐し黄檗山下を過ぎ宇治に至り下車、歩して宇治橋を渡り菊屋に投じて中食す。膳羞皆宇治川の鮮、味頗美。室内所掲萬碧樓の扁額は文化年間頼山陽の書する所。食後車を賃し平等院に至り扇ヶ芝、頼政卿の墳、河原左大臣の別業等を巡視す。此の別業は朝鮮式の建築にして千五十年前の物也。帰途橋側の茶店通円にて豊太閣遺物の鈎瓶を觀、土宜数点を購て帰る。

十月二十九日 雨。前八時車を賃して若王子に至り、故荒尾精氏の贈位奉告祭と建碑式に列す。頭山満、根津一、中西正樹、荒賀直順、田鍋安之助、豊島、岡田、吉原、鳥居、松倉、其他百余人来会。九時の開式後れて十一時半に至り始て式を挙げ、午後二時終了。五時より円山左阿弥の懇親会に赴く。鳥居、頭山、山内、田鍋、山内、松倉、岡田、吉原、豊島、森清右衛門、遠藤留吉、外山八代吉来会。席上内外知人に合作の信片を發す。九時散ず。鳥居来り宿す。

十月三十日 半晴。朝鳥居大阪に帰る。十時家族と四条大宮に至り嵐山行電車にて嵐山に至り、三友亭に投じ中食す。桂川の鮮尽く膳に上り、味甚美。食後小督の墓を弔ひ渡月橋を渡り法輪寺に遊び、下りて大堰川の左岸に沿て嵐峡に向ふ。楓葉未呈紅、纔に淡紅を帯ぶるのみ。去て嵯峨の天竜寺に至る。境内廣大、荷池、松林迷清無比、臨濟五山の一にして足利尊氏、後醍醐天皇追福の為に創建せしものにして夢窓国師の開基に係はる五百七十年前の古刹なり。電車四条に至り市内電車に換坐し、祇園に至り円山公園を巡覽、知恩院各室の古画を觀て帰る。寺境内七万余坪、畳の数五千余枚と云ふ。夜狩野直喜を田中村に訪ひ、九時帰る。

十月三十一日 晴。天長節。前十時三条より電車大津に至り三井寺を一覽し、去て湖南游覽船に乗り、先つ唐崎に至り巨松を觀る。老幹蟠屈一千五百余坪の広に及び実に天下の偉觀なり。惜哉、枯朽小半に及び樹齡長久なる能はず。再び原船に乗り膳所、瀬田を經、石山に至り下船。柳屋に投じ琵琶湖の鮮を割き、中食之後石山寺に上る。千百余年前の古刹、紫式部の源氏の間、並に其の愛硯等を見、月見亭に至る。後白河帝親月之址眺望佳絶、湖山の勝襟帯の下に在り。山を下りて電車にて大津に降り、辻ノ札より京都行に換坐し、五時小川亭に帰る。狩野直喜、松倉善家来訪、夜更に及で去る。

十一月一日 雨。佐野直喜大阪よりの電話有り、夜同氏の信に接す。

十一月二日 晴。晌午小川亭を辞し七条に至り、十二時半の汽車にて芦屋に向ふ。二時着鳥居夫人来り迎ふ。鳥居氏に投ず。六時鳥居帰来、食後閑談、十一時就寝。

- 十一月三日 晴。是日立太子式を挙行せらる。寔に普天同慶たり。午前佐野大阪より来訪、松倉善家亦期せずして来り会す。正午鳥居夫婦の東道にて電車香櫛園に至り下車、更に自動車を賃し六甲山苦楽園松雲館に至り鳥居、松倉と温泉に一浴し、食後内外知人に三人合作の信片を發す。此処眺望佳絶、前は海を隔て金剛、葛城の諸山を望む。實に坂神の勝概なり。三時半香櫛園に至り松倉と分袖、鳥居宅に帰て撮影す。
- 十一月四日 晴。京都狩野に致書。朝食後鳥居を辞し芦屋車站に至り八時半の汽車にて發す。京都にて下車、沼津行の汽車を待つ約一時間、十時半發車。午後七時浜松着、大米屋に投宿す。
- 十一月五日 快晴。前九時浜松發。晌午金谷を過ぎ大井川を渡る。富嶽を天半に望む。半峯以上白雪皚然青空に浮び出で、神秀玲瓏、車窓之に対し心襟如洗、快不可言。静岡にて中食、五時半新橋着。車を賃して麻布の寓に帰る。藤沢にて山田修作に邂逅す。留守中竹下中將、川口市之助夫婦、柗岡等来訪せりと云ふ。波多、佐原、佐々布、白岩、松山嘉一郎、有留、友野の信に接す。
- 十一月六日 健晴。波多、村上貞吉の信至る。午前理髮。午後海軍々令部に至り小談、去て外務省に小幡政務局長を訪ひ暢談、帰る。
- 十一月七日 晴。午前名和中將を榎坂町に訪ひ暢談、井上副官、田中大佐亦来会、中食の饗を受け三時辞歸。上海井手、白岩に致書す。有吉、波多、神尾に致書。夜賀来來訪。
- 十一月八日 晴。鳥居赫雄、池部雀彦に致書す。午前高島醇、根津一氏来訪。午後増田大佐の信至る。五時半より華族会館の一水会に出席す。秋山少將眞之の歐洲戦局実見談、小幡政務局長の支那時局談有り。会食後十一時に至り散ず。出席者は徳川慶久公、秋月戸都夫、床次、山根、竹下、森山、小村、門野、江口以下二十余人。
- 十一月九日 雨。上海有吉領事に致書す。午後名和中將を赤阪榎坂に訪ひ別を叙す。其本夕舞鶴に帰任するを以てなり。帰途同文会に根津氏を訪ひ、五時紅葉館の宴に赴く。森山少將慶三郎、田中、増田両大臣、高倉、中島、八角、秋元等の中少佐同座たり。八時半帰。雨。
- 十一月十日 雨。上海村上貞吉に復書す。午後山内崑来訪。上海白岩龍平、熊本井手三郎に致書。同文会常任幹事に田鍋を推挙することを交渉す。古賀末藏の信至る。
- 十一月十一日 雨。神尾茂、鷺沢、八角少佐の信至る。午後野満来訪。夜政木来る。
- 十一月十二日 晴。日曜。八角少佐に復書す。午前佐々、守田愿両家を市ヶ谷に訪ひ、去て荒賀直順を小石川に訪ひ、共に出て中西正樹を清風亭に敲き小談。去て田鍋安之助に抵り、三人抜け弁天の鰻屋に至り中食し、閑話時を移し四時帰る。川口市之助来訪せりと云ふ。鳥居素川、相良忠道の信至る。夜川口市之助来訪。
- 十一月十三日 晴。午後加藤大佐壯太郎を小石川林町に訪ひ寛談。帰途京橋中橋泉町に尾越辰雄を訪ふ、在らず、五時帰る。上羽恒雄に奠儀二円を郵送す。其祖父勝衛翁の訃に接せしを以てなり。
- 十一月十四日 陰。外務省小幡參事官の信至る。午前外務省に小幡局長、藤田會計課長を訪ひ、帰途同文会に山内を訪ひ帰る。東方通信北京支社の件に付き波多博に致書す。大倉喜七郎の案内状、並に黄興追弔会の通知状に接す。野満四郎に致書。夜田辺丈夫、脇坂岳虎来訪。守田愿、尾越辰雄の信至る。雨。
- 十一月十五日 雨。守田に復書す。上海波多の信至る。
- 十一月十六日 陰。井手三郎熊本の信至る。午後宮島大八を訪ふ、在らず、去て速水一孔を訪ひ五時帰る。
- 十一月十七日 陰。守田愿、河口介男に致書す。是日黄興の弔祭を芝青松寺に執行せしも事を以て行かず。雨。
- 十一月十八日 雨。田辺丈夫の信至る。之に復す。午後三時より家族と靖国神社能樂堂に至り能を観る。夜九時散ず。河口夫婦来訪せりと云ふ。

十一月十九日 晴。前九時品川に至り京橋電車にて鶴見の総持寺に至り西田龍太の一週忌法要に列す。会する者根津、田鍋、中西、上野岩、宮島、根岸、岡次郎、速水、角谷、川口、富田安、以下十余人。読経、焼香後展墓。正午齊堂にて用膳。二時中西、川口と共に帰る。総持寺は曹洞宗の本山にて能登より此地に移転せし者。新築未だ全く竣工せず。規模壮大。建営費百五十万円。境内十万坪有り。五時旧友会に四谷三河屋に出席。守田、古川、尾越、蓑田、古城、久品、富田来会、九時散ず。古川の麴町の寓に至り菊を観、十時半帰。

十一月二十日 晴。上海波多の信至る、十月分手当を送り来る。白岩龍平の信至る。午前本郷蓬萊町に至り弓鞆を注文し、荒賀直順を水道町に訪ひ、共に出て日本橋丸花に至り中食す。貴賤雑踏斗室纒に膝を容れ肩臂相摩す。食後歩いて二重橋外に至る。偶々兩陛下の御出門に遇ひ途上に儀仗を拝し、日比谷公園に菊を賞し茶亭に小休、茶点を用ひ、虎門にて荒賀に別れ帰る。八角少佐の信至る。

十一月二十一日 晴。午前海軍々令部に出頭、田中、八角、坂本副官を訪ひ、帰途山内崑を同文会に訪ふ。午後内人と渋谷、広尾一帯に散策し、四時帰る。夜小幡惟晴来訪。神尾茂上海よりの信至る。

十一月二十二日 快晴。終日在家。午後野満四郎、柴田乙次郎来訪。夜川口市之助夫婦来訪、雉子一羽を贈る。

十一月二十三日 晴。神嘗祭。午前竹下少将勇を泉岳寺前に訪ふ。会津人菅野弥吉坐に在り。奇人なり。中食の饗を受け午後二時帰る。三時森山少将慶三郎を下渋谷に訪ふ、在らず。賀来来訪。古川の信片至る。大阪齋藤中佐恒の信片至る。

十一月二十四日 晴。友野盛、齋藤恒に復書、別に上海東和洋行に致書す。午前内人と古川宅を訪ひ、去て富士見町の家屋を視て帰る。午後相良忠道来訪。四時同文会大会に華族会館に出席す。会者百五十余人、終て会食す。支那公使章氏以下来賓として列席す。九時散ず。

十一月二十五日 健晴。午前荒賀を訪ひ、共に出て中西を清風亭に訪ふ、在らず。熊谷直亮を赤城神社に訪ひ小談、去て田鍋安之助を訪ひ、三人同伴日本橋丸花に至り中食し、二時帰る。八角少佐の信至る。之に復す。古川に致書す。河口、古閑の信至る。

十一月二十六日 微雨。前八時半東京駅に至り細川侯爵を迎ふ。晌午中食、品川に至り京浜電車に乗ず。八角少佐、杉英三郎に邂逅す。鶴見総持寺に至り観音供養に参列す。是日清韓兩國に於ける戦病死者の追善を行ふ。終て大食堂に晩膳を用ひ、八時帰る。会する者二百五十人。

十一月二十七日 晴。朝水野梅暁、相良冲堂前後來訪。午前理髮。午後三時大倉喜八郎男授爵披露宴に帝国劇場に赴く。会者七百余、主賓両方の式辞終て演劇を観、七時宴席に移り、終て再び観劇。十時散ず。

十一月二十八日 雨意。午前外務省に小幡、藤田両氏を訪ひ、東方通信社北京支社創立の事を決定し、帰途同文会に角谷、山内を訪ふ。上海有吉、波多、島田、佐々布、佐原に致書す。池畑平次郎来訪。

十一月二十九日 雨。忝山嘉一郎に致書。午後宇野哲人来訪。四時東京駅に至り田中大佐耕太郎の露国行を送り、上田仙太郎に致すの書信を托す。田鍋安之助来訪。

十一月三十日 風雨。鳥居、古閑信夫、水野梅暁、角谷、長崎郵船会社、八角少佐に致書す。角谷より支那省別全誌広東の部を送り来る。田鍋、荒賀、田辺、脇坂、川口夫妻、賀来、八角列に会食の請帖を發す。

十二月一日 快晴。小幡西吉の信片至る。午前鷺沢與四二を有楽町東声社に訪ふ、在らず。白岩、井手に致書す。鳥居素川の信片至る。夜賀来来訪。

十二月二日 微雨。午前増田大佐の信至る。晌午増田を軍令部に訪ふ。中島、秋元、八角三中佐に面す。増田は朝日艦長に転じ、其他も本日を以て転任する者なり。午前中西正樹来訪、今夕啓程青島に赴くと云ふ。中食後外務省に本野外務大臣を訪ひ暢談、二時半帰る。齋藤雅方来訪。宮島、速水に案内状を發す。晩小幡惟清、田辺丈夫、脇坂岳虎を招き会食す。

- 十二月三日 微雨。日曜日。大坂佐野直喜、熊本松倉善家、三浦喜傳、長江虎臣に致書す。夜川口市之助夫妻、賀、石田健一郎を招き会食す。
- 十二月四日 雨。朝相良忠道来訪。荒賀、田鍋を招き中食を共にす。午後加藤壯太郎来訪。夜陸大尉川岸文三郎来訪、上海駐在の爲め七日より出発すと云ふ。賀来敏夫来訪。
- 十二月五日 快晴。井戸川大佐辰三の信至る。晩宮島大八、速水一孔を招き会食す。八角は病を以て至らず。十時半散ず。上海有吉明の信、並に高島義恭氏より招待状至る。
- 十二月六日 快晴。午前荒賀直順来訪。高島氏に復書す。午前大倉喜七郎を広尾に訪ふ、在らず。午後内人と銀座に至り物品を購ふ。海軍々令部次長より水交社晚餐の案内状至る。海軍より明年正月至三月手当九百円を送り来る。夜大学生脇坂、田辺、田中、都築、沼川来訪。上海波多の電報至り北京行の事を通知し来る。直に返電を發す。軍令部次長に復書す。松山嘉一郎、佐野直喜の信至る。
- 十二月七日 雨。朝川岸大尉の上海行を送り、去て外務省に小幡政務局長を訪ひ小談、辞して軍令部に森山少将、坂本副官を訪ふ。午後本郷蓬萊町より小石川林町に至り加藤壯太郎を訪ひ、五時帰る。夜賀来来訪。
- 十二月八日 雨。細川侯より十一日招宴の御通知に接せしも十日出発の爲め之を辞す。片山次雄に復書す。小幡惟清、長江虎臣、川岸文三郎の信至る。朝熊谷直幹来訪。午前理髮。鷺沢、宇野哲人、安達謙蔵、井手三郎に致書す。六時海軍軍令部次長の招宴に水交社に赴く。同座は鈴木海軍次官、吉田、井手、森山の各少将、八角、中島晋、坂本副官、高倉等の各大中佐、其他数人なり。宴散じて後一場の講話を爲し、寛談九時に及で辞帰。井手の信片至る。熊谷直亮の詩信、松倉、井口、長江、川岸等の信至る。熊谷に次韻す。上野岩太郎、野満来訪。
- 十二月九日 陰寒。午前井手三郎来訪。十時軍令部に至り山屋次長を訪ふ、在らず。八角中佐と少談、帰る。田辺丈夫、齋藤恒に致書。鳥居に一書を致す。別に井口忠、阿部野に致書す。北京波多博に致書す。午後荒賀、松本朝之助、坪井、北嶋、八角中佐来訪。吉増次郎に致書す。夜宮島大八来訪。七時森山少将の支那行を東京駅に送る。八時尾越辰雄来訪、十一時去る。
- 十二月十日 陰天。是日家を辞し支那に向はんとす。朝来行李を整頓す。池畑平次郎、相良忠道来訪。午後三時麻布北新門前町の寓を出て上車新橋に至り四時八分の急行車に乗ず。八角海軍中佐、井手三郎、田鍋安之助、川口市之助、賀来、小幡惟清、野満、石田健一郎、沼川、脇坂、田中、都築、政木等来送。微雪。
- 十二月十一日 快晴。前六時半大阪着。佐野直喜車站に來迎、小談の後握別す。午後八時二十四分馬関着、直に門司に渡り小憩。大阪鳥居、熊本山田、小早川に信片を發し、十時の長崎行に乗ず。
- 十二月十二日 晴。前六時半長崎着。本博多町の土佐屋に投宿す。熊本河口、田中、古閑、菅村、森倉、長江、東京八角、井手、田鍋、河口、小幡等に信片を發す。東京留守宅、荒賀、宮島、尾越に信片を發す。午前市中にて紙類を購ふ。川村景敏に致書す。
- 十二月十三日 晴。午前川村景敏来訪、郵船会社の支店長として此地に在る者也。午後出て正金銀行に高道竹雄を、郵船に川村を訪ふ。
- 十二月十四日 夜来大雨如注。午後三時土佐屋を出て税関に至り、汽艇に乗り筑後丸に上る。川村景敏来送。寺尾亨と同船たり。四時開船、港外に出れば風濤甚高。
- 十二月十五日 陰。風濤頗險。朝食を用ひず。
- 十二月十六日 快晴。波濤始て平なり。正午吳淞口外に達し、午後一時半上海に入港す。白岩、津田少佐、島田、井手友、山成、山田、西山、辻、八田列来迎。白岩と同車東和に入る。八田、神尾、佐々布、成田鍊、水野梅暁来訪。晩津田少佐、壁島軍医少監、平岡小太郎、島田数雄来訪。内人の信、並に鳥居、阿部野、石丸素一、長安英彦、北支那通信社浜岡福彦の信、並に木幡恭三の案内状至る。
- 十二月十七日 快晴。午前有吉領事、青木中将、藤村義朗、白岩を歴訪して帰る。宮寄寅蔵、西本、奥

村正雄，井手友喜来訪。午後島田，井手，津田，壁島，弓術俱樂部，宮寄寅を訪ひ帰る。更に出で八田，佐原，根津，村上を訪ひ，六時小幡の晚餐に赴く。白岩，篠寄，井手，山田，画家中島某同座たり。支那料理の饗有り。十時散ず。

十二月十八日 陰。午前領事館に岸倉松，原田官補，伊藤等を訪ひ，去て弓術俱樂部，宮寄寅蔵，佐々布，平岡，秦，姚等を歴訪し，正午帰る。奥村政雄，東京日々社田中収吉，姚文藻，平山氏清，山成等来訪。松倉，相良忠道，吉田増次郎，同文会の信至る。是日山屋中将，坂本大佐，八角中佐，東京留守宅に小包にて筈を送る。平岡，神尾，佐々布夜に入て来訪。雨。山屋中将，坂本大佐，八角中佐，留守宅に発信す。

十二月十九日 雨。正午弓術俱樂部委員平岡，中島，水谷，長沢と俱樂部に中食し，篠寄，八田を一訪し帰る。午後井手友，白岩龍平，甲斐友比古，西山武八，成田錬之助来訪。根津一氏より二十三日晚餐の案内状至る。杭州行の約有るを以て之を辞す。

十二月二十日 晴。午前田中収吉，津田少佐を豊陽館に，佐々布を実業協会に訪ひ帰る。宮島〔崎？〕民蔵来訪。午後正金に至り五十元を受取り白岩，木幡を訪ひ帰る。白岩は今夕帰国する者也。午後八田厚志，神尾茂，松井石根来訪。北京波多博，熊本田中清司の信至る。夜木下温知，水野梅暁来訪。

十二月二十一日 微雨。午前馬車仏租界福開森路に至り黄輿の祭式に列し，帰途有吉を訪ひ正午帰る。姚文藻来訪。白岩の信至る。漢口岡，奉天中島，一ノ宮に東方通信社北京支社の件を通告す。波多に北京に致書す。午後平岡，三菱原田を訪ふ。西本省三来訪。夜神壽正助，山田謙吉来訪。

十二月二十二日 快晴。午前神尾茂来訪。午後山口昇，八田厚志来訪。田辺丈夫の信至る。夜弓術倶楽部の総会に出席，十時半帰。

十二月二十三日 快晴。午前根津を同文書院に訪ひ，帰て獵装を整ふ。是日午後二時の汽車にて平岡，水谷，三田，山成等と浙江に出獵するを以てなり。一時上海北站に至り上車す。水谷誠造，山成和四夫，三田，神壽同車たり。平岡は明朝の汽車にて来会すと云ふ。夜八時開口着，恒陞棧に投宿す。神崎は杭州站に下車。九時晩食。三田一人先発大諸橋に向ふ。

十二月二十四日 晴。七時轎に乘じ錢塘江の左岸に沿て大諸橋に向ふ。八時半着，行李を卸し直に獵区に向ふ。午前獲る所無し。午後雉子二羽を獲，四時宿舎に帰る。六時平岡来着。晩餐後舟を賃し七時大諸橋を發し錢塘江を下り開口に向ふ。十時着。恒陞に投宿。

十二月二十五日 雨。前七時半汽車良山門に至り下車す。神壽在焉。行李を茶店に托し獵区に向ふ。雨雪交も至り朔風凜烈，祁寒骨に徹す。午前無所獲。平岡と「ヤブサ」に中食。午後山鳴二羽，鶉二羽，鴨三羽，秧鶉一羽を得，五時良山門の茶店に帰る。水谷，山成，三田の三人は汽車にて上海に帰りしと云ふ。平岡と茶店に宿す。寒氣殊甚。

十二月二十六日 快晴。前七時半の汽車にて良山門を發し車中に朝食，午後一時上海着。平岡と別れ東和の寓に帰る。相良忠道の信に接し，山口啓三より鮭の筋子一樽を送り来る。夜佐々布を訪ふ。

十二月二十七日 快晴。午前佐々木武蔵，山成和四夫来訪。佐々木は湖南より来り一時帰国する者なり。湘筆二箱を贈る。山口啓三に雉子，鴨を贈る。八田厚志，松井石根，川岸大尉来訪。佐原より明夕の案内状至る，之に山鳴二羽を贈る。大坂相良忠道の信至る。夜弓術倶楽部の委員会に出席，十時半帰る。

十二月二十八日 半晴。午前川岸大尉，津田少佐，根津院長を訪ふ。根津は本日帰国する者也。晌午津田少佐来訪，共に出て潮梅有志の招待に一品香に赴く。支那側は唐紹儀，孫文，譚人鳳，于右任，胡漢民以下三四人。午後二時半散。神尾茂より葡萄酒を贈り来る。神壽来訪。青島浦六郎の信至る。外務省十二月分経費二百円を受取る。神尾，財津寿二，神壽正助来訪。晩佐原宅の晩食に赴く。島田，平岡，安河内，西本，神尾，奥村同座たり。十時散ず。雨。

十二月二十九日 雨。午後西野忠吉来訪。台湾銀行支店長黒葛原兼温より温州蜜柑一大簍を贈り来る。

平岡、姚、狄に致書。夜八田を訪ふ。小川平吉の電報至る。水野梅暎来訪。

十二月三十日 雨。正金銀行より銀子を受取る。北京伊集院大佐に報告写を送る。午後安河内来訪。吉田少将増次郎、岡幸七郎の信至る。夜姚文藻来訪。

十二月三十一日 陰。上海日報に至る。津田少佐、今井邦三来訪。細川孝義の年賀状至る。午後八田、平岡来訪。海軍に報告を發す。夜更八田厚志来訪。

丙辰除夜

河山拳目感相牽，世事看来幾變遷，堪笑半生淪落客，一燈依旧送殘年。

又

星光落地夜窓虛，閑撥炉灰賦索居，臘鼓声々歲欲暮，挑燈繙尽讀殘書。

3. 大正6年1月から12月までの日記

大正6(1917)年の日記は、この1年間と翌7年7月末までの分が一綴じになっている。

前年12月中旬に日本から上海に戻ってそのまま新年を迎え、9月半ばに帰国するまでは上海に留まっている。元日に升允と会い、その後も升・姚文藻の2人と会ったり、姚1人と会ったり、さらに鄭孝胥を加えて会ったりと、宗社党のメンバーとは足繁く顔を合わせている。そのうち2月21日には、徐州の張勳のところから「参謀少将」の張杰が姚を訪ねてきて宗方もその場におり、その後張は3回宗方を訪ねている。日記にはその時何を話したかをむろん書いていないが、張勳は宗方を通じて日本に何らかの支援を期待しているかのようである。他に孫文とは、3月14日、4月21日に日本人が招いた宴席で顔を合わせており、6月1日には孫文自ら設定した宴席で会っている。このように宗方がこの年中国人の複数のグループないし個人と会った回数を途中まで見てくると、前年に比べてかなり減っているのに気付くし、ほぼ宗社党関係者との付き合いになっているように感じるが、宗方としては各グループに会ってそこで何らかの情報を得る回数は減っても、その分を以前から鍛えてきた情報収集能力を発揮して補い、日記には中国の政治情勢の変化を断片的に、例えば「是日支那政府は独逸との国交断絶を宣布す」(3月14日)、「是日支那対独宣戦問題議会に提出せられ、通過無望を以て公民団を駆り包圍を脅迫せり」(5月10日)、「是日黎元洪命令にて段祺瑞を免職す」(5月23日)などと記す一方で、その時々海軍宛の報告では、政府や各グループの動きを詳しく拾って、袁世凱亡き後の中国政界の混乱ぶりを紹介するとともに、それらの動きの行き着く先の見通しを書いているのである。

宗方の海軍宛報告を一々取り上げる準備がないので、ここでは6月3日付けの報告第477号のみを紹介するならば、以下のとおりである。「今次の政変は北洋系軍閥と民党との衝突にして、辛亥革命以来醗酵する所の者端無く宣戦問題と段総理免官の動機に藉りて爆発を見るに至りしものなり。……張勳は表面未だ独立を宣言せずと雖も、……各督軍の牛耳を執り、通謀一致して現政府に対抗し、一面天津を根拠とせる徐世昌、段祺瑞等と相聯絡して進行を策しつつ有る者なれば、其上京調停の結果は国会の解散、黎總統の退位と為り、然して後彼等軍閥の宿願たる徐世昌を中心とせる北洋系内閣を組織して民党を政治圏外に駆逐するか、否らざれば一躍して宣統帝を復辟せしめ共和政体を根本より破壊するかの二途に出でざる可く、要するに此次政変の結局は列国にして現政府を援助せざる限りは予定の如く北洋系の勝利と為りて民党の失敗に帰すべき形勢に在り。」

そして日記によると、その後事態は「天津に軍政府成立し、徐世昌大元帥に」なり(6月3日)、「本日支那議會解散を命ぜら」れ(6月13日)、さらに「是日午前四時宣統帝復辟」し(7月1日)、「本日張勳戦敗、和蘭公使館に避難」(7月12日)と移っていくのである。段祺瑞が軍を出動させて張勳による復辟の策謀を潰えさせることになるのを宗方が想定してはいなかったと思えるが、こうして数年来海軍宛の報告ではそれとは書いていないものの、日記からは清朝復辟を支持し、その旨海軍や宗方周囲に

も浸透させていたことを窺える宗方の動きが、この時には実を結ばなかったことになる。しかし、この後にも姚文藻や鄭孝胥らとの交流は続いていくのである。

同時期上海での他の動きを見ると、宗方は前年までと同様狩猟に精を出しており、狩猟に出かけない日はほぼ毎日弓術に通っている。東亜同文書院については、前年から建築中だった徐家滙の新校舎が完成してそれまでの校舎から移転する3月29日当日、弟子の波多博と漢口楽善堂・東亜同文会と続く同志で当時済南に住んでいて上海を訪ねてきた中西正樹とそこを見に行き、4月22日にはその落成式に参列している。さらに、漢口楽善堂の同志でロシアの南下を阻止する任務を負って新疆イリに向かい、その途中明治22(1889)年に消息を絶った浦敬一の養子六郎が3月に宗方を訪ねてきて、宗方は彼を東亜同文書院に入学させようとして根津一に掛け合っていることも日記にある。その後浦六郎は東亜同文書院への入学を認められ、宗方が学費を出しているのである。また、東方通信社には時折顔を出しているが、他に7月から8月に亞洲日報館を訪ねており、そのうち8月7日には井手三郎、有吉領事らと同新聞の「編輯上の事を商量」とある。……4月3日には小学校落成式に参加、「校舎は四層より成り、工費十四万両を要し、日本第一の建築と称す」と書いているのは、北四川路に設置した「北部日本尋常小学校」を指している。他に、4月5日に熊本の井尻経平に手紙で「田邊文夫を養子に貰受の事を依頼」し、5月7日にそれが承諾されて、日本に帰っている11月17日にその手続きを完了したとするのは、一人娘清子の結婚と時期を同じくして進めた措置であったと思われる。養子となった文夫は、前年帝大生として上海を訪れてしばし滞在しているうちに宗方に気に入られて話が進んだということであろうか。

9月17日に長崎に着いてからは、東京、熊本、さらに東京と移った後、12月19日には上海にもどり、この年を終えた。

ここで、大正6年に海軍軍令部あてに送った宗方の報告の日付と号数を、前年と同じ要領で『宗方小太郎文書』中の記載と対照しつつ、日記から拾い出す。

1月2日、第464号「参議院議員選挙の情況」、1月7日、第465号「革命党要人の索款」(『文書』の日付は1月4日)、1月20日、第466号「民党大同団結の計画」(『文書』の日付は1月21日)、2月13日、第467号「米独国交断絶と支那」(『文書』の日付は2月11日)、2月28日、第468号「支那重要時事彙報」、3月10日、第469号「独支問題に対する両派の争執」(『文書』の日付は3月9日)、3月20日、号外「康有為の政府に致せる電報」(『文書』の日付は3月18日)、4月4日、第470号「宣統復辟の運動」(これは上海所蔵)、同日、第471号「北洋系官僚の結束(統一党)」、4月12日、第472号「宣統復辟に対する管見」(上海所蔵、日付は4月10日)、4月18日、第473号「軍事会議」、4月27日、第474号「四川事変の顛末」、5月11日、第475号「対独宣戦案と国会」、5月18日、第476号「宣戦問題の糾葛」、6月4日、第477号「支那政変の観測」(『文書』の日付は6月3日)、同日、第478号「孫文との問答」(上海所蔵、日付は6月3日)、6月12日、第479号「天下三分の形勢」(『文書』の日付は6月11日)、7月2日、第480号「支那政局の紛糾」(『文書』の日付は7月1日)、7月5日、第481号「宣統復辟の反動」(『文書』の日付は7月4日)、7月11日、「報告発し」とあるが、『文書』にも上海にもない。7月26日、第482号「総統問題・段祺瑞の行動・清室善後問題・直隸安徽二軍閥の暗潮と其将来・民党の活動」、8月3日、第483号「南北対峙の形勢」(『文書』の日付は8月2日)、8月18日、第484号「南北対峙の形勢」、9月7日、第485号「中心勢力の研究」(『文書』の日付は9月6日)。

大正六年丁巳

日誌

正月一日 雨。早起服装を改て椒觴を傾け、馬車を賃して有吉、青木、藤村等を歴訪、正を賀し、十時領事館に至り聖影を拝し、去て知人を歴訪賀正。正午日本人倶楽部の名刺交換会に出席し、午後又た二三知人を訪ひ帰る。是日午前升允青島より来着、東和洋行に投ず。坂本大佐則俊、八角中佐三郎の信、並に内外知人の年賀状二百余通を接受す。

元旦

少年志趣未全亡、笑見鬢毛数点霜、瑞氣乾坤同照澈、寒梅花下对椒觴。

夜升允と寛談す。姚来訪。

正月二日 晴。副島綱雄新嘉坡より帰途来訪。知人数十名に年賀状を發す。海軍々令部に報告を發す。

升允、余の除夜元旦の二作に和す。

正月三日 晴、寒氣烈。前十時犬を牽北郊に獵し兎一頭を獲、三時帰る。六時半青木中將の招宴に六三亭に赴く。同座三十余人、十時帰る。升允是日より姚宅に移寓す。六三の宴散じて後、神寄と同車熊野丸に至り青木宣純氏に名刺を留て帰る。青木明朝帰国するを以てなり。

正月四日 晴、寒威極烈。午前初の弓術を修め、上海日報を訪ひ帰る。午後和田某来訪。夜上野岩太郎来訪、本日来着せる者也。知人の年賀状百余件接到す。中島眞雄、東京留守宅の信至る。

正月五日 晴、寒甚。午前津田少佐、上野岩太郎、有吉領事、原田、岸を歴訪、弓術を修めて帰る。午後八田、松井石根、津田少佐、白木少佐来訪。四時姚、佐原を訪ふ。夜佐々布来訪。

正月六日 陰。内外知人の年賀に答ふ。中島眞雄に復書す。中食後弓術を修め、豊陽館に白木少佐を訪ひ、帰途八田を敲き帰る。晩平岡宅に安河内、佐々布、三田と会食、十時帰る。

正月七日 晴。朝副島綱雄来訪、本日帰国すと云ふ。之を筑後丸に送る。海軍に報告を發す。山本唯次、升允、遠藤来訪。午後北郊に獵し鳧一、鶉一を獲、三時帰る。

正月八日 晴、寒甚。前升允を伴ひ有吉領事を訪ひ小談、去て乍浦路三宅に至り升允、遠藤と中食す。是日升允に菊池武光の画に山陽下筑水の長篇を囑書す。内人、清子の年賀状、並に山屋中將の信至る。夜佃信夫来訪、本日来着せりと云ふ。

正月九日 晴。各地よりの年賀に復答す。午前理髮。午後有吉を訪ひ、去て姚文藻に抵り四時帰る。八田、薛来訪。夜佃信夫、水野梅暁来訪。

正月十日 晴。午前深田十蔵、宮寄民蔵来訪。東方、共同兩通信合併の件に付き反対の理由を具し、有吉の手を経て外務省に致す。午後西本、森恪来訪。軍令部八角中佐に致書す。神尾、平岡、八田来訪。知人の年賀状数十通に接す。七時森山少將を車站に迎へ、木幡と同車深田十蔵の招宴に一品香に赴き、十時帰る。佃信夫、水野と談ず。

正月十一日 晴。午前森山少將を豊陽館に訪ひ、去て佐々布を訪ひ帰る。午時森山少將、津田少佐、菅沼大尉来訪。午後姚文藻を訪ひ、三時帰る。松井中佐石根、上野岩太郎、勝木恒喜来訪。有吉領事の案内状至る。岡二郎に致書、其文稿を送る。六時半領事の招宴に新六三に赴く。同座は森山少將、津田少佐、原田官補、菅沼大尉等也。十時半散ず。

正月十二日晴。朝水野、佃を訪ふ。水野は本日帰国すと云ふ。午前山田謙吉、井手友喜来訪。午後森山少將、津田少佐、菅沼大尉来訪、同車南陽路に至り、升允、李経邁、姚文藻、劉廷琛等と会談、三時帰る。夜佃信夫、神尾、姚、遠藤来訪。

正月十三日 晴。南京高尾に致書、姚以价を紹介す。海軍に升允本日東京に向け出發の事を報ず。東京宅、八角中佐に致書す。深田十蔵来訪。中食後升允の日本行を博愛丸に送る。九江成田鍊之助より牯嶺の黄油三缶を送り来る。六時半森山少將招待会に六三園に出席、九時半帰る。佃、八田来訪。青島中西正樹の電至る。明日来着すと云ふ。

正月十四日 快晴。前五時起床朝食、北站に至り森山少將、菅沼大尉と会し、七時半の汽車にて杭州に赴く。二時間以上の遅着にて三時着、本間中尉文彦来迎、直に轎に乗じて城内を過ぎ西湖の新々旅館

に投ず。小憩後小舟に駕し三潭に遊ぶ。風穏不波，残雪粧点，湖山風趣不可状。五時旅館に帰り本間を留て会食し，九時就寝。

杭州清泰門より西湖に至るの間城内道路平坦にして寛濶，面目一新復た昔日の觀無し。蓋し革命後の施設たるなり。

正月十五日 健晴。前八時本間来る。朝食後湖畔を歩し西冷橋に蘇小の墳を訪ひ，去て岳飛の墓を展し，更に西冷橋を度て孤山に上る。此処革命後開て公園と為す。去て林和靖の墓を尋。巢居閣，放雀亭を見る。梅樹数百株昔人の遺愛を留め，清爽の気衣襟に満つの思有り。平湖秋月亭より小舟を僦て旅館に帰り中食し，四人輪を聯て旅舎を辞し，吳山の第一峯に登る。錢塘，西湖の全景一望の中に落ち，心胸軟然眷恋去る能はざらしむ。二時杭州駅に至り三時の汽車にて発す。八時上海着。夜佃信夫徐州に向け出発す。

正月十六日 晴。成田鍊，亀井陸，宮島，八角中佐に致書す。姚来訪。午後森山少将を訪ひ湘筆一匣，詒晋壘法帖一帙を贈る。中西正樹に会し篠寄を訪ひ帰る。腹痛。森山少将醬菜三簍を送り来る。土井伊八来訪。

正月十七日 晴。午前深田，土井来訪。午後理髮，森山，津田を訪ふ。夜森山少将の帰国を豊陽館に送て帰る。佐々布来訪。

正月十八日 晴。午前平岡，深田来訪，本日帰国すと云ふ。鳥居に湘筆四枝を托送す。正午中西正樹を倶楽部に招邀会食す。土井，沢本，佐原，山田，井手友，勝木同座たり。鳥居に信片を發す。夜中西正樹の福建行を送る。八田来訪。

正月十九日 快晴。午前弓術を修む。午後三田来訪。夜佐々布来訪。有吉領事の案内状至る。

正月二十日 陰。朝佃信夫来訪，今早徐州より帰来せりと云ふ。姚文藻に致書す。海軍に報告を發す。東京留守宅に発信す。午後弓術を修め，八田を訪ひ帰る。

正月二十一日 晴。午前佃と談ず。十時弓術を修む。松倉，藤森，市原連名の信片至る。松倉に復す。明朝より往復五日の予定にて平岡，神寄，佐々布，三田，神津と硤石地方に出獵せんとす。午後獵装を治す。神津は今朝一番汽車にて獵区に先發せり。佐々布，岩田虎一來訪。田鍋安之助，中島中佐晋の信至る。夜農商務省吉田虎雄来訪。

正月二十二日 晴天。早朝獵装を整ふ。是日より同好六人と硤石に出獵するを以てなり。七時寓を出て北站に至り佐々布，三田，平岡等と七時半の汽車に乗ず。神寄は午後の汽車にて来会の約有り。十二時半硤石着，ハウスボート東郷号に投ず。船内の設備完全，家に在るが如し。直に上陸，硤石附近を獵し山を一週し，四時帰船。僅に雉子一羽を獲。五時半神寄来着，七時半神津来着。是に於て一行尽く会す。夜に入て飛雪紛々たり。是日陰曆除夕。夜半船を斜橋方面に移す。

正月二十三日 晴。前八時上陸，終日獲る所無し。午後船を長安方面に進む。

正月二十四日 晴。前八時上陸雉子一羽を獲，午後船を長安駅に移す。神津の東道にて海寧運河の左岸を獵す。竹鷄二羽，山鳴一羽を獲，四時半帰船。

正月二十五日 雨。是日神津上海に帰る。十時細雨を衝て上陸，海寧運河の兩岸を獵し，僅に竹鷄一羽を獲，二時帰船。

正月二十六日 陰。前八時神寄，平岡，三田と別れ，佐々布と長安駅に至り八時十五分の汽車にて發す。午後一時上海着。東和の寓に入る。此行往復五日，獵獲僅に雉子二，竹鷄三，山鳴一に過ぎず。松本菊熊，岡次郎，八角三郎の信に接す。午後理髮。

正月二十七日 朝雪。午前有吉，津田を訪ふ。外務省小幡政務局長に致書す。田門平八，佐々布来訪。是日午後四時前後獵犬マル失踪す。夜八田を訪ふ。篠寄に雉子二羽を贈る。

正月二十八日 晴。朝八田に托し戈登路犬収容所に至り昨夜失踪の獵犬を受取る。海軍八角中佐に青島電報の余に関する件に付き顛末を通報す。午後木幡恭三来訪。内人の信至る。五時平岡，神寄を訪ひ，

- 去て八田厚志の宅に至り島田と三人杭州にて獵獲物を会食し、九時帰。
- 正月二十九日 晴。午前弓術を修む。午後日蓮宗行脚僧貴島聖円、松本菊熊の紹介にて来訪、銀五元を布施す。夜佐々布を訪ふ。天野平八在り。十時帰る。
- 正月三十日 晴。松本菊熊、深田十蔵、山本熊一の信至る。松本に復す。午後山田純三郎来訪。東京宅に復書し、別に田辺丈夫に発信す。北京伊集院大佐の報告至る。狄平来訪。
- 正月三十一日 快晴。午前天野平八来訪。東京宅に金二百員を郵送し、佐々布を訪ひ帰る。中食後北郊に獵し鴨一羽を獲、三時半帰る。北京波多博の信至る。漢口有働政喜の信至る。夜藤村義郎の招宴に新六三に赴く。松井、宮寄寅、津田、神寄同座たり。九時散ず。
- 二月一日 晴。午前佐原、新橋栄次郎、並に山鉄工務課長中村謙介、西村潔兩人、漢口梅田少佐三良の紹介にて来訪。晌午有吉を訪ひ、弓術を修て帰る。熊谷直幹の信至る。並木如秋来訪。午後安河内、神尾来訪。夜櫻木、天野来訪す。
- 二月二日 晴。午前有吉領事を訪ひ、帰途弓術を修め、去て北四川路に八田の病を問ひ、竹田、西本宅を訪ひ、正午帰る。村山正隆の信至る。漢口有働政喜に復書す。秦長三郎来訪。午後武田、奥村政雄来訪。夕刻平岡小太郎来談。
- 二月三日 晴。午前弓術を修む。理髮後豊陽館に岩田虎一、中村謙介を訪ふ。午後姚文藻を訪問す。同文書院生植村久吉、南井幾久司、並に勝木恒喜来訪。露国田中耕太郎の信至る。森山海軍少将の信、並に大連大陸青年団の信至る。神尾来訪。夜藤村の招宴に六三に赴く。新橋、津田、神寄、山田純同座たり。九時帰。
- 二月四日 晴。八時半滙山碼頭山城丸に有吉領事の帰国を送り、帰途弓術を修む。高尾南京領事来訪。杭州本間文彦に致書す。細川孝義、新橋栄次郎、奥村政雄来訪。夜佐々布来談。十時半車站に至り高尾、新橋を送る。
- 二月五日 晴。午前弓術を修め、佐原、篠寄を訪ふ。午後島田来訪。西本、田門平八、原田領事官補来訪。井手三郎、升允東京よりの信至る。田中清司より其弟逸平の病没を報じ来る。
- 二月六日 晴。井手三郎、熊谷直幹に復書し、田中清司に弔詞を致し、別に櫻木俊一に致書す。午前弓術を修め、通信社を訪ふ。午後姚文藻に抵り升允の信を交付す。升允に信片を發す。夜に入て雨。
- 二月七日 雨。升允に致書す。午前弓術を修む。海軍森山少将に復書す。
- 二月八日 晴。午前弓術を修め、津田少佐を訪ひ帰る。岩田来訪。奥村政雄より下村為山の墨画一軸を贈り来る。晚通信社に至る。
- 二月九日 晴。午前弓術を修む。午後西本を訪ふ。夜篠寄来訪。此人に托し篠原國幹の筆迹を迫田茂に送る。九時秦の北京より帰るを車站に迎ふ。
- 二月十日 晴。午前波多来訪。伊集院大佐の信、並に梁鼎芬、陳宝琛、芳澤、殷汝驪、谷鍾秀、柴田大尉源一、齋藤季治郎の問安の刺片を接手す。午後理髮、弓術を修め、篠崎、実業協会、波多を訪ひ帰る。六時上海日報社の招宴に杏花楼に赴き、九時帰る。海軍に発信す。
- 二月十一日 陰。紀元節。東京佃信夫の電報至る。升允昨夜東京發上海に向へりと云ふ。姚文藻に致書す。木幡の案内状至る。之に復す。午前豊陽館に津田少佐を訪ひ三顆の刻印を依頼す。中食後北郊に獵し三時半帰る。無所獲。漢口岡幸七郎の信至る。六時春申社創立四ヶ年の祝宴に杏花楼に列す。九時帰る。内人の信至る。神尾、八田来訪。
- 二月十二日 晴。午前西本、姚来訪。午後波多、八田、山成来談。二時の汽車にて山成と宝山県北の江岸に獵し鴨一羽を獲、六時半帰。夜佐々布来訪。
- 二月十三日 晴。海軍に報告を發し、北京伊集院大佐に復書す。午前弓術を修め、松井、波多を訪ひ、正午帰。午後波多、平岡、神尾来訪。六時神尾、奥村の送別会に俱樂部に出席す。会する者二十八人、九時散ず。波多、篠寄を訪ひ十時帰る。

二月十四日 晴。午前弓術を修む。晌午姚来訪。中食後升允を迎ふ、来らず。根津の来着を聞き之を書院に訪ひ小談、帰る。八田、波多、細川、高木陸郎、佐々木武蔵夫婦来訪。波多を留め晩食す。夜神尾茂の帰国を豊陽館に送る。神尾来別。

二月十五日 陰、微雨。平川清風、奥村正雄来訪。午前友野豊を同文書院に訪ひ、去て弓術を修め帰る。佐々木武蔵夫婦来訪。東京宅、有吉領事に致書す。午後下田佑、津田少佐来訪。姚に発信す。六時半木幡の招宴に六三亭に赴き、九時半帰。

二月十六日 雨。北京芳沢参事官、齋藤少将、伊集院大佐、小村、船津、中畑等に奥村正雄を紹介す。午前波多を訪ひ、同出岡村、平川を訪ふ。弓術を修め正午帰。午後佐原、波多来訪。夜安河内来談。夜に入て晴。

二月十七日 快晴、暖気頓に催す。前六時半升允を博愛丸に迎ふ。寓に帰り朝食し、共に出て姚文藻に抵り小談、帰る。午前弓術を修む。田中清司、松倉、平岡の信至る。松倉に復す。午後波多来訪、外務省正月分手当を受取る。東京有吉領事、八田中佐に致書す。

二月十八日 陰。午前弓術を修む。東亜実進社に立庵遺稿代金一円を郵送す。午後狐装江湾附近に至り米婦人の飛行を觀、五時帰る。夜天野平八来訪

二月十九日 晴。朝理髮、弓術を修め、佐々布を訪ふ。午後平岡、木幡を訪ふ。狩野直喜、鳥居赫雄の信至る。鳥居に復す。夜波多来訪。

二月二十日 晴。朝大谷是空の詩に和す。

年過五旬不覺長、鬢辺何事早看霜、春光滿目八千里、陌路花開憶故郷。

午前弓術を修め、正午波多と雅叙園に中食。升允、姚文藻、鄭孝胥等に会し、三時帰る。北京伊集院大佐の信至る。東京宅に致書、金二百円を送る。瓶中の紅梅盛開、有詩。

半瓶挿出兩三枝、微白淡紅絕世姿、滿室暗香神若在、群花不及梅花奇。

夜原田領事官補来訪。佃信夫の信至る。

二月二十一日 晴。東京宅に致書し、弓術を修め、午前升允、姚を訪ふ。劉廷琛、張杰、商衍瀛、徐州張勳の処より来会。晌午領事館に原田官補、上海日報に井手友を訪て帰る。午後根津一、松井石根、波多博来訪。夕刻津田少佐、佐々布来訪。篠寄、遠藤来訪。夜平岡を訪ひ、佐々布の新居を敲き、九時帰。明早平岡と呉淞に獵せんとす。狐装を治す。高木陸郎を訪ふ。

二月二十二日 晴。前四時半起床。平岡と汽車呉淞に至り、宝山県城北に獵す。無所獲、午後二時帰。津田少佐、杉坂大尉来訪。杉坂は広東より内地を旅行して来れる者也。四時升允を訪ひ小談、帰る。橘三郎来訪せりと云ふ。

二月二十三日 晴、暖。前十時満鉄埠頭の神戸丸に至り升允の青島行を送り、帰途豊陽館に橘三郎、杉坂大尉を訪ひ、去て弓術を修め帰る。杉浦三郎来訪。午後平岡、波多来訪。六時波多の招邀に三馬路小有天に赴き、九時帰る。張勳の参謀少将張杰来訪せりと云ふ。日高謹尔の信至。

二月二十四日 晴。午前弓術を修む。午後張杰来訪。杉坂大尉を豊陽館に訪ひ送別、明早帰国するを以て也。佃信夫に復書す。米国紐育村上義温の信至る。夜波多来訪。

二月二十五日 晴。日曜。前六時二〇分の汽車にて平岡と宝山県に獵し、三時帰。無所獲。六時佐々布の晩餐に赴く。鳥田、井手友、西本、波多同座たり。九時半帰。相良忠道の信至る。夜微雨。

二月二十六日 陰。午前弓術を修む。午後根津一氏を訪ふ。小島元吉、豊島捨衾の添書を以て来訪。高柳某来訪。八角中佐、上野岩太郎、中村謙介の信至る。秋田康世を訪ふ。

二月二十七日 陰。理髮。午前西田耕一を訪ひ、弓術を修めて帰る。午後橘三郎、高柳の帰国を近江丸に送り、帰途波多を訪ふ。領事館より二月分経費を受取る。晩原田領事来訪。

二月二十八日 陰。是日先考の忌辰たり、時物を具して致祭。濟南北支那通信社に通信料五円、東洋協会に会費五円、東京宅に金二百円を郵送す。午前弓術を修む。東京宅に致書す。海軍に報告を發し、

八角中佐に復書す。午後郵便局に至り、佐々布を実業協会に訪ひ帰る。波多、八田来訪。有吉領事、野満の信至。

三月一日 晴。午前同文書院に友野を訪ひ、去て森茂を豊陽館に訪ふ、本日同文書院教頭として大連より来着せる者なり。津田、佐原を敲き、弓術を修て帰る。午後張杰来訪。有吉、相良、上野岩太郎、野満に復書す。森茂来訪。夜西本、佐々布、山成を訪ふ。

三月二日 晴。六時宝山県に獵す。獲る所無し。晌午帰る。西田耕一、井手友喜来訪。成田鍊之助の獵信至る。之に復す。午後並木、山成、天野平八来訪。天野の為に南京高尾領事に添書す。夜村上貞吉来訪。西本来談。

三月三日 半晴。午前弓術を修め、津田の病を問ひ帰る。午後西山、平山氏清、森茂、松本宣彦、秦長三郎前後來訪。中野熊五郎本日死去せりと云ふ。波多来訪。夜十時半より東本願寺に中野の夜伽を為し、一時帰。

三月四日 半晴。午前弓術を修む。内人の信二通、大谷是空、菅沼大尉恕人の信に接す。午後子飼細川邸家徒内田万太郎、並に下田佑来訪。午後三時半より中野の葬式に列し、終て日本墓地に其柩を送り、六時秦と倶楽部に帰り、森茂、西田耕一の送迎会に列し、十時帰る。

三月五日 晴。午前弓術を修む。午後平山、波多来訪。高柳の信至る。夜内田万太郎を勝田館に訪ふ。是愛犬又た走失す。内人に致書。

三月六日 晴。前八時内田万太郎を訪ひ、九時病氣にて帰国せる細川孝義氏、並に其の看護の為め来れる内田を船に送り、帰途弓術を修め、理髪して帰る。午後山田純三郎来訪。晚篠寄、平岡、沢本、波多来訪。六時半より森茂、西田耕一の送迎会に月廻家花園に出席、十時帰。

三月七日 晴。午前弓術を修め、北京奥村正雄の信至。午後平岡来訪。篠寄宅に招宴に赴く。鄭孝胥、李梅庵、姚文藻、沢本、西本等同座たり。十一時散ず。

三月八日 朝雨、少時にして晴る。櫻木俊一來訪。井手三郎に致書。午前弓術を修む。漢口岡幸七郎の信至る。

三月九日 半晴。午前弓術を修む。午後田門平八来訪。夜春申社の招宴に倶楽部に赴く。鄭孝胥、姚文藻、西田、佐原、島田、波多、西本同座たり。十時散ず。内人の信、並に松倉の東京信に接す。

三月十日 晴。京都有吉、東京佃、菅沼大尉、漢口岡に致書す。午前井上雅二を訪ひ、帰途弓術を修め、正午井手友喜の午餐に三馬路小有天に赴き、三時散ず。井上、森、安河内、篠寄、藤、島田等同座たり。帰途井上と平岡を訪ふ。海軍に報告を發す。夜義勇隊の賞品授与式に倶楽部に参列し、九時半帰。

三月十一日 朝微雨。是日平岡と崑山に獵せんとし早起結束、天候不良の為に中止す。午前弓術を修む。井手清、中野未亡人、天野平八来訪。夜波多、平岡を訪ふ。

三月十二日 微雨。午前領事館に至り岸、伊東を訪ふ。林出に逢ふ、西田の後任として本日来着せる者也。弓術を修て帰る。午後八田、波多、西本、並に大阪朝日新聞通信員大西齋来訪。鳥居、深田十蔵の信至る。原田萬次、西田耕一の案内状至。安河内夜分来訪。井手三郎、杉坂大尉悌次郎、西野忠吉、日高大佐謹□の信至る。

三月十三日 陰雨霏々。午前同文書院森茂を訪ひ、去て弓術を修む。杉坂大尉、西野に復書す。

三月十四日 陰。午前理髪。弓術を修む。正午原田官補、西田訳官の招宴に倶楽部に出席。李梅庵、鄭孝胥、姚文藻、佐原、林出、波多、岸、西本同座たり。二時半散ず。細川興増男の信至る。七時原田、西田の招宴に倶楽部に出席す。孫文、唐紹儀、孫洪伊以下支那人二十人、日本人同数。十時散ず。是日支那政府は独逸との国交断絶を宣布す。

三月十五日 晴。午前弓術を修む。午後有吉領事を静岡丸に迎ふ。東京内人の信至る。

三月十六日 晴。八時西田耕一の北京に赴任するを車站に送る。大西来訪、内人に復書す。午前弓術を

修め、有吉領事を訪ふ。夜波多、姚文藻、張杰来訪。

三月十七日 微雨。午前弓術を修む。午後姚を訪ふ。山田修作より其著支那之工業一冊、深田十蔵より煙盆二点を贈り来る。山田、深田に礼状を發す。佃信夫に信片を郵寄す。菊池武光画像の裱装成る、八田持参す。夜浦六郎来訪、故浦敬一の義嗣子也。佐野直喜の信至。

三月十八日 雨天。日曜日。午後弓術月並会に出席、終て会食、七時帰。天野平八、姚文藻来訪。

三月十九日 晴。午前弓術を修め、去て津田、佐原を訪ふ。佐野の紹介にて百三十銀行員芝原定太郎、二木萬蔵、影山省二三人来訪。姚の依頼にて南満会社の櫻木に托し青島の升允に酒二箱を送る。台北迫田茂、東京井手、松倉、市原の信片至る。浦六郎来訪。迫田に復書す。夜山成、佐々布を訪ふ。

三月二十日 半晴。濟南中西正樹の電報至。午前百三十銀行員三名を伴ひ実業協会、正金、台湾兩銀行に至り紹介し、帰途波多を訪ふ。海軍に報告を發す。午後弓術を修め、篠寄を訪ひ帰る。

三月二十一日 半晴。午前弓術を修め、有吉、原田を領事館に訪ふ。中食後江湾附近に獵す。獲る所無し。大谷藤治郎、壁島為造、柴田麟次郎来訪せりと云ふ。有留重利の信至る。波多より牡丹餅を送り来る。中西正樹に信片を發す。内人の信至る。夜佐々布、波多来訪。

三月二十二日 晴。午前壁島、柴田麟、大谷是空を訪ふ。理髮後弓術を修む。午後澤本、宮寄民蔵来訪。海軍より四、五、六、三ヶ月手当九百円を送り来る。熊本井芹に養子の件に付き依頼状を發す。東京宅に致書す。浦六郎、内山繁二、津田少佐来訪。海軍に領収証を發す。井手清来訪。平岡来訪。内人の電報至る。井芹宛の書信を信局より索回す。長沙香月の信至、復之。夜半青島中西の電報至る。

三月二十三日 陰。前五時半より北郊に獵す。獲る所無し。八時帰り、弓術を修む。二木来訪。藤村と領事に紹介状を与ふ。中西正樹に復電す。午後姚を訪ふ。山口昇来訪。夜杉本郵便局長の送別会に出席す。

三月二十四日 半晴。午前平岡を訪ひ弓術倶楽部の件を商量す。午後弓術を修む。佃信夫、中西正樹の電報、並に海軍、井手三郎の信至る。姚、張杰に致書す。内人の信至る。六時大阪商船会社山内恕の招宴に六三に赴く。新聞関係者八九人相会す。九時半帰。

三月二十五日 晴。前八時浦六郎、山成和四夫来訪。山成と大馬路埠頭より小汽船に乘じ東溝に上陸、行十支里高橋北方の中洲に獵す。僅に鶉一羽を獲、二時半高橋上船四時半帰。六時半木幡恭三の招宴に六三園に赴く。大谷藤次郎、伊吹山徳司、山内恕、安田、佐原等同座たり。九時帰。

三月二十六日 半晴。朝中西正樹来訪、青島より来れる者也。出て弓術を修む。午後神寄正助、佃信夫、姚文藻来訪。佃は本日来着せる者也。内人の信二通、並に松本亀太郎の信至る。海軍に書信を發す。波多来訪。夜武田来訪、之に銃台損所の修理を托す。天野、安河内来訪。夜佃信夫、中西正樹と談じ、十二時就寢。

三月二十七日 晴。前八時佃信夫の徐州行を車站に送り、中西の寓に至り朝食し、晌午弓術を修て帰る。内人に復書す。午後下田佑、天野平八来訪。根津一氏に致書、下田生身上の事を依頼す。夜波多を訪ひ、七時篠寄宅の晚餐に赴く。同座は大谷是空、佐原、井手友の三人なり。十時半大谷と東和に帰る。

三月二十八日 晴。午前津田少佐、影山省二来訪。正金に至り百六十員を受取り、弓術を修て帰る。八木富三来訪、往年欧米同遊の人なり。其の杭州に赴くを以て瀬上に紹介状を与ふ。午後竹田、神寄来訪。夜に入て佐々布、姚来談。七時波多の処に中西と三人会食、十時半帰る。

三月二十九日 晴。前九時中西、波多と同車徐家滙に至り新築同文書院を見る。本日より書院の全部此の新校舎に移転するもの也。正午三人雅叙園に至り中食して散ず。午後竹田、村上夫人を訪ふ。夜柴田乙次郎来訪。八木富三、影山省二と談ず。

三月三十日 晴。田鍋安之助に致書す。午前島田を訪ひ、晌午中西正樹を豊陽館に訪ひ中食を共にし、二時中西を送て神戸丸に至る。本日青島に帰る者也。帰途弓術を修め、理髮して帰る。波多、山成来

- 訪。大阪久原の小池張造に致書し下田佑の事を依頼す。
- 三月三十一日 晴。午前神寄来訪。出て弓術を修む。正午波多来る、外務三月分手当を受取る。武田来訪。井手清、河野来訪。河野久太郎の寓豊陽館に至り晩食す。
- 四月一日 晴、暖。朝辻高衡福州より来着、先年伯林にて相識の人なり。午前辻同伴、篠寄、佐原を訪ひ、公園を散策して帰る。午後北郊に獵す。獲る所無し。三時帰。鳥居、影山省二、海軍、河口虎夫の信至る。辻高衡来訪。七時辻と篠寄の招宴に小有天に赴く。九時半散す。
- 四月二日 半晴。内人の信至る。之に復す。午前弓術を修む。午後辻を同伴、上海日報、領事、松井、津田を訪ふ。森恪来訪、本日来着せりと云ふ。明日辻高衡杭州に赴くを以て瀬上に紹介す。
- 四月三日 快晴。神武天皇祭。前十時小学校落成式に参列し、晌午帰。校舎は四層より成り、工費十四万両を要し、日本第一の建築と称す。清子に新校舎の画信片を郵送し、井手三郎、河口虎夫に復書す。櫻木俊一の信至る。之に復す。午後弓術を修め、篠寄を訪ひ帰る。夜波多来訪。
- 四月四日 晴。報告二通を作る。午前大西齋来訪。午後井手来談。出て弓術を修む。石井則之に致書。八田来訪。海軍に報告を發す。七時半辻杭州より帰来。相伴て倶楽部に至り篠寄、秦、櫻木等十余人と会食し、終て辻の独逸談を聴き、十一時半散す。
- 四月五日 晴。辻来訪。内人、並に山内の信至る。午後河野、津田を訪ひ、弓術を修め、新利洋行を訪ひ帰る。内人の電至る。之に復す。井芹経平に致書す。田邊文夫を養子に貰受の事を依頼す。山成来訪。辻の漢口行に托し岡西門に致書す。夜篠寄来訪。
- 四月六日 晴。前八時半より山成と崑山に獵す。無所獲。是日春光満野、流水桃花、風趣不可状。崑山西門外前常熱水道に沿て車站に帰る。回顧すれば三十年前の今日今日大旅行の途次舟を此の水路に泛て常熱に向ひしなり。今日無端此地を過ぎ、俯仰今昔感慨係焉。三時の汽車にて車站を發し、五時上海に帰る。中西正樹青島よりの信至る。
- 四月七日 晴。午前理髮、弓術を修む。午後河野久太郎、副島綱雄、林出賢次郎来訪。田中清司、同憲輔、芝原定太郎の信至る。夜波多、大西来訪、十二時に及て去る。
- 四月八日 半晴、風塵甚大。午前西本、大西、神寄、澤本、土井等を訪ひ、晌午帰。中西、田中父子に復書す。午後河野久太郎、高柳来訪。河野と自動車にて徐家滙に至り桃花を觀、同文書院を訪て豊陽館に帰り、六時河野の宴に六三園に赴く。有吉、松井、津田、原田、丁志源(少将)、趙慶華(上海交通銀行經理)、周作民、張某、張書以下支那人三人、並に森茂、川岸、野木、速水等也。九時半帰。是夜獵犬又た走失す。
- 四月九日 陰。頭痛。午前波多を訪ふ。熊本石井則之の電至る。午後波多来訪、狐皮一襲を贈る。終日報告を作る。夜井手清来訪。内人の信至る。之に復す。
- 四月十日 半晴。午前平岡を訪ひ、去て弓術を修む。前夜走失の獵犬索得す。中川義弥、波多、佐々布、西本前後来訪。
- 四月十一日 雨。青島松本菊熊に致書。午後木下温知、中川義弥、波多、水野梅暁、山田前後来訪。中川を留め晩食す。東京井手、鳥居、池田末、松倉、古城の信片至る。
- 四月十二日 雨。海軍に報告を發す。午前中川、山田を訪ひ、弓術を修て帰る。晚土井宅の宴集に赴く。河野久、中川義、澤本、秦、古莊弘等同座たり。十時散す。
- 四月十三日 積陰。午前弓術を修む。晌午水野、津田来訪。水野は本日新嘉坡に赴く者也。昨夜過食覺腹中有異、中餐用粥。夜澤本良臣の招宴に倶楽部に赴く。同座は伊吹山、安田、秦、土井、篠寄、木幡、安部、王一亭、外四五人也。十時散す。帰途波多の処に小談。
- 四月十四日 半晴。午前理髮、弓術を修て帰る。辻高衡、杉坂大尉悌二郎、杉本啓、田中大佐、東京宅の信至る。午後森恪来訪。佃信夫濟南よりの信至る。下田佑、溝口條七来訪。
- 四月十五日 晴。日曜日。午後一時より藤村邸の園遊会に赴き、五時佐々布と共に帰る。佐々布を留め

晩食す。

四月十六日 晴。午前波多を訪ひ、雑誌上海に登載すべき原稿を渡し、去て西本に抵り小談、帰る。中西、田鍋の信至る。午後山本唯次、小島元吉来訪。内人に復書す。晩食後波多、平岡、澤本、神寄、佐々布を訪ひ、十時半帰。

四月十七日 微雨。午前弓術を修む。午後川岸大尉、大島新、森茂前後来訪。大島と別後二十二年、久闊相遇恰有隔世之感。今回同文書院監督として来任せる者なり。平岡小太郎より草餅を贈り来る。夜石井則之、西山武人、波多来訪。石井は小学校教師として熊本より来任せる者。蕙苳糖一箱を贈る。波多十二時に至て去る。

四月十八日 陰。海軍に報告を發し、並に田中大佐、八角中佐に致書す。北京林公使、伊集院大佐に復辟意見書を郵送す。午前波多を訪ふ。午後北郊に打獵、三時帰。神崎正助、山部貞臣来訪。岡幸七郎に致書す。

四月十九日 晴。午前弓術を修む。天野平八来訪。午後電車徐家滙同文書院に至り根津、大島、森、安河内、友野等を訪ひ、六時帰る。

四月二十日 晴。午前弓術を修め、波多を訪ひ帰る。根津一氏来訪せりと云ふ。午後並木、下田佑来訪。青島中西に復書す。夜篠寄、岡幸七郎来訪。岡今夕来着、其母堂重患の電に接し帰国する者也。

四月二十一日 晴。午前岡を豊陽館に訪ひ、十時其帰国を送り、帰途上海日報社に至り萩餅を吃し、正午理髮して帰る。午後青木宇外来訪。東京白岩龍平の信至る。六時半神寄、平田久来、三人自動車にて藤村義朗の宴に赴く。有吉、孫文、唐紹儀、朱執信、田中隆、松井、津田、佐原、村井、神寄、平田等同座たり。十一時散ず。

四月二十二日 日曜日。是日同文書院新築落成式を挙行す。午前九時波多と同車之に赴く。十時半開式、来賓三百余人、式後立食の饗有り。午後一時運動會開始。二時歩して徐家滙に至り電車にて帰る。入浴後俱樂部に於ける桜友会の發会式に参列す。式後立食、七時帰。医士稻次潤太郎来訪。

四月二十三日 雨。田鍋、田中大佐の信、並に田山宗堯の訃至る。朝佐々布来訪。午後松井を訪ひ、弓術を修て帰。井手清来訪。波多博来談。

四月二十四日 晴。前八時半より北郊に獵し鶉一羽を獲、十時半帰。午後津田少佐来訪。田山宗堯の遺族に弔詞を發す。六時波多来る。共に出て三馬路小有天の春申社の宴に赴き、十時帰。

四月二十五日 半晴。午前井手三郎を訪ふ。今朝来着せる者也。弓術を修て帰る。騎兵少佐湯川夏生、齋藤中佐恒の紹介にて来訪。午後姚文藻来談。青島中西に致書す。永原虎雄に津野一雄死去の真偽を照会す。田鍋安之助、青島升允に致書す。夜波多来訪。

四月二十六日 陰。午前湯川少佐を万歳館に訪ひ、去て津田少佐を訪ふ、在らず。弓術を修て帰る。午後井手来訪、之を留て晩食を共にす。姚文藻来訪。夜平川清風、佐々布を訪ふ。

四月二十七日 朝雨、午後晴。根津院長、守尾次雄来訪。有働政喜の信至る。午後津田少佐を訪ひ、帰途秋田に脚疾の診察を受く。秦長三郎の詩帖至る。青島升允に致書。夜波多来訪。海軍に報告を發す。九時佐々布夫婦の帰国を博愛丸に送る。

四月二十八日 晴。理髮。弓術を修む。午後大谷藤次郎、島田数雄、平川清風来訪。湯川夏生の詩信、並に伊吹山徳司園遊会の案内状至る。井手三郎、西澤公雄来訪。七時井手と秦宅の晩餐に赴く。根津一、大島新、森茂、土井、澤本、古莊、青木等同座たり。十時半散ず。井手と西澤を鳳陽丸に送り帰る。

四月二十九日 晴。日曜日。午前八時より北郊に獵す。鳴、鶉、七射して命中せず。帰途平岡に邂逅す。午後一時より六三園の義勇隊慰勞會に出席、三時帰る。途次櫻木俊一、武田寛治を訪ひ、六時帰。当夜朝鮮扶楠農園慈善演芸會に俱樂部に出席。美當一芳の軍事講談有り、十一時半帰。

四月三十日 晴。午前波多来訪。正金に至り預金を受取り、郵便局にて海軍手当六百円を東京宅に為替

- にて送り、内人に致書す。井手を訪て帰る。田門平八来訪。青島中西正樹、浦六郎の信至る。
- 五月一日 快晴。五時北郊に獵し、六時半帰、朝食す。井手の招邀に小有天に赴く。大谷藤次郎、木幡、篠寄、島田、波多、平川同座たり。二時散ず。島田と佐原を訪ひ、五時帰。
- 五月二日 晴。朝白岩龍平を山城丸に迎ふ。津田少佐を訪ひ小談。弓術を修て帰る。午後大島新、井上雅二来訪。井上は本日新嘉坡より来着せる者也。永原虎雄、葛西千秋、岡幸七郎の信至る。岡氏の母堂の訃、並に津野一雄客月十八日死去の訃至る。次大谷是空留別之韻。
相逢一笑又相分、忍見帰帆入暮雲、別後懸知明月夕、杜鵑声裡定思君。
夜八木富三、波多来訪。
- 五月三日 微雨。前八時大谷是空の帰国を滙山埠頭に送る。遠藤留吉亦此船にて帰国す。上海日報社に帰り井手、島田と小談。去て有吉を訪ひ帰る。岡幸七郎、津野徹に弔詞を發し、各香典五円つゝを送る。永原虎雄に致書す。午後晴。津田と弓術を修む。西本来訪。六時二十分天色晦冥雷電交起、径寸の降雹屋瓦振動す。七時四五分降雹の大如拳、中る者皆砕く。
- 五月四日 半晴。成田鍊之助来訪、昨夜上游より下来せる者也。午前弓術を修む。正午姚文藻来訪。夜成田と談ず。
- 五月五日 雨。午前理髮。午後波多来訪。五時下田佑来談。井手、波多亦来、井手、波多と馬車極司非而路廿七号伊吹山の園遊会に蒞む。来賓内外百数十人。帰途狄楚青を訪ひ、七時帰る。内人の信、並に青島中西の書翰二通、熊本佐々布質直の信至る。内人に復す。夜武田来訪。
- 五月六日 朝微雨、午晴。成田来訪。下午北郊に獵し無所獲、四時帰。西本、楊開甲、鄧三仕来訪。井芹の信至る。田辺丈夫養子貰受けの事略決定せるを報ず。
- 五月七日 晴。午前白岩龍平、成田来訪。出て弓術を修む。楊開甲、鄧三仕日本行に付き田鍋、狩野への添書を与ふ。井芹、並に内人に致書す。田鍋、湯川小〔少〕佐、並に内人の信至る。湯川に復す。春日大尉博章来訪、漢口駐屯軍より交代にて熊本十三聯隊に帰任する者也。六時半新六三の小集に赴く。白岩、成田、井手、神寄、松井、佐原、藤村、平田等也。十時散ず。姚文藻来訪。青島升允の信至る
- 五月八日 晴。田鍋致書。午前弓術を修め、近江丸に至り楊開甲、鄧三仕、春日博章の帰国を送る。内田友義、古閑信夫の信至る。内田は旅順工化学堂を辞し熊本に帰任の事を報ず。木下温知、平岡小太郎来訪。七時篠寄宅の晩餐に赴く。白岩、成田、木幡、秦等同座たり。十時半散ず。高木陸郎来訪。
- 五月九日 晴。午前弓術を修め、上海日報社に至り、正午井手と日清汽船会社に至り白岩、木幡、成田、佐原と豚饅頭を会食し、二時帰る。海軍より特別機密費二百円を送り来る。長沙香月梅外、熊本守屋長雄の信至る。平岡来訪。海軍に領収証を發し、田中大佐に致書す。海津駒治来訪。内田友義に復書す。
- 五月十日 晴。香月、古閑信夫に復書す。午前弓術を修め、平岡小太郎を訪ひ帰る。芝罘岡本武三の信至る。姚文藻来訪。田邊丈夫、並に青島升允に致書す。西澤公雄の信至。北京有留重利に復書す。是日支那対独宣戦問題議会に提出せられ、通過無望を以て公民団を駆り包圍を脅迫せり。
- 五月十一日 雨。朝高木陸郎を訪ふ。田中大佐に致書す。午前正金より預金を受取り、上海日報に小談、帰る。領事館より四、五、二ヶ月分外務の手当を送り来る。八田来訪。海軍に報告を發す。夜波多来談。
- 五月十二日 陰。午前白岩を訪ふ、在らず。夫人と小談。馬車を打鉄浜蘇州集議公所に駆り陳其美の開弔に列し、十一時帰、成田と中食を共にす。午後同文書院生村尾良興及び平岡小太郎来訪。神寄正助来談。六時成田と土井伊八宅の晩餐に赴き、十時帰。
- 五月十三日 雨意。前七時公園附近にてハウスボートに乗じ平岡、後藤、外一人に浦東に獵し、午前鳴四、鶉一を獲、正午船に帰て洋食を取り、午後又た出獵鳴八羽を得、四時船に帰り五時半公園棧橋に

着し、一行と別れ上車帰寓。雨。是日三十五発を放ち十三羽を獲たり。内人の信、並に松倉、右田以德、岡幸七郎の信片に接す。夜村山正隆長沙より来着。松倉、右田に復す。高木陸郎、村山と談ず。村山母堂危篤の電に接し、今夕上船帰国の途に就く。

五月十四日 晴。午前理髮、帰途波多を訪ふ。芝罘領事岡本武三に復書す。上海日々社井上進来訪。五時成田、井手と白岩宅の晚餐に赴く。同坐は井手、成田、青木、土井、澤本、古莊、勝木等也。九時散ず。歩して大馬路に至り一行と別れ成田と無軌電車にて帰る。大谷藤治郎の信片至。

五月十五日 半晴。正午成田と会食。終て成田の帰国を税関埠頭に送り、弓術を修めて帰る。岡幸七郎の信片至る。午後松井中佐来訪。夜大西齋来談。

五月十六日 晴。前五時半山成を誘ひ江湾に猟し鳴一羽を獲、九時半帰る。山内崑に信片を發す。北岡某来訪。波多配遇の事に付き鳥居赫雄に照会状を發す。午後島津四十起来訪。

五月十七日 晴。午前津田、日報社を訪ひ、弓術を修て帰る。午後下田佑来訪。晩食後村上貞吉、平岡小太郎を訪ひ、九時半帰。

五月十八日 晴。午前北岡来訪。午後波多を訪ふ。海軍に報告を發す。林出、波多来訪。六時半共に出て北站に至り田中參謀次長を迎へ、七時半帰。

五月十九日 晴。午前田中次長を訪ひ、去て松井と小談。九時半岡幸七郎を近江丸に迎へ、豊陽館に至り岡、井手、島田等と談じ、十一時帰。午後岡、波多来訪。岡に托し長沙香月に夏布代二十元を送る。香月に信片を發す。田鍋安之助、内人、田辺丈夫、大島新の信至る。大島新来訪。六時偕に出て六三園の田中中将招待会に出席し、九時白岩、井手と岳陽丸に至り岡幸七郎の漢口行を送て帰る。

五月二十日 晴天。日曜日。前五時起床結束し、八時の汽車にて平岡、後藤、水谷等と東溝に赴き鳴猟を為す。一羽を獲、平岡と共に一時の汽船にて帰る。是日三田、戸牧、外一人来て会猟す。田門平八来訪。熊谷直幹に致書す。午後六時俱樂部にて熊本商業学校生徒職員等と会食す。八時半散ず。

五月二十一日 晴。理髮、三井に藤村を訪ひ、熊谷直幹身上の事を托す。郵船会社伊吹山の請帖至る。清子、下田安雄、田中大佐の信至る。夜波多来訪。九時姚文藻来訪。升允青島より今朝来着せりと云ふ。

五月二十二日 晴。田中大佐に復書す。午前弓術を修め、井手を訪ひ帰る。升允、鄭垂来訪せりと云ふ。午後波多来り大西齋の嚴君死去の事を告ぐ。四時より西本願寺大西の追弔会に列す。小池張造に致書。下田佑の事を依頼す。白岩より招宴の電話有りしも旅館にて伝達を忘れ、時過て之を知り行くことを果さず。

五月二十三日 朝微雨。井手清、升允、鄭垂前後來訪。升允の依嘱にて川島浪速に致書す。田中大佐に書信を發す。熊本内田友義の信至る。五時井手の招宴に小有天に赴く。白岩、佐原、波多、以下十余人同座たり。八時散ず。漢口岡幸七郎に致書す。是日黎元洪命令にて段祺瑞を免職す。

五月二十四日 晴天。朝高木陸郎を訪ひ、去て弓術を修む。津田少佐、有吉を訪ひ帰る。午後二時井手、波多と姚文藻を訪ひ、共に出て鄭孝胥宅に升允を訪ひ、五時帰。澤本来訪。七時篠寄宅の山芋汁会に赴く。島田、鮫島等同座たり。十時帰。

五月二十五日 晴。外務省武者小路氏に致書す。大谷是空より小詩集を送り来る。北京奥村正雄の信至る。奥村に復す。櫻木俊一、伴幸次前後來訪。午後森茂、井手三郎来訪。六時井手と電車静安寺に至り、歩して是司非路の伊吹山氏の宴に赴く。澤本、秦、村上、篠寄、林、安田、日下等同座たり。十時半散ず。

五月二十六日 晴。午前弓術を修む。午後大島新来訪。川岸大尉、坪井大尉兩人、田中參謀次長代理として告別の為来訪。筑紫少将熊七来着、往て小談。四時大西齋嚴君の追弔会に西本願寺に參列す。中支派遣隊附中尉篠原次長来訪。夜岳陽丸に田中次長の遡江を送り、帰途佐原、篠寄、波多を訪ふ。姚文藻の信至る。

五月二十七日 晴。日曜日。午前篠原中尉来訪。午後波多，友野，西村憲一来訪。七時六三園の筑紫招待会に出席す。十一時帰る。

五月二十八日 晴。朝亀井陸良を佐原宅に訪ふ。昨夜来着せる者也。十一時藤村義朗の帰国を送り，帰途理髮。田中大佐，熊谷直幹に致書す。西本，青島新聞社須賀正俊来訪。海軍，岡西門，鳥居，松寄奎雄，東京留守宅，亀雄の信至る。鄭孝胥より請帖至る。大分田辺寛忠，東京宅，亀雄に復書す。夜郵便局，篠寄，佐原等を歴訪し，去て村上を訪ひ其夫人に綢緞代二十四元半を還納し，十時帰。昨日段の後任として李経義〔義〕を國務総理に推し議会の同意を得たり。

五月二十九日 雨。午前篠原中尉を訪ひ，去て弓術を修め帰る。午後大西，亀井前後來訪。杳寄奎雄に復書す。六時南陽路鄭孝胥の宴に赴く。升允，姚文藻，鄭垂，亀井，篠寄，西本，佐原，波多同座たり。十時散。

五月三十日 晴。午前井手，白岩，亀井，篠原中尉来訪。亀井を留め中餐す。午後有吉を訪ひ，弓術を修め帰る。河口介男，中川淳，岡本武三，山口東亜経財研究会の信至る。夜佐々布質直，波多博来訪。佐々布は本日帰来せる者也。

是日倪嗣冲，張懷芝，趙倜等中央政府と關係を絶ち独立を宣言せり。

五月三十一日 晴。午前副島綱雄，原田瓊生，波多博前後來訪。出て姚文藻を訪ふ。日清汽船会社の請帖至る。之に復す。田中大佐に致書す。午後田門平八来訪。孫文の請帖至る。姚来訪。三井幡生の信至る。熊谷直幹に致書す。七時六三亭の亀井招待会に出席す。有吉，佐原，井手，神寄，松井，児玉，乙竹，島，木幡，波多同座たり。十時散ず。井手来訪。

六月一日 晴。佃信夫に致書。午前弓術を修め，夏帽を購ふ。下午小池張造，岡幸七郎の信至る。下田佑に小池の信を郵送す。平岡，並に伊藤洋行主人来訪。四時井手と同車白岩の病を問ひ，六時半環龍路六三号孫文の招宴に赴く。同座は亀井，佐原，井手，山田純，戴天仇，朱執信，李卓峰，外一人なり。九時半散。

六月二日 晴。時局問題に付き北京林公使に致書す。午前弓術を修む。午後佐々布，下田佑来訪。川島浪速の電至る。升允に致書。夜佐々布を訪ふ。

六月三日 微雨。八時亀井陸良の北京に帰るを車站に送る。終日報告二通を作る。成田鍊之助の信至る。夜波多を訪ふ。

天津に軍政府成立し，徐世昌大元帥に，王士珍を総理に，段芝貴を軍務に，曹汝霖を外交に，湯化龍を内務に挙げ，列国の承認を求めんとす。

六月四日 陰。午前弓術を修め，津田の病を問ふ。午後岡吉次郎来訪。長沙香月より五線夏布七疋を送り来る。波多，林出来訪。海軍に報告二通を發す。夜幡生，神寄の招宴に六三に赴き，十時帰。香月，後藤富賀美に致書，北京伊集院大佐に報告写を送る。

六月五日 雨意。午前弓術を修め，井手を訪ひ帰る。熊谷直幹，深田十蔵の信至る。九州日々社に通信を發す。午後波多，幡生来訪。海軍に發信す。七時日清汽船会社の招宴に俱樂部に赴く。薩鎮冰，有吉，以下日支兩國の來賓百二十人，十時散ず。森茂来訪。

六月六日 陰。森茂に致書。午後弓術を修め，理髮して帰る。姚来訪。晚大西，波多，西本来訪。古閑信夫，佐野直喜，葛西千焮の信至る。

六月七日 雨。午前姚文藻を訪ひ，升允天津行に付き同地司令官石光眞臣への紹介状を与ふ。午後津田少佐来訪。川島浪速，二木万蔵の信至る。芝罘岡本武三の信至る。

六月八日 雨。午前波多を訪ふ。海軍に發信す。午後保木本利治来訪。夜波多来訪。

六月九日 半晴。午前姚を訪ふ。鄭孝胥，升允等の余を訪ふに遇ふ。相伴ふて姚宅に回り小談。去て津田に抵り，鄭孝胥より廣東督軍陳炳焜への電報發送を托し，橘三郎を訪ひ，去て弓術を修む。神田正雄の信，並に有安一雄の訃至る。本月四日死去せりと云ふ。芝罘岡本領事に復書す。姚文藻来訪。升

允、鄭垂、明日天津に赴くを以て石光司令官、松平総領事に添書を与ふ。徐州保木本、並に海軍田中大佐に致書す。夜波多来訪。

広東に於て督軍団に反対運動開始せられ、昨日已に出師計画を定め、江西、湖南、福建の三路に分れ兵を進むるに決したり。

六月十日 晴。八時升允、王杰の天津行を車站に送り、去て弓術を修め帰る。天野平八来訪。松寄雀雄の信至。成田鍊、山本唯次、鳥居素川に復書す。夜神壽正助来訪。出て井手三郎、波多を訪ふ。

六月十一日 晴。午前八田来訪。半日報告を作る。田中大佐、熊谷直幹の信至る。午後大島新、下田佑、澤本良臣来訪。

六月十二日 雨。内人、丈夫に致書、海軍に報告を發す。加藤壯太郎の信至る。加藤に復書す。有安の妹に弔詞を發す。芝罘岡本に信片を致す。午後波多を訪ふ、在らず。郵便局に至り投函して帰る。夜佐々布来訪。橘三郎来訪。

六月十三日 半晴。佐野、中川淳、内田友義、河口介男、田中清司、古閑信夫、菅村三之、井芹経平、小池張造に復書す。午前郵便局、井手、有吉を訪ひ、帰途弓術を修む。鈴木覺三郎、副島綱雄、波多前后来訪。午後山内崑、田鍋安之助に致書。

本日支那議會解散を命ぜらる。

夜橘三郎を訪ふ、在らず。篠寄に抵り暢談、去て波多を訪ひ、十一時半帰。

六月十四日 雨。午前十一時上海日報に至り、井手と南陽丸に至り根津氏北支那の遊より帰るを迎ふ。旅順萬羽甚七郎に復書す。井芹経平、田中清司、龜雄の信至る。平岡、大西、波多来訪。大西、波多を留め晩食す。

六月十五日 雨。午前白岩を訪ひ鎮海観音会寄附金十円を交附し、木幡等と小談、帰途理髮。南京中川淳に信片を發す。井芹に復書、緒方二三に致書す。午後大味久五郎来訪。六時大味の晩餐に六三亭に赴く。児玉、伊吹山、黒葛原、白岩、木幡等同座たり。十時散ず。

六月十六日 雨。午前大味、津田、橘を豊陽館に訪ふ。菅村夫人、漢口篠原中尉の信至。午後姚文藻より太湖洞庭山の枇杷白沙一筐を贈り来る。今井邦三来訪。村山正隆夫人の訃報至る。

六月十七日 半晴。午前原田瓊生、神寄、波多を訪ふ。内人、姚、石山半山、松本菊熊に致書。山成来訪。東京佃信夫の電報至る。北京に向け出發せりと云ふ。村山正隆に弔詞を發し奠儀を送る。佐々布来訪。

六月十八日 雨。午前郵便局に至り為替二百円を受取り、波多を訪ひ帰る。芝罘日報社の信至る。午後弓術を修む。北京亀井の信至る。姚文藻来訪。

六月十九日 陰。北京野満四郎の信至る。之に復し、佃信夫に致書す。同文書院より卒業式の案内状至る。午前姚来訪。午後櫻木俊一、佐々布、波多を訪ひ、弓術を修め帰る。佃信夫に致書。内人の信至る。

六月二十日 陰。狄楚青に致書。正午春申社の同文書院旅行班送別会に小有天に出席、二時帰。内田友義、菅村三之、白岩龍平の信至る。内田に復書す。

次白岩子雲之韻

睥睨八荒独眼青、尋詩我亦対銀瓶、風塵瀕洞閩南服、天日闇冥悲朔庭、
千里黄雲翻麦浪、一星漁火入煙汀、倚欄惹起無窮恨、遮漠笛声愁裡聽。

六月二十一日 陰。海軍に号外報を發す。天津奥村正雄の信至る。芝罘日報社に致書す。午後植村久吉の葬儀に本願寺に列し、帰途弓術を修む。奥村正雄に復す。夜井手、篠寄来訪。

六月二十二日 陰。午前弓術を修め、津田少佐の病を立川医院に問ふて帰る。名和舞鶴司令長官に報告の副本を贈る。午後上海日報を訪ふ。夜姚の信至る。

六月二十三日 陰。是日端午節。田中大佐に致書。午前津田を訪て帰る。姚の信至、之に復す。午後同

文書院濱田来訪。青島防備隊司令匠瑳胤次に信片を發す。書院生濱田唯喜，中山優来訪，之を留て晩食す。田辺丈夫，宗方梅代，辻高衡の信至る。

六月二十四日 半晴。午前理髮。正午俱樂部にて井手，高洲，白岩，須賀，篠寄と会食す。一時半高洲と自動車にて同文書院卒業式に臨む。終て立食の饗有り，五時散ず。電車にて帰る。杏花樓の書院卒業生熊本出身者三名の送別会に列す。会者二十人許，十時散ず。海軍々司令部より七，八，九，三ヶ月分手当を送り来る。田中大佐の信至る。

六月二十五日 熱甚。前九時高洲太助を税関埠頭に送り，井手と白岩の処に暢談。去て三馬路に至り井手の漢字新聞社を見，茗話晌午に及で帰る。雷雨。

疊韻寄白岩子雲

推牖暮山青，懷人酒在瓶，感時吟楚些，遺世誦黃庭，
ノノ帰帆影，參差宿雁汀，江樓誰弄笛，孤客不堪聽。

午後根津一，姚文藻，学生本山来訪す。菊池の産，資性沈毅有望の青年なり。齒痛甚し。九時根津，大島一行の帰国を博愛丸に送る。

六月二十六日 苦熱。身体頗疲，終日静養。下田佑，友野盛来訪。岡幸七郎の信至。夜波多来談。

六月二十七日 晴，熱甚。鳥居に致書。午前津田の病を訪ひ，去て弓術を修む。午後井手清，姚来訪。

田辺寬忠の信至る。夜佐々布，大西来訪。出て佐原，篠寄を訪ふ。

六月二十八日 晴，炎熱。午前弓術を修む。宮寄民藏来訪。北京佃信夫の信至る。之に復す。野満四郎の信に接す。午後平岡，白岩を訪ふ。夜波多来訪。

六月二十九日 晴。午前弓術を修む。有働政喜来訪。東京宅の信至る。之に復す。速水，河野，牛島連名の信片至る。午後下田佑来訪，之に托し五線麻布三疋を東京宅に送る。古閑信夫に致書。午後高山正之，佐々布，波多来訪。下田を留て晩食す。本人書院卒業，明朝の船にて帰国する者なり。阿部野に信片を發す。

六月三十日 晴。内人の信，並に保木本の信至る。午前八田，波多来訪。海軍に七，八，九月分手当領収証を發す。午後井手を訪ひ，去て弓術を修む。五時波多，大西来訪。其東道にて乍浦路新月に至り鰻飯を会食し，九時帰る。報告を作る。是日外務の手を領事館より受取る。

七月一日 晴。日曜日。午前彌富弘濟，同聖詮，森重秀，原田茂，古幡景美等来訪。午後弓術大会に出席，散後会食，八時半帰。波多来訪。姚に復辟の事を函告す。

是日午前四時宣統帝復辟。

七月二日 晴。午前副島綱雄，島田数雄来訪。詰朝姚文藻来訪，朝餐を共にす。出て有吉領事，津田少佐を訪ふ。海軍に報告，並に書信を發す。午後井上進，外一人来訪。白岩の詩信至る。之に次す。

三疊韻答白岩子雲

疊韻攻吾三用青，羨君詩胆大於瓶，
卅年莫逆共行徑，一代遭逢有逕庭，
久願遂初遁海嶽，漫期蓑笠老雲汀，
荒鷄半夜驚魂夢，追憶壯時枕上聽。

北京佃信夫の電報至る。夜天野平八，波多来訪。

七月三日 晴。午前原田瓊生来訪。午後安河内，澤本来訪。六時安河内，波多，西本，大西，八田を新月に招き晩食し，九時半帰る。熱甚。佐々布来訪。

七月四日 苦熱。午前姚を訪ひ小談，去て理髮，弓術を修て帰る。午後田門平八，牧野健一，副島綱雄来訪。北京三澤信一，野満，牛島等の信片至る。報告を作る。夜波多を訪ふ。

七月五日 大雨。海軍に報告を發す。軍司令部より機密費五百円を送り来る。午前瀬川浅之進の漢口より来るを迎ふ。弓術を修め，波多と氷其林を吃し，帰る。内藤順太郎，一宮晃来訪。午後平岡，伴幸次

来訪。六時半より白岩の招宴に六三園に赴く。瀬川浅之進、有吉明、井手、岸、倉松、原田萬治、木幡同座たり。是夜涼味可掬。十時散。岡本武三、西村憲一の信に接す。冷気人を蘇す。

七月六日 雨。午前佐々布来訪。午後鄭孝胥父子、李梅盒来訪。速水篤、岡田有民、牛島の信片至る。之に復す。李梅盒の為に天津石光司令官、松平総領事に紹介状を作る。姚文藻、渡辺天洋等来訪。北京佃信夫に致書す。夜瀬川の帰国を送り、波多を訪ひ帰る。内人の信至る。海軍に書信を發す。

七月七日 半晴。朝副島来訪。鳥居、阿部野の信至る。午後井手、島田を訪ひ、去て弓術を修む。五時森茂来訪。夜篠崎の招宴に赴く。井手、島田、沢本、山田等同座たり。十一時散。

七月八日 晴。午前姚を訪ふ。王叔用來会。共に出て鄭孝胥を訪ひ、正午帰。午後橋三郎、原田来訪。海軍に機密費領収証を發す。坂本副官に機密費領収証を發送し、別に一書を致す。夜田門中佐来訪。成田鍊之助、速水一孔、古閑信夫、村山正隆、丈夫の信至る。波多を訪ふ。

七月九日 半晴。午前弓術を修む。午後汪鍾霖来訪。下田佑の信至る。山成和四夫来訪。夜徐紹楨より古磁花瓶一個を贈り来る。九州日々小早川に通信す。

七月十日 半晴、熱。午前村上貞吉、佐々布来訪。出て津田の病を問ひ、去て橋三郎を訪ひ、弓術を修て帰る。午後西山、石井来訪。夜大西来談。報告を作て夜更に至る。微雨。

七月十一日 晴。海軍に報告を發し、内人と丈夫に致書す。午前弓術を修む。台湾銀行黒葛原より案内状至る。之に復す。木幡より「其著支那国民性と道教」一部送り来る。之に礼状を發す。八田厚志来訪。夜井手を訪ひ小談。去て篠崎に抵り其行を送り、立談し帰る。篠崎明朝の船にて帰国する者なり。田門平八来訪。

七月十二日 晴。北京佃、野満に致書。副島、田門前後来訪。午前弓術を修む。晚姚を訪ふ。本日張勳戦敗、和蘭公使館に避難。

七月十三日 晴。午前津田を訪ひ、弓術を修て帰る。副島、田門、並に早稲田大学生小倉章宏等来訪。朝来骨節疼痛、午後就床。

昨日北京に於て張勳と段祺瑞と開戦、張軍大敗。部下は武装を解除し、張勳は和蘭公使館に逃る。

七月十四日 陰、風大。午前理髮、弓術を修む。中川義弥の信至る。早稲田大学生窪田悠三郎、中川榮一來訪。六時台銀黒葛原の招宴に六三園に赴く。南新吾亦た台湾よりして到る。主客三十余人、十時散ず。

七月十五日 陰、強風。心気不舒、終日静養。夜通信社を訪ふ。

七月十六日 半晴、大風。午前篠崎医院に至り診察を受け、去て弓術を修む。川口市之助、有蘭素行の信至る。午後津田少佐、佐々布来訪。夜姚文藻来談。

七月十七日 晴。午前西本、田門、姚視昌来訪。

七月十八日 雨。午前田付公使、橋を豊陽館を訪ひ、弓術を修て帰る。佐々布遠、古閑信夫の信至。古閑よりは金員返却の事を通知し来る。午後吉村平造、富森皆三、川岸大尉来訪。波多、大西亦来。七時伊吹山の招宴に赴く。田付智利公使、有吉、白岩、井手等同坐たり。十時半散。坂本軍令部副官の信至る。

七月十九日 晴。午前八田清太郎来訪。十時井手を誘ひ滙山埠頭春日丸に田付公使を送る。正午田辺丈夫、山内崑の添書を持参し、細川侯爵派遣生田尻辰彦、水谷英一、戸川秀三郎来訪。午後姚文藻、川岸、波多を訪ふ。海軍に書信を發す。波多、田門、渡辺来訪。北京野満の信至。午後弓術を修む。

七月二十日 半晴。午後弓術を修む。夜三島生来辞、明早の近江丸にて帰国すと云ふ。

七月二十一日 雨。午前弓術を修む。晌午佐々布来訪、之を留て中食す。午後平川清風、増永茂巳来訪。増永は細川侯爵の派遣学生なり。片山次雄、田辺丈夫の紹介状持参。阿部一毛、古閑、田窪、並に内人の信至る。海軍及同文会の信に接す。

七月二十二日 大雨。午前弓術倶楽部の委員会に出席、正午帰。午後波多来訪。夜波多を訪ふ。

- 七月二十三日 半晴。午前弓術を修む。午後波多, 大西来訪。秦長三郎の案内状至。五時半井手の招宴に三馬路亜洲日報館に赴く。有吉, 白岩, 島田, 波多, 平川等同座たり。十時半散ず。
- 七月二十四日 半晴。田尻生の為に北京船津, 小村, 野満に紹介状を認む。午前秦長三郎の病を問ひ, 去て理髪し, 安河内の帰国を送り, 帰途弓術を修む。夜平岡, 佐々布を訪ひ, 十一時帰。
- 七月二十五日 晴。佐々布遠に復書。午前弓術を修む。午後波多, 柴田来訪。晩秦の招宴に赴く。井手, 白岩, 澤本, 土井等同座たり。十時散ず。
- 七月二十六日 晴。海軍に報告を發す。午後八田来訪。出て弓術を修む。津田少佐, 姚文藻来訪。姚と出て李梅庵を訪ひ小談, 帰る。夜井手清来訪。
- 七月二十七日 晴。腰痛。午前弓術を修む。午後増永茂巳来訪, 今日船にて青島に赴くと云ふ。鬼頭玉汝, 大間知, 野満に紹介す。速水, 三島, 古閑信夫, 中川, 天野悌二, 有蘭, 小笠原陽, 阿部一毛, 川口, 成田等に復書す。晩秦, 大西来訪。
- 七月二十八日 晴。腰痛未癒。午前弓術を修む。田中清司, 三島, 九日社の信至る。午後白岩来訪。青島中西の信至。
- 七月二十九日 晴。午前弓術を修む。午後井手来訪。副島綱雄よりシトロン大箱一個を贈り来る。瀬川, 川島浪速, 松倉, 海軍, 亀雄の信至る。瀬川, 恣倉, 川島に復書。
- 七月三十日 晴。午前弓術を修む。秦長三郎, 波多博来訪。古閑信夫, 佐野直喜, 葉室謙純, 吉田壽三郎, 下田佑, 宝妻の信至。宝, 葉, 吉に復す。秦長三郎を訪ふ, 今晚帰国するを以て送其行也。佐野に復書す。
- 七月三十一日 晴, 熱。午前波多, 西本来訪。時報より正月至六月半年分を送り来る。領事館より本月分外務省手当を領取す。午後より弓術を修む。大平賢作来訪せりと云ふ。夜佐々布来訪。
- 八月一日 陰。午前亀雄に金三十拾円を送り, 弓術を修て帰る。内人, 丈夫, 亀雄, 河口, 田中清司, 中西正樹に致書す。夜島田数雄, 森茂, 唐其盛来訪。
- 八月二日 陰。午後大雨。午前津田を訪ふ。
- 八月三日 晴。午前弓術を修め, 波多を訪ふ。午後白岩, 大西, 波多来訪。篠寄医院に至り受診。青島増永茂巳の信至。海軍に報告を發す。
- 八月四日 陰, 午後大雨。午前弓術を修む。菅村夫婦, 有安妹, 友野, 三島の信至。東京宅, 菅村, 内田友義に致書。夜雨。
- 八月五日 陰。午前弓術を修む。午後森茂両児を伴ひ来訪。四時本願寺に至り一色兼四郎葬儀に列す。去三日死去せる者也。夜波多来訪。微雨。
- 八月六日 陰。午前弓術を修む。午後宮寄民蔵, 森茂来訪。夜波多来。三島に復書す。
- 八月七日 陰。午前有吉, 林出を訪ひ, 去て弓術を修め, 秋田に抵り受診す。中食後南新吾の帰国を送り, 三時倶楽部に井手, 有吉, 白岩, 島田, 山田, 西本, 波多等と会し, 亜洲日報編輯上の事を商量し, 五時散ず。唐其盛来訪。雨。田中大佐, 齋藤中佐, 清藤幸の信至。以上諸子に復書す。
- 八月八日 晴。午前弓術を修む。夜佐々布を訪ふ。岡幸七郎の信至。
- 八月九日 晴, 熱。高山正之, 川口虎夫の信至る。午前宮寄民蔵来訪。弓術を修め, 波多, 大西を訪ひ帰。姚文藻の信至る, 昨青島より帰来せりと云ふ。出て之を訪ふ。王叔用亦来会。三時帰。吉川力来訪。内人, 丈夫, 濱野茂, 菅村逸夫の信至る。濱野, 逸夫, 虎夫, 高山正之に復す。
- 八月十日 晴, 熱甚。朝櫻木俊一, 副島綱雄来訪。午前弓術を修む。夜波多来訪。
- 八月十一日 晴, 熱甚。午前弓術を修む。午後櫻木来訪。狄に致書。
- 八月十二日 晴, 苦熱。午前篠寄医院に至り受診, 去て弓術を修む。亀雄, 内田友義の信, 並に田中中将の書状至る。夜波多, 平岡来訪。是日午前井手三郎, 島田数雄来談。
- 八月十三日 晴, 熱甚。午前弓術を修め, 波多を訪ふ。岡より其母堂の紀念として袱紗を送り来る。之

に復書す。夜佐々布、波多、平岡前後来訪。雨。

八月十四日 晴。朝理髮。弓術を修め、佐原を訪ふ。午後佐原六郎、波多野養作、平野平八来訪。松倉、右田の信片至。晩林出賢次郎来訪。夜に入て稍涼。

八月十五日 晴。午前弓術を修め、秋田に至り受診。夜波多を訪ふ。

八月十六日 晴。内人、清子、岡西門、石橋藤次郎の信至る。石橋に復す。夜倶楽部の安田繁三郎送別会に出席す。基隆郵船支店に転任する者なり。

八月十七日 晴。午前郵便局に至り海軍よりの送金二回分千百円を受取り、帰途波多を訪ふ。午後八田厚志来訪。本山義人の信片至る。渋谷助作、鷺沢與四二の添書を持し来訪、時事新報社員にて北京より来着せる者也。波多、大西亦来会。

八月十八日 陰。午前海軍に報告を發し、弓術を修む。田辺丈夫、脇坂岳虎、西島時義の信至る。波多来訪。夜佐々布を訪ひ帰る。帰途通信社に渋谷作助等を訪ひ、十一時帰。八月十九日雨。午前西本来訪。出て弓術を修め、正午倶楽部に至り渋谷を招き、井手、西本、波多、大西、平川、島田、八田、張李鸞等と会食す。

八月二十日 風雨。七時幡生の招宴に六三園に赴く。有吉、松井、津田、川岸、平田同座たり。九時半散。

八月二十一日 晴。東京宅に発信す。午前弓術を修め、帰途渋谷を訪ふ。午後深水十八、渋谷助作、波多、大西等来訪。四時渋谷の帰国を送り、途次加藤要三郎を訪ふ。本夕漢口に転任するを以てなり。藤寄の帰滬を聞き造訪。川本、岡の信片至る。

八月二十二日 晴。白岩の信至る。午前深水、津田、篠寄を訪ひ、弓術を修て帰る。午後藤森、篠寄来訪。夜姚を訪ふ。

八月二十三日 晴、熱甚。午前弓術を修む。午後波多、山口昇来訪。夜西本、姚、波多野養作来訪。

八月二十四日 半晴。八時森茂、波多野の北京行を車站に送り、去て理髮、弓術を修て帰る。川本静夫、西島時義、本山義人に復書す。夜佐々布来訪、本日大連より帰来せりと云ふ。

八月二十五日 晴、熱甚。午前弓術を修め、帰途波多、大西を訪ふ。午後津田少佐来訪。香月、高橋正二の信片至る。之に復す。夜波多来訪。出て篠寄を訪ひ、十時帰。

八月二十六日 陰、炎蒸殊甚。日曜日。午前弓術を修む。芝罘岡本武三に致書。夜通信社に至り、十時半帰。

八月二十七日 雨。午前波多来訪。午後川岸大尉、井手三郎来訪。川岸は今夕出發、天津駐屯軍に転任する者なり。白岩、岡に復書す。弓術を修む。夜佐々布、平岡を訪ひ、十一時川岸を車站に送る。

八月二十八日 晴。午前弓術を修め、帰途波多を訪ふ。午後波多来訪。明朝八田の南京行に托し高尾亭に致書す。内人の信、並に熊本県より同文書院に入学する川口直人、馬場鼎、田上二雄、沢井愼思、大島繁、五人の信至る。

八月二十九日 晴。朝井手三郎来訪。内人に復書す。香港松島宗衛の信至る。午前弓術を修む。午後佐々布来訪。田中大佐、小川辰五郎の信至る。松島、平田久に復書す。夜西本、島田前後来訪。

八月三十日 晴。午前弓術を修む。後七時より郵船会社伊吹山氏の案内にて金陵丸の觀月宴に列す。来会者は有吉、津田、原田、岸、藤吉鳥羽艦長、今川伏見艦長、菊池隅田艦長、以下十余人。七時半江を遡りて龍華附近に至り、更に下江ニューポイント附近に至る。是夜陰曆七月十三日。月明如鏡、涼風滿衣。船上にて杯を挙て歎笑し、興趣如湧。十一時郵船埠頭に帰り解散す。有詩。

尋涼扁舟去復還、清風扞面酒杯間、蟲声兩岸秋方好、月白申江灣又灣。

姚文藻来訪せりと云ふ。

八月三十一日 晴。岡幸七郎、伊吹山、三島に致書す。午前弓術を修。午後宮寄民藏来訪。夜波多来談。

九月一日 晴。正午有吉領事の招宴に六三園に赴く。吳昌碩、王一亭、葉德輝、高尾亨、林出同座た

- り。三時散ず。有吉、高尾と留て六時に佐原篤介の宴に列す。松井、平田久、津田、幡生、黒葛原等同座たり。九時半帰る。佐原六郎、横山吏弓の信片至。
- 九月二日 晴、熱甚。午前弓術を修め、篠寄に至り菓価を支払ひ、波多、大西等を訪ひ帰る。午後佐原来訪。夜八田、波多来談。
- 九月三日 晴、熱。午前有吉を訪ひ、帰途弓術を修む。午後日々社渡由来訪。東京亀井陸良、武居鴻二郎、安田繁三郎の信至る。夜波多来訪。
- 九月四日 晴。前八時波多の北京行を車站に送る。伊集院大佐に致すの書信、並に林公使以下知人へ名刺を托す。弓術を修て帰る。夜佐々木武蔵来訪。
- 九月五日 晴。亀井陸良に復書す。午前弓術を修む。午後迎英輔、宮越健太郎、隅田艦長菊池豊吉来訪。菅村夫人、鳥居、古城の信片至。夜八田厚志来訪。
- 九月六日 熱甚。午前理髮。津田、宮越、迎を訪ひ、弓術を修て帰る。八田来訪。岡幸七郎、中西正樹の信至る。迎より土宜二点、石井則之より葛水仙を贈り来る。大西、平岡来訪。六時半津田少佐の招宴に倶楽部に赴く。李経邁、鄭孝胥父子、姚文藻、李梅庵、松井、西本、大西、林出等同座たり。佐原亦来列。九時半散ず。
- 九月七日 雨。海軍に報告を發す。東京宅、中西、三島に致書す。午後津田少佐、橘、迎を訪ひ、弓術を修て帰る。橘、岡より紅梅縮緬二疋、襦子一反を清子結婚祝儀として贈り来る。南京中川外雄の信至る。
- 九月八日 晴、涼。午前津田、大西を訪ふ。弓術を修て帰る。午後姚を訪ふ。水野清太郎来訪。六時井手寓宅の晚餐に赴く。篠寄、伴、島田、山田、平川、財津等同座たり。十時散ず。
- 九月九日 雨。午前櫻木、佐々布、副島、村上を訪ふ。午後本山義人、田尻繁、甲斐等同文書院新入生五人を伴ひ来訪。岡幸七郎に復書す。夜大風。
- 九月十日 朝雨。午前村上夫人を訪ひ反物代四十元を納付し、去て大西を訪ひ小談。更に同文書院に至り根津一、大島新、森茂を訪ひ、大島の処に中食して帰る。副島、佐々布、橘三郎来訪。波多の信北京より至る。李経邁、姚、鄭孝胥、李瑞清よりの案内状至。佐々布来訪。六時鄭孝胥宅の招宴に赴く。李、姚、李の外、津田、佐原、林出等同坐たり。九時半散。
- 九月十一日 陰。橘三郎、松寄雀雄来訪。午後弓術を修め、篠寄を訪ひ帰る。浦敬一養子浦六郎同文書院入学の件に付き鬼頭玉汝、松本菊熊に致書す。神寄正助来訪、昨日帰来せりと云ふ。
- 九月十二日 晴。前八時澤本良臣長男の葬儀に列す。青島中西正樹に致書す。午前西本、午後平川清風来訪。行李を收拾して夜分に至る。姚文藻、同文会の信至。是夜波多北京より帰来。
- 九月十三日 雨。午前郵便局に至り三百円を為替し、津田、橘、財津、波多を訪て帰る。佐々布、山田岳陽来訪。午後波多来訪。二時半本日入港の軍艦阿蘇を訪問し、帰途大島と共に井手、島田を訪ふ。六時半小有天に至り松寄雀雄、林出、島田、波多、西本、八田、大西等と会食、九時帰。渡辺天洋来訪せりと云ふ。渡辺に致書す。
- 九月十四日 陰、微雨。午前波多来訪。十時有吉、原田、岸、伊藤、井手、佐原を訪ひ辞別、理髮して帰る。午後根津院長、西山、阿蘇水雷長小川子郎来訪。亞洲日報の編輯會議に出席。夜島田来訪。内田、河口、田中、菅村及び南京中川外雄に致書、帰国を報ず。九月十五日半晴。朝佐々布、副島、姚来訪。十時東和洋行を辞し、筑前丸に上る。津田少佐、井手兄弟、神寄、村上、原田、青池、波多、篠寄、大西、八田、薛、島田、平川、山田、平岡、山成、武田、辻、財津、土井、今井、西山、伊藤、松井、森茂、石井則之等来送。十時半開船。
- 九月十六日 晴。海上平穩。
- 九月十七日 晴。朝長崎着。大坂朝日、毎日両社員来迎。税関に時間を要し、十一時の汽車に乗ずる能はず、土佐屋に投ず。新聞社員二島菊次郎(朝日)、長崎日々社村上千代治、福岡日々長谷川國雄等

来訪。十八銀行に至り千五百円を為替す。汽車時間の都合により島原線にて熊本に出んと欲し、午後長崎を發し諫早に至り島原長洲間の聯絡宜しからざるを知り熊本行を中止す。

九月十八日 晴。十二時十分の急行車に乗ず。鳥栖にて松嵩と分手。六時門司着、直に下関に渡り七時二十分の特別急行に乗ず。車站にて上海より同船の山東生に遇ふ。

九月十九日 快晴。詰朝須磨明石を過ぐ。風光依旧好。京都にて福田千代作に邂逅す。八時半東京着。丈夫、清子、沼川、脇坂、田中来迎。電車にて新門前の僦居に入る。

九月二十日 晴。午前亀雄来訪。終日静養。

九月二十一日 晴。午前海軍々令部に至り森山少将、田中、八角大中佐、坂本副官、山屋軍令部次長に面し、晌午外務省に小幡政務局長、松岡洋右を訪ひ、十二時同文会に山内、田鍋を訪ひ中食、午後三時帰。是日海軍より十、十一、十二、三ヶ月手当九百円を受取る。

九月二十二日 陰。午前野満四郎来訪、留て中食す。午後渋谷作助来訪。台湾迫田茂より桐野利秋の真蹟を送り来る。下田佑、田中清司、加藤要三郎の信至る。家族と芝公園三縁亭に至り晩食し、八時帰る。亀雄妻子を伴ひ来訪。

九月二十三日 晴。朝荒賀直順来訪、共に出て宮島大八を訪ふ、在らず。速水一孔に抵る。中食の饗を受け、二時半辞出。荒賀と千駄谷駅にて別れ汽車にて帰る。雨。迫田茂に復書す。

九月二十四日 雨。理髮。終日在家。夜浦六郎の電報至る。

九月二十五日 陰。浦同文書院入学の件に付き根津院長に打電す。夜雨。角谷平次来訪。大連根津一の電報至る。

九月二十六日 微雨。午前宮島大八来訪、留て中食す。午後同文会に山内を訪ふ。市川徹弥に邂逅す。去て白岩を訪ふ、在らず。帰途井上清秀の処に小談。夜八角三郎を訪ふ。九月二十七日朝雨。河口介男の信至る。午後田鍋安之助来訪。

九月二十八日 半晴。朝熊谷直幹来訪。午前細川侯爵、古城貞吉を訪ふ。午後五時より築地精養軒の肥後倶楽部大会に出席。護立侯、清浦子、以百七十余人、旧交二三十人に会晤するを得たり。井芹経平洋行の送別を兼たる秋季懇親会なり。散後笠五朗、古城貞吉に拉せられ富士見町笠宅に至り仕舞数番を看、十二時帰。

九月二十九日 雨。午後四時内人と靖国神社の能楽堂に至り各流の演能を観る。十時帰る。白岩、猿渡等来訪せりと云ふ。

九月三十日 雨。午前橘三郎、渋谷作助来訪。上海有吉、井手、波多、大西、八田等に致書す。四更暴風雨、家屋震動、不能成眠。田中清司、佐々布質直に致書す。

十月一日 半晴。前十時半井芹経平の米国行を東京駅に送り、帰途同文会に田鍋を訪ひ中食し、午後外務省に幣原次官、小村欣一を訪ふ、在らず。吉田茂、速水一孔と小談、去て西田敬止を女学館を訪ふ、不在。三時帰。八角中佐来訪。

十月二日 快晴。亀井、佃、村山、笠に致書。午後丸の内に至り古川公司に荻野元太郎を、日清汽船に白岩、大谷を訪ふ。

十月三日 晴。理髮。午前村山正隆来訪、中食を共にす。午後脇坂岳虎来訪。夜川口市之助来訪。

十月四日 晴。午後家族と芝公園と散策す。脇坂来訪。

十月五日 微雨。午時成田鍊之助来訪、今夕より支那に赴くと云ふ。

十月六日 雨。上海津田少佐に致書。午後福田千代吉来訪、本日より支那に帰任すと云ふ。十月七日陰。田辺寛忠、古閑信夫、不破昌材、鳥居赫雄、本庄繁に復書す。上海平岡、波多、平川、八田、大西、西本、佐々布、並に香月、迎、有働の十人より継嗣決定の祝儀として反物袴地を贈り来る。深水十八、小幡惟清来訪。小幡を留て中食す。午後渋谷に森山少将慶三郎を訪ふ、在らず。高島義恭を訪ひ小談、去て上六番町に田中大佐耕太郎を訪ひ、晩食の饗を受け、七時半帰。市原源来訪。白岩、竹

内直哉の案内状至。

十月八日 雨。白岩、市原、狩野に致書す。荒賀に十四日観能の案内状を發す。午後岩田、小越平陸來訪。三田齒科医に至り診察を受く。

十月九日 陰。平岡小太郎、佐々布質直、香月梅外に致書。午後三時同文会の評議員会に出席す。根津一、中西正樹、昨今支那より帰來列席す。奥繁三郎、小山秋作、小川平吉、田鍋、山内同座たり。七時散ず。沼川壘助來訪。

十月十日 陰、秋冷頓催。北京伊集院大佐、上海佐々布の信、並に狩野直喜の信片に接す。朝角谷八平次來訪。午後外務省幣原次官、小幡政務局長、速水一孔を訪ひ暢談。去て渋谷作助を有楽町に訪ふ、在らず。雨。

十月十一日 朝風雨頗猛、十時に至りて晴る。午前渋谷作助來訪。上海有吉領事に致書す。鳥居、相良忠道、八田、平川、大西に致書す。加藤大佐來訪。

十月十二日 積陰。午前理髮。上海佐々布、財津に致書、荒賀の信片至る。熊谷直幹來訪。夜御会式の万燈を観る。

十月十三日 雨。午後同文会に田鍋、山内、根津を訪ふ。宮島亦來会。四時帰る。荒賀、郡島來訪。夜森山少將來訪。

十月十四日 快晴。日曜。前八時靖国神社能樂堂に至り観世、喜多、宝生、三流の演能を観る。荒賀直順來会。喜多六平太の通小町、松本長の小原御幸、野口政吉の石橋等有り、四時終る。五時半木挽町花谷の白岩龍平、竹内直哉の招宴に赴く。立花政樹、石井山次郎、永瀧久吉、大谷藤次郎、梅原啓三同座たり。九時散ず。井手三郎、相良忠道の信に接す。

十月十五日 晴。齒の治療を受く。相良忠道に復書す。鳥居の信至る。夜雨。

十月十六日 雨。上海佐々布の信至る。熊谷直幹に致書す。五時四谷三河屋の懇親会に出席す。中西、寺尾亨、山根武亮、大竹貫一、木村丑徳、犬塚信太郎、中野二郎、井戸川、阿多、荒賀、宮島、以下三十余人來会。八時半散ず。

十月十七日 雨。荒賀直順來訪。

十月十八日 雨。

十月十九日 陰。升允夫人の計に至る。午後同文会に田鍋を訪ふ。吉田外務書記官來訪。五時帰る。

十月二十日 微雨。午前小石川に加藤壯太郎を訪ふ、在らず。待つ之を久ふす、帰らず。去て村山正隆を訪ひ小談。去て春日町に中食し、荒賀に抵る、不在。熊谷直亮を訪ひ寛談。去て清風亭に中西正樹を訪ふ、在らず、三時帰る。中西來訪せりと云ふ。上海波多の信至る。

十月二十一日 陰。波多に復書し、軍令部田中大佐に致書す。池畑利吉、横田定雄の紹介にて來訪。午前理髮。池畑上海行に付き渡辺喜助、佐々布に紹介す。

十月二十二日 快晴。上海佐々布、加藤壯太郎の信至る。午前坂田長平來訪、大倉組に入社に付き身元保証を請ふ。十一時五分の汽車にて家族同伴東京駅より横須賀行汽車に乗り、午後一時鎌倉着。八幡前の松岡に投じ中食し、馬車を賃し四人同乗源頼朝公の墓を展し、去て二階堂ヶ谷に鎌倉宮を拝す。大塔宮を祀る背後に牛車有り。陰暗くして迷深、拝観の余毛骨慄然、感慨久之。社側に村上義光と大塔宮に奉侍せし宮女南の方を祀る。去て鶴が岡八幡宮を拝す。国幣中社にして応神天皇、神功皇后を祀る。社前石階の側に銀杏樹有り。別当公暁が三代將軍実朝を殺すの処。去て小袋坂を越へ建長寺に至る。北条時頼の建立にして開山は道隆禪師なり。鎌倉禪宗五山の第一に居り殿宇寛大。庭前に老柏数株有り。支那の産にして宋元時代の物。本堂に頼朝が富士の卷狩に使用せし陣太鼓有り。道を転じて長谷寺に至り観音の立像を見る。長二丈六尺、大和長谷寺の観音と同木の刻。金色燦然、千余年前の遺物なり。鎌倉に於ける最古の寺なりと云ふ。此地前に由比ヶ浜、稲村ヶ崎を望み、眺望佳絶、鎌倉の全局襟帯の下に在り。去て長谷大仏を観る。長五丈、圍十六間二尺。源頼朝建長四年鑄造する

所、六百六十余年を経、国宝に指定せらる。五時停車場に達し乗車帰京、七時家に到る。中西正樹来訪せりと云ふ。夜腹痛下痢五回に及ぶ。

十月二十三日 快晴。終日静養。白岩、竹内直哉に詩信を發す。田鍋の信至る。

鎌倉舞殿即事

源氏峯高圧四方、鎌台秋色引興長、芳山踏雪事千古、舞榭無人立夕陽。

村上義光卿の詞を拝して

君かため心芳野の花と散りし香しき名は千代に八千代に

芳野山桜と散りし武士の清き心は世のかしみなき

十月二十四日 陰。千浦友七郎に致書。午前藤瀬政次郎を三井に訪ふ、在らず。帰途尾越辰雄を中橋和泉町に訪ひ小談、去て大倉に大倉幸七郎、川口市之助、脇坂岳虎を訪ひ、正午帰。上海八田厚志の信至る。夜八田中佐来訪。

十月二十五日 雨。神寄正助、多賀宗之、松倉善家に致書す。吉川深三郎、中野二郎の添書を携へ来訪。小幡惟清殿君の訃至る。小幡に弔詞を發し奠儀を送る。高見祖厚翁の弔詞を嗣子安次に致す。

十月二十六日 雨。午後放晴。吉川深三郎の信至る。上海井手三郎に致書す。夜家族と芝公園に散策す。

十月二十七日 晴。午前駿河台杏雲堂病院に至り佐々廉平の診察を受け腎臓病なることを知る。春日町に中食。小此木病院に院長を訪ふ、在らず。去て茗荷谷有斐学舎に猿渡を訪ふ、在らず。中西正樹を清風亭に訪ひ小談、共に出て中野二郎、荒賀直順を訪ふ、皆在らず。中西と別れ帰る。上海古賀末蔵の信至。

十月二十八日 風雨。日曜日。午前荒賀来訪。上海東、和辻、古賀に致書す。午後芝公園に散歩す。

十月二十九日 陰。午前同文会に根津、田鍋を訪ふ。

十月三十日 晴。午前小此木医院に至り院主を訪ふ、不在。午後内人と目黒植物園に散策す。京都有吉明に致書す。

十月三十一日 晴。天長節。午後内人と高輪に散歩す。夜脇坂来訪。大井五郎の信至る。之に復す。上海篠寄に致書す。

十一月一日 半晴。午前家族と上野に文部省絵画展覧会、並に化学工業博覧会を觀、精養軒に中食し、五時帰る。渋谷作助来訪せりと云ふ。

十一月二日 雨天。平川清風、吉川深太郎、松倉善家の信至る。渋谷作助、八角三郎来訪。午後大江岳母君死去の電に接す。海軍森山少将、田中、八角両氏、並に有吉、白岩、渋谷、宮島に致書、帰熊を報ず。明日の急行にて熊本に帰り岳母の喪に走らんとす。夜行装を治す。

十一月三日 晴。前八時半の特急列車にて妻孥相伴ひ東京を發し熊本に向ふ。京都を過ぎて寝台に入る。狩野、鳥居に致書。

十一月四日 微雨。午前九時半下ノ関着。十時半門司に渡り、同四十分の九州線急行にて發す。午後三時十三分上熊本着。菅村、田中、河口来迎。上車碩台町の菅村宅に入り服を改め大江に至り葬儀に列し、夜九時帰る。

十一月五日 陰、寒。田中清司、笠某、松山嘉一郎来訪。午後大江に墓參す。

十一月六日 微雨。齋藤雅方来訪。午後家族と河口宅を訪ふ。晩食の饗を受け、九時帰。

十一月七日 晴。朝古莊韜来訪。午前松倉善家を春日に訪ひ、正午共に出て鰻飯を吃し、二時分手。幸橋を渡り城内を通過して帰る。大江に至り墓參。江良惟翁来訪。

十一月八日 微雨。午前山田珠一来訪。午後松倉、河田崑、田中清司、谷口源吾来訪。五時大江の初七日法会に列し、九時帰。

十一月九日 陰。午前緒方二三、江良岱南を訪ふ。上海篠寄、波多、八田、櫻木俊一、丈夫に致書す。

櫻木には谷口源吾の履歴書を郵送す。秦長三郎京都に於て死去の訃に接す。

- 十一月十日 陰。午前佐々布遠、園田郭六来訪。夜大野謙次郎、井上致廣来訪。
- 十一月十一日 半晴。午前米原繁蔵を訪ひ、晌午辞出。歩いて春日駅に至り十二時半の汽車にて宇土に至り、法華寺城山の先塋に謁して宇土駅に帰り、小憩。途中田中重に邂逅す。三時十七分の汽車にて熊本に帰り、春日に松倉を訪ひ、共に出て呉服町に至り鰻飯を会食し、相伴て大野謙次郎を本荘に訪ひ寛談、八時半帰る。井手三郎上海よりの信至る。
- 十一月十二日 晴雨無定。午前脇坂岳虎の敵君来訪。夜丈夫の電至る。上海波多、大西、井手、鹿児島古閑信夫の弔詞至る。
- 十一月十三日 晴。午前阿部野来訪。井芹の留守宅を訪ふ。午後大江に至り入浴。上海波多、八田、東京留守宅の信至。
- 十一月十四日 晴。午前忝倉来訪。午後忝倉、菅村と拝聖庵に長江虎臣を訪ふ、在らず。夜家族と田中清司宅を訪ひ、九時帰。米原夫婦来訪。
- 十一月十五日 晴。浅井寅喜の信至る。午前内人と広丁より軽鉄に乗り射場坂に下車し、牧崎、島崎方面に散歩し、上熊本駅に帰り寅屋に中食し、帰途佐々布、園田を訪ひ、去て井上致廣、古荘韜宅を訪ひ、大江に墓参し、六時半帰。
- 十一月十六日 晴。午前小早川、山田珠一、板井を訪ひ、河口宅に中食して帰る。五時永原虎雄を訪ひ、去て田中清司宅の晩餐に赴く。九時帰。石原醜男来訪せりと云ふ。
- 十一月十七日 晴。朝大江に至る。是日養子田辺丈夫を宗方家に入籍の手續を了す。河口介男来訪。午後大江に墓参し、河口宅を訪ひ、帰る。忝倉善家、岡本大八来訪。晩河口、内田、田中、菅村を誘ひ物産館内の鰻屋に晩食す。米原の信至る。
- 十一月十八日 晴。朝理髮。井場熊喜、吉田善門、園田郭六、内田友義来訪。上海佐々布の信至る。東京田中大佐、八角中佐に致書す。是日午後の急行にて東上せんとす。午前井上致廣、永原虎雄、石原醜男、長江虎臣来訪。長江、其獵獲に係はる秧鶏四羽を贈る。正午菅村宅を辞し、上熊本駅に至る。午後一時十四分の汽車にて東上の途に上る。佐々布遠、石原醜男、眞鍋翁、河口、内田、菅村、田中三夫婦、井場、米原夫人等来送。五時四六分門司着、直に下関に渡り七時十分の特急車に乗じて発す。
- 十一月十九日 晴。詰朝須磨、明石を過ぐ。午後四時静岡を過ぎ富士を望む。半峯以上積雪。皚然神秀の気掬す可きなり。八時半東京駅着。丈夫来迎。電車麻布の寓に帰る。波多の電報、神壽正助、辻原肋、根津一、多賀夫人、津田少佐、田辺寛忠、池畑則吉等の信に接す。
- 十一月二十日 半晴。終日在家。小早川秀雄に致書。
- 十一月二十一日 晴。朝吉川深太郎来訪。午後海軍に森山少将、田中、八角大中佐を訪ひ、去て同文会に至り寺中猪介と小談。出て名和中将を訪ふ、在らず。四時帰る。佐々布遠、石原醜男、八田厚志、鳥居赫雄に致書す。波多、坂田長平、田辺豊雄の信至る。波多より十月分二百円を送り来る。夜半波多の電報至。
- 十一月二十二日 晴。岡幸七郎の信、並に香料を受取る。川口市之助、猿渡末熊に案内状を發す。午前渋谷作助、亀井陸良を時事新報社に訪ふ、在らず、去て外務省に小幡政務局長を訪ひ小談、去て白岩を訪ふ、在らず。亀井、白岩に致書す。田辺豊雄、柘植卯三郎、岡幸七郎、辻源助に致書す。小川平吉に致書す。
- 十一月二十三日 陰。小川平吉、内田友義、佐原篤介の信至る。午前渋谷作助、八角三郎来訪、渋谷を留て中食す。午後渋谷と外務省に小幡政務局長、栗野を訪ひ小談、去て交詢社に亀井を訪ふ、在らず。小川節、渋谷と茶店に投じ吃茶、三時帰る。
- 十一月二十四日 晴。猿渡末熊の電至る。午前白岩龍平来訪。秦長三郎の未亡人に弔詞、並に奠儀を送る。夜川口市之助、脇坂岳虎、田中一郎を芝公園三縁亭に招き会食し、八時散ず。脇坂、田中来談。英国上妻博路の信至る。

十一月二十五日 快晴。小川平吉の案内状至る。之に復す。午前丈夫の実兄、田辺豊雄習志野より来訪、中食を共にす。午後川口市之助夫婦、亀井陸良来訪。白岩の案内状至る。小川と先約有り辞す。夜内人と西田敬止宅を訪ふ。

十一月二十六日 快晴。井手三郎、鬼頭玉汝、大島新の信至る。午前同文会に至り、浦六郎学資九月より明年二月迄十二円を納。寺中と談じ、帰途井上清秀を訪ふ、在らず。鬼頭に復書す。波多の電報至る。之を渋谷に郵送す。大坂鳥居に信片を發す。夜小川平吉の招宴に三十間堀大村屋に赴く。権藤震二、上野岩太郎、中野二郎、菊池虎蔵同座たり。九時帰。

十一月二十七日 風塵満目。朝渋谷来訪。十二時半南鍋町交詢社に至り亀井、小幡西吉、白岩、渋谷と会食。二時半散ず。同文会に田鍋を訪ひ、四時帰。友野盛の信至。

十一月二十八日 晴。大島新、友野盛に復書す。午前東方時論記者三木喜延、菊池虎蔵来訪。晚亀雄来訪。五時軍令部森山少将の招宴に紅葉館に赴く。吉田少将増次郎、田中、増田両大佐、高倉、八角、中島三中佐、柄内海軍次官亦来会。九時半帰。波多の電至る。之を小幡、渋谷に郵送す。

十一月二十九日 晴。午前渋谷来訪。响午市原源次郎、森長次郎来訪。夜高島醇来訪。

十一月三十日 晴。午前吉川深太郎来訪。

十二月一日 半晴。午前村山正隆、森長次郎来訪。午後一時半東京駅に至り支那新聞記者団を迎ふ。記者汪漢溪以下十人、波多、佐々布東道として同来。尾越辰雄に致書す。夜更波多博来訪。雨。

十二月二日 朝雨、午に向て放晴。正午同文会主催の築地精養軒の支那新聞記者招待会に出席す。来賓として支那記者十人主客。総数五十余人なり。二時散ず。亀雄来訪。共に出て品川に至り、家屋を物色す。姚文藻の信至る。小川平吉、高島義恭に復書す。夜内人と虎門女学館西田敬止の処に至り、波多博の来るを待ち之を紹介す。十一時帰。鳥居赫雄の信至る。昨日入京せりと云ふ。之に復す。

十二月三日 晴。八角三郎、田鍋安之助の信至る。午後海軍々令部に田中大佐、八角、中島両中佐を訪ふ。夜支那懇話会。藤瀬政次郎、白岩龍平列実業家側の支那新聞記者招待に紅葉館に出席。主客五十人。九時帰る。雨。

十二月四日 晴。朝八時下谷中真島町一番地廣瀬益三に抵り受診。十時半帰。正午帝国ホテルに至り共同通信社の支那新聞記者招待会に出席。二時散ず。中野二郎と日比谷公園を散歩し、同文会に田鍋を訪ふ、在らず。書を留て帰る。途中白須直に邂逅す。夜西田敬止夫婦来訪。波多と縁談の為なり。

十二月五日 晴。海軍次官柄内中将より案内状至る。井手三郎、尾越辰雄に致書。波多、佐々布来訪。

十二月六日 晴。長崎川村景敏、上海東和洋行、並に海軍省副官に致書。安河内弘、薛徳樹来訪。午後吉田増次郎、藤瀬政次郎を訪ふ、在らず。去て安達謙蔵を広尾に訪ひ小談、転て高輪に竹下中将勇を訪ふ、不在。四時半帰。波多、佐々布来訪、之を留て晩食す。

十二月七日 積陰。正午新橋江木写真館に至り支那新聞記者団と共に撮影す。是日午後波多の結納品を西田敬止宅に送る。井上致廣の信至る。之に復す。六時高島醇結婚披露の宴に内人と共にステーションホテルに赴く。高砂、狸々二番の囃子有りて後、食堂に入る。来賓多し。十時散ず。是夜七時半支那記者団退京。

十二月八日 晴。島田數雄、有留重利の信至る。午前理髮。亀井陸良、實相寺貞彦、渋谷作助に波多結婚の案内状出す。荒賀直順、大塚成幹来訪。大塚上海行に付き佐々布、井手に紹介状を与ふ。

十二月九日 晴。前十時喜多舞台に至り七騎落、柏崎、狸々の能を観る。荒賀直順来会。午後三時終る。内人と巢鴨丸山町一番地に亀雄を訪ひ、五時帰る。田中少将耕太郎、飯塚卯三郎、田鍋安之助来訪せりと云ふ。波多京都よりの信片至る。

十二月十日 晴。午後大井五郎、波多博来訪。五時柄内海軍次官の招宴に水交社に出席す。同座は小田切萬寿之助、江口定條、三宅川百太郎、高木陸郎、木幡恭三、小村俊三郎、秋山某、此他森山、吉田両少将、増田、古川、八角、中島、津田等の大中佐なり。八時散ず。加藤壯太郎巖君死去の訃至る。

吉川深太郎の信至る。

十二月十一日 晴。上海有吉領事に致書す。午前海軍省に山屋軍令部次長、竹下中將、森山、吉田、田中三少將、柄内海軍次官、八角、中島、菅沼等の知人を訪ひ告別、坂本副官の処に小談。去て外務省に小幡政務局長、武者小路書記官を訪ひ、去て同文会に中食し、根津一氏を訪ひ、三時三井物産会社に藤瀬政次郎、田中文蔵、小田柿捨次郎を訪ひ、三時半帰。夜波多来訪。

十二月十二日 晴。午前日本橋、銀座に至り旅行用品を購ふ。佃信夫来訪せりと云ふ。午後波多来訪、四時内人と波多を同伴赤坂田町の八百勘に至り、波多と西田敬止の三女と結婚式を挙ぐ。予、内人と之を媒酌す。西田家の親族、並に亀井陸良、實相寺貞彦、渋谷作助參列、八時半散ず。

十二月十三日 晴。午前加藤壯太郎を小石川林町を訪ひ、其の巖君を晤す。正午帰る。安達謙蔵、西田敬止来訪せりと云ふ。午後安達の晚餐案内状至る。之を辞す。二時内人と川口市之助を原宿に訪ふ、在らず。長崎土佐屋に信片を發す。晚佃信夫来訪。

十二月十四日 晴。午前宮島大八来訪。午後行装を治す。海軍より明年正月至三月手当九百円を送り来る。夜田中、川口、波多夫婦、西田夫人来訪。微雨。

十二月十五日 晴天。支那行の途に就く。早起結束、七時半家を辞し東京駅に至り八時半の特急にて發す。丈夫、荒賀、佃信夫、波多、根津一、安河内、中島中佐、田中、渋谷、田鍋、西田夫人、波多夫人、丈夫、清子来送。七時京都を過ぐ。狩野直喜、鳥居赫雄に信片を發す。九時入室。

十二月十六日 陰。三田尻朝食、小野に至れば微雪有り。九時半下関着、海峡を渡る時急霰如注、寒氣□巖。門司にて東京宅に信片を發す。十時四十分長崎行の急行車にて門司を發す。博多中食。鳥栖にて松倉に信片を發す。五時五分長崎着、土佐屋に投ず。入浴、晩食後出て□類を購ふ。熊本内田、河口、田中、菅村に致書す。

十二月十七日 陰。朝理髮、行李を理す。午後二時土佐屋を辞し、八幡丸に上る。和田正世、副島綱雄、秋山晃禧等と同船たり。夜半風濤甚激。長崎にて内人、白岩、河口に信片を發す。

十二月十八日 陰天。海波極高、船体揺動。朝来臥床、夜に入て少しくも息まず。

十二月十九日 晴天。風濤依然衰へず。午後二時半上海に達す。井手友喜、島田数雄、佐々布質直、八田厚志、林出賢二郎、平川清風等来迎、三時半東和洋行に入る。薛徳樹、西本、八田、大西、佐々布来訪。佐々布を留め晩食す。川島浪速、深沢瀧、湯川夏生、渋谷作助、木幡恭三、下田佑、篠原邦威、青柳六輔、有野学等の信に接す。

十二月二十日 陰。午前有吉領事を訪ひ其の巖君を晤す。帰途藤村義朗、姚文藻を訪ひ、去て領事館に岸、原田、林出、伊藤を訪ひ、上海日報に井手友、島田を敲き帰る。午後豊陽館に白木少佐、弓術俱樂部に財津を訪ひ、去て佐原を敲き、俱樂部に至り藤村等と二時の小汽船にて練習艦隊旗艦盤手に司令官鈴木貫太郎氏を訪ひ別を叙し、帰途浅間艦に内田艦長を訪ひ帰る。此の二艦は本日出港する者なり。篠寄、秋田、井手三郎、八田厚志を歴訪して帰る。坂田長平、大塚成幹、平田久、山田謙吉来訪。夜京大文科助教鈴木虎雄来訪。

十二月二十一日 陰。八田来訪、之を留て中食す。篠寄夫人より鵜糟漬一樽を贈来。東洋協会に三月至十二月会費五円を郵送。海軍に東部蒙古事情一冊を返納す。午後山田謙吉、友野、篠寄来訪。夜櫻木俊一來訪。

十二月二十二日 陰天。午前領事館に原田、林出を訪ひ、上海日報に小談。十一時三井銀行武田信一の開店披露の茶会に出席、正午帰。八田来訪。十二月分手当を領事館より受取る。是日東京山屋、柄内、竹下三中將、田中、吉田両少將、坂本大佐、並に留守宅に冬筍を郵送す。姚文藻来訪。沙市迎英輔に致書。平岡小太郎来訪。夜佐々布、平川、西本、大西、武田を訪ふ。

十二月二十三日 晴天。日曜。午前松永恒信、西山武八来訪。東京留守宅と海軍々令部に書信を發す。今井嘉幸、田中清司の信至る。午後江口良吉来訪。出て武田寛二郎、八田、櫻木、村上、神寄、平岡

を歴訪す。五時神寄来訪。晚上海日報社の忘年会に杏花楼に出席、八時半帰。

十二月二十四日 晴、寒甚。正午亜洲日報の忘年会に三馬路小有天に出席。帰途亨太利にて白銅表を購て帰る。四時有吉を領事館に訪ふ。南京中川外雄の信至る、之に復す。亜洲日報社より歳暮の礼として銀五十元、時報館より菓物二簍、副島綱雄より煙草一箱を贈り来る。夜八田来訪。

十二月二十五日 晴。是日基督祭日。午前井手三郎、浦六郎来訪。午後井手に抵り東京宅送りの衣服を托す。大島新、友野盛、並に神州日報余洵来訪。東方時論社三木喜延の信至る。西本来訪。

十二月二十六日 晴、寒。午前山田謙吉来訪。午後室内の洒掃を為す。平川清風来訪。内田友義の信至る。

十二月二十七日 晴。九時井手の帰国を熊野丸に送る。午後根津一氏を迎ふ。船入港せず。八田来訪。是日年賀状若干を發す。

十二月二十八日 晴。年賀状を發す。午前余洵来訪。正午日本人倶楽部に至り角田隆郎の帰国餞別の為め土井、沢本、青木、古莊、勝木等と会食。散後有吉を訪ひ小談、帰。狄平に致書す。

十二月二十九日 晴。午前和田正世来訪。神州日報余殼民氏に致書す。内外知人に年賀状を發す。午後角田隆郎、水野梅暁の帰国を近江丸に送り、帰途井手友、白木を訪ひ帰る。内人、並に菅村夫人の信至る。内人の信養子の事に及ぶ。

十二月三十日 晴。終日在寓。井手清来訪。時報館より半年分三百元を送り来る。夜篠寄来訪。軍艦千代田本日午後二時入港せりと云ふ。八角參謀より電話有り。

十二月三十一日 晴。午前八田来訪。午後理髮。豊陽館に八角を訪ふ、在らず。西本省三、石井則之、八角中佐、白木少佐、平川清風来訪。石井より別府の温泉飴を送る。夜山口啓三来訪、鮭筋子一樽を贈る。是夜大正六年除夕、一燈兀坐守夜、至十二時就寝。